

# 川柳塔

創刊大正十三年 通卷一二八号



日川協加盟

No.1118

七月号

— 路郎賞・川柳塔賞の応募は

八月号の刷り込み用紙で —

- ① 川柳塔欄・水煙抄欄に6か月以上、出句した人に応募資格を認める。
- ② 令和元年9月号から令和二年8月号までの入選句（自分の句を出句する）
- ③ 8月号刷り込み用紙に5句を楷書で書き8月10日必着のこと。

昨年九月から今年八月の間に  
誌友から同人になられた方へ

「路郎賞」「川柳塔賞」のいずれか月数の多い方を選択して応募して下さい。

ただし「路郎賞」には川柳塔欄作品から、「川柳塔賞」には水煙抄欄作品からの応募となりますので、間違いないようお願いいたします。

選者交代のお知らせ

九月号（七月投句締め切り分）から来年八月号までの選者を次の通り交代します。

水煙抄 西出楓楽

檸檬抄

石橋芳山  
古今堂蕉子）共選

川柳塔社

「檸檬抄」課題

共選

発表	月	課題	締め切り日
2年	9月	起伏	7月15日
	10月	エール	8月15日
	11月	したたか	9月15日
3年	12月	太い	10月15日
	1月	覚悟	11月15日
	2月	ゆらゆら	12月15日
	3月	呼ぶ	1月15日
	4月	再生	2月15日
	5月	弾く	3月15日
	6月	リアル	4月15日
	7月	微妙	5月15日
	8月	縫う	6月15日

# カセットテープ

小島 蘭 幸

外出自粛が続く中、古いカセットテープが出て来ました。その中には、平成11年3月20日に開催された川柳塔創刊75周年記念川柳大会の橋高薫風主幹のあいさつと作家織田正吉氏のおはなし、そして私が選をした課題「竹」の披講が録音されていました。

51歳の私の披講を聞いていると勉強になることが多々ありました。1. 披講の前の挨拶は簡潔に、2. 入選句の披講は最後の一字までハッキリと発音しているか、3. 披講、呼名、披講の間合い、4. 披講補助との間合い、5. ユーモア句をどこに置るか等々……。

課題「竹」佳句が沢山ありました。ちなみにどつと笑いが起きた作品は

竹割ったみたいな人や空っぽや 藤原 一志  
竹踏み毎日百回ダイエツト撈らす 河内 天笑  
竹光のような夫とお汁粉屋 山崎寿々子

21年の歳月は重く深く、故人となられた皆様の呼名に涙が溢れます。

竹人形腰のあたりが美しい

小西 幹斉

竹藪をくぐると無垢になれそうだ

森井 菁居

木に竹を接いで新世紀に生きる

春城武庫坊

地下茎はスクラム組んだ竹の天

林 荒介

雪折れの竹の下には父の墓

牛尾 緑良

竹馬が出来ぬ息子の一輪車

坊農 柳弘

笹酒を飲んだ長生きできそうだ

高須賀金太

竹踏んでいのちのほかになにもなし

泉 比呂志

竹の皮に包んだ梅紫蘇よ母よ

前田 咲二

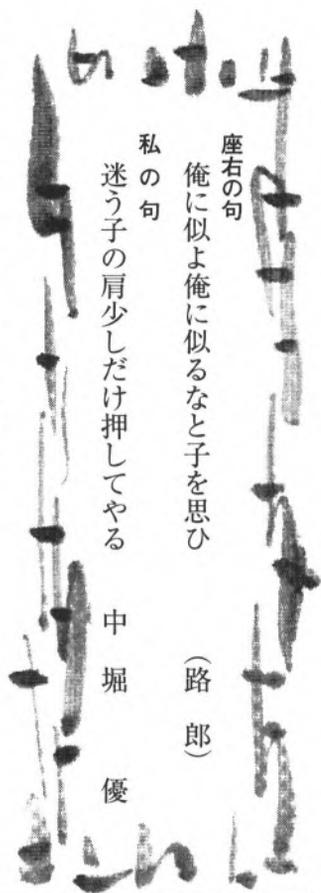
情熱を少し下さい火吹き竹

川上 富子

竹藪で暮らす臆病な翁

田頭 良子

創刊75周年記念大会特集は、川柳塔、平成11年5月号に掲載されています。薫風主幹のあいさつ、作家織田正吉氏のおはなし、是非この機会に再読していただきたいです。記念大会の参加者は425名でした。竹原川柳会から私を含めて5名が出席しています。おそらく蘭幸が選者だからと応援してくれたのだと思います。残念なことに3名は故人となられました。しかし、熱い思いは私の中で生き続けます。頑張ります!!



座右の句  
俺に似よ俺に似るなと子を思ひ  
(路郎)

私の句  
迷う子の肩少しだけ押ししてやる  
中堀 優

## 川柳塔 七月号目次

題言・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「子どもヨット教室 淡輪ヨットハーバー」

■巻頭言 カセツトテープ……………小島 蘭 幸 ……(1)

私の三刀流……………逢 地 至 ……(2)

川柳塔 (同人吟)……………小島 蘭 幸 選 ……(4)

川柳塔の川柳讃歌 ⑧……………木津 川 計 ……(40)

橘高薫風句抄……………(41)

自選集……………(42)

句集の森……………西 村 梨 里 ……(45)

温故知新……………(45)

水煙抄……………川 上 大 輪 選 ……(46)

英語 de Senryu ⑩……………吉 村 侑 久 代 ……(65)

誹風柳多留一二篇研究 85……………(66)

愛染帖……………新 家 完 司 選 ……(68)

### 私の三刀流

逢 地 至

「コロナ禍の街を喪服の人が行く大往生と小声が洩れる」という歌ができて、川野里子選で読売新聞西部本社版で活字にしてみました。六〇代の甥が、大往生とは言えぬ死を迎えた日にできた歌であった。

このたびの「コロナ禍」を、私は「コロナの役」と名付けているが、それはともかく川柳には扱いにくいと思っている。「コロナ禍を車掌と語る終電車」は某新聞で、「幽玄」の言葉を思い出した」と評がついて大きな活字になって、五六人の人から「見たよ」と言われた。「幽玄」には「ソーカナア」というのが私の思いだが、選者は編集部の人達だから、それも一つの読み方であろう。

川柳という文芸には、いくつかの役割というか存在価値があるのだが、短歌や俳句にくらべると、メディアでの位置は安定していない。朝日新聞、毎日新聞、読売新聞の全国版には、川柳はない。

平成23年12月号の「川柳塔」に、エッセイ「私の二刀流」をのせてもらったの

檸檬抄「さらさら」	水野黒兎・鴨谷瑠美子共選	(72)
一路集「騷ぐ」	藤田武人選	(76)
「酢」	川島良子選	(77)
初歩教室「魔法」	高瀬霜石	(78)
川柳塔鑑賞	緒方美津子	(80)
水煙抄鑑賞	清水英旺	(82)
せんりゆう飛行船 <sup>⑬</sup>	新家完司	(83)
インスピレーション・ナビ 印象吟	大西泰世	(84)
主幹・理事長の選任について		(86)
各地柳壇(佳句地十選) 藤井 則彦・斉尾くにこ		(87)
七月各地句会案内		(94)
柳界展望		(96)
■編集後記(ひとこと/山下純子)	朱夏・憲彦	(124)

座右の句

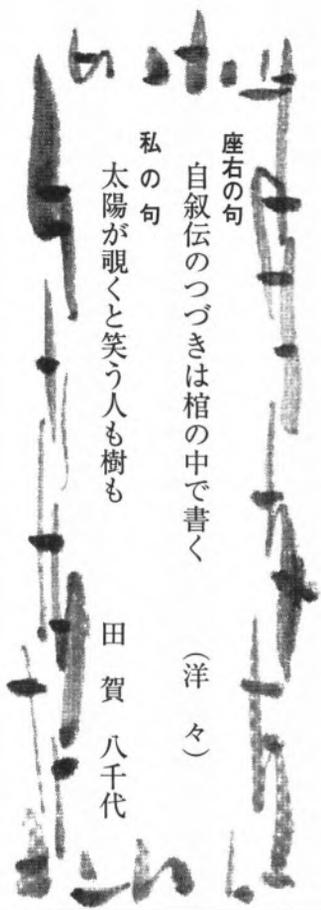
自叙伝のつづきは棺の中で書く

(洋々)

私の句

太陽が覗くと笑う人も樹も

田賀 八千代



だが、最近では、三刀流になった。三刀目の俳句は、空砲が多いのだが、「大寒や願書へ父の判を待つ」がブロック紙の読者文芸の年間ベスト5に入って、びっくり仰天であった。

『NHK短歌』と『俳句あるふあ』(毎日新聞出版)を読んでいるが、私なりにおもしろい。新聞の読者文芸の短歌や俳句も、いわば御同輩の作品で時に頭をかしげながら楽しく読んでいる。

佐賀県東松浦郡久里村がもとの本籍だが、久里は相知町になり唐津市になった。少年、青年の頃は、相知<sup>々</sup>で七年間の汽車通学、汽車通勤が私の心身の形成に大きな役割を果たしたと思っているのだが、「逢地の里」という農産物直販所の看板を見て、「逢地 至」というペンネームを思いついた。

小学校に入るまでは虚弱児であったが秋には八十八という年齢が来る。県立学校を定年で退いたのは平成五年であったが、昭和八年生まれの平成の天皇は、あれだけの大仕事を果たされた。

昭和、平成、令和と三代を私も生きていくわけだが、着地の日もそろそろであるうし、三刀流がいつまで使えるものやらである。

(仁部 四郎)



小島蘭幸選

豊中市 藤井則彦

反骨を続けた背なは曲げるまい  
コンサートはベートーヴェンの顔で聴く

神仏の御加護に任せさあ自粛  
読むほどに名句と仰ぐ師の色紙  
一心に夢追いかけてまだ傘寿  
一芸に秀でてるものみんな持ち

大阪市 平井美智子

よく笑う花の涙を見てしまふ  
なだめでも独りあきらめても独り  
一日の長さに耐えている金魚  
じわじわと体内時計狂い出す  
運命線の先に小さな虹が立つ  
履歴には鳥であったと書いておく

松江市 石橋芳山

凶暴になろうとしているドアチェーン  
沈黙に菌形だけでも残せたか  
ヌルヌルでギタギタ擬態する噂

いずまいを正し続けるパンの耳  
快樂を探し求めて森の奥

女つて形で死んでいる蝶々

米子市 吉田陽子

老いて行く道に通せん坊は居ず

騙されてあげる元気でいるうちは

ペット売り場に長居は無用情がわく

特別措置として筆箱に体温計

出来るなら今こそ地球丸洗い

追伸にもう逢いたいと書いてなし

大阪市 谷口義

初夏の風全身で受けているマスク

とり敢えず今日は川柳を作ろう

電話代ぐらい知れてるでと長話

最後には私がないシナリオだ

只より高い物はないマスクに拾万円

コロナ騒動過ぎればみんな太った

大阪市 栞尾 奏子

私は女であると知る朱色  
奪えないだから欲しいのですあなた  
抱かれても抱いても一番になれぬ  
低気圧ワタシを籠に変えていく  
唇にメロディー指先に毒牙  
美しい老婆は過去を語らない

橿原市 居谷 真理子

ただ一人若葉の笑い声を聴く  
たつぷりの供華とコロナの日々に耐え  
労働を知らない美々しい筋肉  
酔わないと電話もくれぬ人でして  
愛なんてベットショップで売ってるよ  
ベンチまで散歩鬼平ポケットに

河内長野市 山岡 富美子

ウイルスはノーです三国志の聖地  
不安感つゝのる忍者のような菌  
一輛に電車は五人ほどのせて  
手作りのマスクは友の応援歌  
三密のテレヴィとパソコンとわたし  
メイクより今はひたすら手を洗う

奈良県 長谷川 崇明

ピンク色今年は寂し春の画布  
メーデーもスポーツもなし五月風  
知ってから謎深まったコロナです

自肅中向こう三軒みなひとり  
歓送迎会なかに混じっていた悪魔  
コロナ禍に首長器を試される

箕面市 中山 春代

長電話「ところでマスク足りてるか」  
朝二錠今日の用事はこれつきり  
故郷は進入禁止鯉のぼり  
県境をまたぐつばめの宙返り  
せっけんの匂い五枚の布マスク  
再起動消しゴム全部新にする

河内長野市 森田 旅人

ひっかかる言葉煮てみる焼いてみる  
許さないわたしのままでいたいから  
家族写真撮りたいなどと病む夫  
いい日だな食べた歩けたちゃんと出た  
よろこびをかぞえて今日を終えましょう  
百の哀百の笑いの窓灯り

唐津市 山口 高明

黙読の漢詩李白とだけ解り  
我が領土広い地球に五十坪  
青信号信じて渡る交差点  
試し食いなんて出さない毒キノコ  
バカ殿の逝去に日本中が泣き  
燕の巢見上げる母の慈愛の眼

鳥取市 岸 本 宏 章

ウィルスが居直る寒い寒い春  
3密を避けて孤独に耐えている  
買物弱者マスク一枚さえ買えず  
駐車場閉鎖寂しい大砂丘  
長さんに志村ドリフが懐かしい  
ど演歌が染み付いている僕の部屋

羽曳野市 徳 山 みつこ

庭の豌豆を剥く幸せの時間  
母の日の花籠ふわりやってくる  
コロナ鬱なる訳がない皆の声  
蜘蛛ミミズ青虫をみて庭掃除  
公園の子らうちに場外ホームラン  
投函は達成感の音がする

尼崎市 山 田 耕 治

歯医者から帰って酒の用意する  
もっと生きたい人生のエピローグ  
八十でバレンタインを買っている  
病床の友が句題を聞いてくる  
ケアハウス帰り支度で母は待つ  
締切り日三毛はあっちへ行きなさい

藤井寺市 鴨 谷 瑠美子

無罪放免玄関口でマスク取る  
ゆっくりと踊れるように螺子をまく  
高齢化次の世代が居なくなる

言葉では負けた内容では勝った  
折り鶴にコロナ終息込めている  
アレグロの波にも妻は動じない

藤井寺市 鈴 木 いさお

自粛して養ってます心技体  
三密の本社句会を懐かしむ  
試行錯誤しながら喜寿に辿り着く  
世渡りが器用な人と馴染めない  
断捨離の中に一度も着ないシャツ  
謹んで頂戴します給付金

鳥取県 斉 尾 くにこ

キッチンの引出しの中胸の中  
趣味ふたつあってよかった自粛の日  
寝転んで頑張る人を見てる日々  
春風が通った部屋のダイエツト  
コロナ禍の生命維持装置散歩  
じゃがいもはいつも笑った顔でいる

和歌山市 柏 原 夕 胡

紙よりも薄いごめんなさいもある  
そのままでもいいよあなたのままがいい  
踏み出せばだんだん沸いてくる勇氣  
煮崩れてコトコト丸くなる夫婦  
反省はできぬがポーズならできる  
自分には甘いが他人にも甘い

高槻市 片山かずお

句会休会会いたい人がたんといる  
テレワーク始まり駅はがらんどろ  
手作りのマスク刺繍も入れてある  
イケメンの僕にはマスク似合わない  
マスク外したお顔を見たい人がいる  
意地ですか小さいマスクする総理

三原市 鴨田昭紀

全開をしてわたくしを曝け出す  
綿密に組み立てる余生のプラン  
分け隔てなく歳月が経過する  
マップにはない人生の九十九折  
頑固さを詰めた匠の道具箱  
思春期が閉ざすころの二重窓

土佐清水市 辻内次根

開け放つ五月の風は萌黄色  
生きてきた力不足を嘔うまい  
コロナウイルスのニュースで右の肩が凝る  
鉛筆をナイフで削る雨の音  
眠ったら惜しいこの世の持ち時間  
セツトポジションで今月の投句

西予市 西田美恵子

作り笑い憶えてからの失語症  
病んでいる火種に風は送れない  
迷いの海で泳ぎ疲れた理想論

お入りなさい私の傘で良かったら  
覗き窓あの世この世の雨しきり  
溢れたら零れるそれでいいのです

大阪市 津村志華子

喜怒哀楽心の糧ぞ五七五  
世相どうあれ牡丹の花の艶やかさ  
闇の夜に小声で亡君を呼んでます  
おおきにおおきに精いっぱい感謝です  
ハルカスに首をかしげているキリン  
泣き言は言わぬこけしのおちよほ口

箕面市 出口セツ子

体力も脳も自粛で老いてくる  
収束へ成果が見えて来ぬ自粛  
不可侵の領域子にも有るのです  
当り前の日々お喋りも恋しくて  
気分転換せねば疲れが出る自粛  
人形を相手にばやくしかないか

大阪市 大川桃花

偉い先生とギョギョ語で話すサカナ君  
出してやった虹が窓から離れない  
哀愁に惹かれローカル線の旅  
一粒づつ確かめながら飲む菓  
コロナ菌炙り出す策ないものか  
コロナショック人間だけが打ち萎れ

さいたま市 星 野 育 子

東京都 川 本 真理子

新入生百人の友いつできる

ステイホーム名も無い家事が増えている

コロナ禍に米では銃が売れる訳

十万円思わず拳手の慌て者

幸せは叱られました夢の中

上尾市 中 村 伸 子

予定表五月は病院ただ一つ

テレワーク邪魔しないよう電話待つ

朝一番一人で行つてくるスーパ―

いつからか常にニュースのテレビ画面

姉危篤でも来ないでという時節

朝霞市 前 田 洋 子

桜に雪そしてすぐさま来た真夏

顔をペロペロ頼まぬネコに起こされる

月命日アアもう母も居ないんだ

ステイホーム各地の知事に目を向ける

触るなど言えば触る子そつとする

越谷市 久保田 千 代

シャワーの如くコロナのニュース浴びている

悪人が居ないドラマでつまらない

もう逢えぬ人と心に刻み去る

天国へ行く階段を昇る日

人誰もひとりで還る大地かな

白花と浮き上がるコロナの不安

振り返っては息をひそめる二週間

宇宙からの地球少しも変わりなく

つながっていると思っていない風

夕方に老母と続けるおままごと

東京都 まえで とよこ

夏日ちらほら天気予報は笑顔だが

体内へするりとはいるエイリアン

コロナ菌に勝つ日はちかい底力

防護服ぬぐひまもない治療室

レインボーブリッジ感謝をこめて青く照る

八王子市 川 名 洋 子

三步引き私の色でパワー出す

歓声を聞きたかったと散る桜

コンビニとレンジが造る独り膳

タンポポの綿毛になつて春の街

地球上どこに逃げててもコロナ菌

横浜市 川 島 良 子

スピードの速さコロナの恐ろしさ

弱点は触れずに生きる和のルール

涙腺はチャック笑顔で見送ろう

ステイホームコロナ離婚という悲劇

好き好きと嫌い嫌いは相似形

横浜市 菊地政勝

他人から見たら無駄だというゆとり

美しい老いへ気取らぬ自然体

下流でもなんとか生きる術がある

好奇心背負って脳の活性化

一泊の旅さえできず家籠る

富山市 島ひかる

黒ユリを探しつづけた日の若さ

ステイホーム庭の草花見て飽きず

八十になってファーブル昆虫記

生活様式がらりと変えたコロナ菌

過去形のはなしになる日待つコロナ

可児市 板山まみ子

戦中の親の苦勞に及ばない

爆弾は落ちず食料たんとおる

お花見もできずに終り空の鯉

思いきり空き缶蹴つてとばしたい

朝方の冷えに合わせる掛け布団

愛知県 早川遯行

欠席に○言い訳を考える

子規牧水山頭火にもなれず酔い

校庭に人影もなく散るサクラ

使っても使わなくても基本料

行く先はまだ決まらない花万葉

大山市 金子美千代

空の巢の巢籠りいかにして過ごす

大騒動のデマへ理性がゆるぎだす

ハッピーホルモン出るよう笑顔作ってる

雑談の行き場無くしてくすむ肌

行く事もかなわぬ母の七回忌

犬山市 関本かつ子

お互いに来ない行かない五月晴

かわいげがあつたバイキンマンの悪

午後からは選り取り見取りサスペンス

一生に一度としたいコロナ禍

戦争よりましと娘からメール

鈴鹿市 小河柳女

心の窓開けるとぞろり人が来る

ペン先に大きな宇宙ひそませる

雑踏で心がふわり浮いている

公園の木々に心がとまっている

もがきもがいて透明になりました

和歌山市 上田紀子

ニュース聴くたび辛くなる新コロナ

食通の最後は水に辿りつく

ゆったりと時が流れてゆく春日

春や春明るいニュース待つてます

何よりのプレゼントですマスク縫う

和歌山市 喜田 准 一

下の句が巧く出来たと胸を張り  
当分は待つて下さいコロナ災  
本題を外れてやんやの盛り上がり  
健康でつなぐ絆は太くなる  
やさそばにあわびを混ぜて天下一

和歌山市 坂部 紀久子

天国はコロナどうかと亡夫に聞く  
長電話になるからこちらから掛けぬ  
一段とやつれた体湯に浮かべ  
まだら惚け子の信用もうすれ行く  
本当に忘れたのです納税日

和歌山市 土屋 起世子

人影が無くても校舎陽が昇る  
休校の子等挨拶の散歩道  
積んだ本外出自粛ページ繰る  
人通り避けて杖つく自尊心  
横着も整理も自責独り住む

和歌山市 福井 菜摘

決めたのは自分振り向くことはない  
ゆったりとローカル線で風を読む  
然りげない一筆箋に夢もらう  
あと少し光っていたいペダル漕ぐ  
さくも母も散って思いを深くする

和歌山市 古久保 和子

葉桜になって踏ん切りまだつかぬ  
定刻にバスが来たから明日は雨  
似顔絵の正直すぎは嫌われる  
一日の終わりは尻尾整えて  
味気無いポスト四角になってから

和歌山市 堀 富美子

時よ走れコロナの終息待っている  
人恋しマスクが口を開かせぬ  
花束が届き母の日気付かせる  
終息へあとのプランの電話口  
コロナ地震洪水令和が揺れる

和歌山市 松原 寿子

残り火を使い切る日へ抱く望み  
思い出を辿ると夏が深くなる  
ひとりじゃない柱時計が歌い出す  
何よりも元気が宝五七五  
運転しないと決めていたのにひとつ飛び

岩出市 藤原 ほか

ウイルスに負けないように塩をまく  
巣籠りでぱっと弾けてみたくなる  
健康のために階段上り下り  
深呼吸して寿命を伸ばしてる  
塩を盛りコロナどうにか乗り越える

海南市 小谷 小雪

津々浦々大変だよと山笑う

新型を撃つ手洗いとひきこもり

マスクしても心と心寄せ合おう

一人にも会えないなんてつまらない

ステイホーム命令形を呑み込んで

紀の川市 山東 日出男

密室のないしょ話は避けましょう

谷あいに響く蛙のブロボーズ

広告にもたれて走る市営バス

平等と言えそうにない給付金

自粛生活問われています夫婦仲

橋本市 石田 隆彦

コロナ禍にマスク姿の村地蔵

観光減街へ出かける奈良の鹿

土と組み僕の自慢の旬野菜

吸い逃げる寸前ピシヤリ蚊よごめん

京都市 清水 英旺

コロナの副作用女房の長電話

マスクして出社化粧はオフィスで

来し方を云々すれば愚痴になる

官邸に裸の王様住まいする

人は人已は己と醒めている

京都市 藤井 文代

この分では感染症で間引かれる

戦中育ち自粛ムードも苦にならず

ポストにマスクアベノじゃなくて姪からだ

政治家を試してるのかコロナ菌

先走る報道に負けじとコロナ

長岡京市 山田 葉子

おいしい顔見たいグラタン作ろうか

得意料理鯛の天麩羅とは言えぬ

ひとりなら出歩いたつていいみたい

似た暮らしの記憶が残る戦中派

かけ声をかけて洗濯干している

八幡市 今井 万紗子

長い道まだまだ余白ある日記

ときめきも脈の乱れが邪魔をする

あの人も天声人語声出して

マスク作り孫の笑顔が見たくつて

人の恩いつばいもろて生きている

大阪府 米澤 俣子

人間のいのちを試す新コロナ

季は移るコロナの世とも知らぬげに

身の丈のプライドだけはいつも持つ

挿し木の薔薇に奮元気を貰う

先は先今を大事に私流

大阪市 磯 島 福貴子

マスク越し何方ですかと目を凝らす  
今はただ生かされている幸思う  
SNSで家族の絆深め合う  
劇場ジムホールにもなる我が茶の間  
補聴器を嫌う夫が恨めしい

大阪市 岩 崎 玲 子

春なのに手帳に予定ない今年  
春の花遠慮しながら咲いている  
世の中が止まると人も萎えてくる  
ステイホームコロナがわたし肥えさせる  
ワイドショー見ると疲れすぐ消すの

大阪市 内 田 志津子

幕場より静かな街でソロライブ  
行った気で地図いっぱいにローカル線  
背景を知って採点甘くなる  
みくじ大吉笑顔になった雪月花  
何にでも変身できる孫である

大阪市 宇 都 満知子

カーネーションの日に紫陽花が届く  
気をつけて子に言われるも温いこと  
この難儀だれも悪くはないのです  
手を止めて聞き入るニュース二人して  
出来ること手洗いうがいだけなんて

大阪市 江島谷 勝 弘

有意義に十万円を遣います  
十二時間ハシゴしたけど無事帰宅  
五歳児め爺の弱みをつつきよる  
御堂筋歩いた頃が華だった  
あと十年ヒト科卒業したくない

大阪市 榎 本 日 出

何時の間に母に似たのか腰曲り  
子が二人今では逆に親育て  
ラーメンを食べに戻ったかぐや姫  
おかしいが可愛くもあるよっぱらい  
焼芋の匂いに負けてまた買った

大阪市 榎 本 舞 夢

柳誌届き自分の名無く大シヨック  
コロナ自粛家事整頓と反省と  
次から次身辺整理拍車掛け  
老い二人娘心配来てくれる  
父さんも話溶け込み家平和

大阪市 大 治 重 信

公園にさよならお辞儀またあした  
泣いてると包んでくれる母の膝  
夕やけに蝶も子供も散ってゆき  
コロナ闇本を枕によく眠り  
指切りの愛が続いて白髪ふえ

大阪市 奥村五月

腕が泣く自慢の料理客も無し

天災は地球痛めた倍返し

さっぱりや娯楽集会皆駄目

コロナ菌監視カメラも値打なし

神さえもコロナ恐れて門閉める

大阪市 小野雅美

友ならばもっと忠告できたのに

原石を転がすダイヤとも知らず

トレンチコート袖も通さぬままに夏

嘘ひとつ混ぜれば痛みとれますか

カラオケの選曲で知る年齢差

大阪市 笠嶋恵美

摩訶不思議仏間で寝るとさびしい

コロナきっかけ家計簿処分五十冊

賢明に生きた子等にも有難う

コロナショック高級菓子にいやされる

友より電話肩凝り取れたあら不思議

大阪市 金川宣子

難聴の三回までは聞き返す

移すこと移されることなくコロナ過ぎ

のろろと出口見えたら来たマスク

五月病ならずに済んだテレワーク

出口見えネジが緩んだ危機管理

大阪市 川端一步

「露の臺」緋き面影をしのぶ

母の日はひ孫も連れて墓参り

父の日はもう済んだのかにて終り

南北忌道頓堀は静かなり

医は聖職コロナ終えても忘れない

大阪市 古今堂蕉子

今日明日もあさっても暇昼の月

友からマスク縫目にハートマーク見え

阪急電車喧嘩のように擦れ違う

蟻と象もコロナにかかるのでしょいか

三つ葉 紫蘇 茗荷 袖みんな好き

大阪市 近藤正

コロナには国境がない世界危機

コロナ自肅天を仰いだ鯉のぼり

文化の灯一度消したら戻れない

救える命選ぶ医療の時来たる

本整理コロナ自肅が暇をくれ

大阪市 坂裕之

体温を毎日測る習慣が

コーヒーで一休みして遣り直す

意地張って尖っついては馴染めない

負けないぞ気持ち明るく乗り越える

三密を避けるつもり公園が

大阪市 高杉 力

貴方には触れて欲しくはない憲法  
大きめのマスクが欲しい不精ひげ  
仲間とのランチ恋しいテレワーク  
昔から妻とはソーシャルディスタンス  
寄り道が好きなのもいる蟻の列

大阪市 高杉 千歩

短冊に有難う今年も無事に九十四  
笹の葉さらさら小声で歌う九十四  
みんな昭和独り願いを短冊に  
ジャンケンに弱くていつも歌わされ  
ホーム独り料理番組追いかける

大阪市 田中 廣子

我ながらなかなか巧く出来ました  
あくせくと出来ないプラン山と立て  
入学式出られぬ哀れ親も子も  
コロナ禍で公園行けぬもどかしさ  
じりじりと日焼けが恐い昼の道

大阪市 田中 ゆみ子

夏草との戦さあらい鎌を研ぐ  
前髪も切った水着も用意した  
好きなんです振り回されている猫が  
集団の恐さ黙々蟻の列

紙つぶて私を見ててくれたんだ

大阪市 寺井 弘子

終活にゆっくり行こうわたし流  
母の日はおうちランチの家族主義  
守れない約束ばかりする小指  
アバウトな考え方で生きてきた  
道草が好きで夕陽とジャンケンす

大阪市 寺本 実

コロナしか言わないニュース今日も聞く  
雑草は強い榮譽を求めない  
あと少し活断層の上に住む  
予定なし今日も散歩で自粛する  
ザワザワが好きで自粛が足りません

大阪市 中井 萌

遺伝子の違う二人で半世紀  
比べれば私の方が意地悪で  
ゆるゆると生きて巣ごもりそれなりに  
カタカナ語少し賢くなりました  
精悍な浪速の知事のしたたかさ

大阪市 原田 すみ子

大事で大好きで会うの我慢する  
今だけの竹の子春呼ぶキッチン  
かすり傷だったか御飯もう美味い  
引き籠もりご近所さえも距離がある  
皆マスク街は無口で不愛想

大阪市 平賀 国和

子や孫と画面で祝う子供の日  
春爛漫大阪城は人まばら

コロナ禍は長引くものと覚悟する

閉じ籠もり過去と未来を考える

生き方の転換迫るウイルス禍

大阪市 藤田 武人

無趣味です暇ひまヒマのボヤキ節

困難の礎に立つ三代目

玉ネギの下に隠れている手縫い

テレワーク苦手分野は子に任す

極細の白線上を歩く僕

大阪市 宮崎 シマ子

その気になろうコロナの今はホーム天国

施設内に木の一本もない沙漠

骨の無い魚を食べた漁師の娘

知から呆の世界に入ったこの葛藤

せんないのに母よ姉よと夜もすがら

大阪市 山本 加お里

まずお経唱えてからの朝ごはん

シャッター街三密守り静かです

なにかも中止で家が片づいた

五キロやせ好きな洋服着れました

頑張った結果の老後逆らわず

大阪市 横山 里子

燕などどんと見かけぬ町に住む

新緑のシャワーコロナも逃げてゆき

ひまつぶしステイホームの毛玉取り

地獄から這い上がってもコロナ禍が

袖通す母は小さな人だった

大阪市 若本 安代

この我慢潰え合う日がきつと来る

自粛疲れ弱気になった思考力

気の緩み五体のゆるみ引きしめる

ステイホーム疲れますねと風が吹く

コロナ禍に負けるものかと樟若葉

堺市 奥時 雄

脳トレのクイズで二人疲れきり

カーナビの地図はスマホに敵わない

いい機会塔誌端から繰ってみる

初歩教室今も勉強しています

マイカーもたまに走ると嬉しそう

堺市 柿花 和夫

死んだ振りして悠悠と花筏

師の影を追って浅学思い知る

モナリザの微笑を真似て自己嫌悪

呼び出しがBGMの大相撲

花は咲く歌えば涙レクエイム

堺市源田 八千代

各人が自己責任で終息へ

連休は墓参りだけして帰る

初任給より小遣いくれる孫娘

草引きと剪定作業手を借りる

花眺め若葉の下で深呼吸

堺市齋藤 さくら

暇つぶしスマホが相手してくれる

手作りのマスクに感謝して使い

間隔を空けてレジ前慣れてきた

おとなしく家に居てよと子の電話

大阪の知事に感謝をしています

堺市坂上 淳司

手指の舞い読み取る音の無い世界

ポリウムをマックスにする老いの耳

四股を踏む音が聞こえる無観客

音も無くヒト科に忍び寄るコロナ

コロナ禍で未だ聞こえないファンファーレ

堺市澤井 敏治

人類史ご破算にする新コロナ

坵こみだなんて無粋をわらう花筏

ワンチームわれら元祖とスギ黄砂

インソップもファールも見た蟻の列

四季愛でる人に好かれるヴィヴァルディ

堺市遠山 唯教

亡友がつくる湯呑みの茶がうまい

よろこびを胸にいのちの歌をきく

しあわせになろうと生きているいのち

コロナ禍に自分を救うのは自分

いざコロナ緊急事態覚悟する

堺市内藤 憲彦

コロナ禍を断つ大きな灯小さな灯

ありがとうと外では息子言うらしい

仲間には安全牌で頼られる

家訓など無くとも家族みな元氣

大国のエゴコロナ菌が苦笑い

堺市矢倉 五月

鏡に映るこれも形見か富士額

せめてもとかわいい小箱に入れるお菓

二十歳の祝少し厚目ののし袋

老いたあなたへ届ける古い子守歌

野菜食べよと無骨な父の字と荷物

池田市 太田 省三

古いギャグ飛ばす夫のしたり顔

甲子園球児の汗を待っている

仕事にも見せる将棋の二枚腰

盛り返す力与える徳俵

病室の四人に出来る連帯感

貝塚市 石田ひろ子

飼い犬にもマスク付けたい散歩道

反省はするが後ろは振り向かぬ

コロナ禍の休暇家族で大掃除

若葉風嬉しい予感する散歩

結局は自分信じるしか無いか

河内長野市 大島ともこ

香水に消えた映画のストーリー

声援が時に奇跡も呼び起こす

したたかに酔って嬉しい膝枕

何枚も舌取り替える処世術

草も木も私も蘇生雨上がり

河内長野市 梶原弘光

くしゃくしゃになつて男は巢に帰る

断捨離が捗りました自粛中

朝の5時後ろ歩きも気がね無く

裏方に徹して欲しい安倍夫人

朝穫りのきゅうりをどうぞ丸かじり

河内長野市 木見谷孝代

ステイホーム陽気に暮らす知恵さぐる

あれこれとゆるトレ指南するテレビ

一人分作るにレシビややこしい

メダカにも強者弱者の世界あり

寂聴さんの遺言集が沁みてくる

河内長野市 黒岩靖博

また今年一枚増えた診察券

月に一度夫婦仲良く医者通い

気がつけば上り下りに手摺もち

自粛三日早やストレスで口げんか

久しぶりめぐみの雨に一休み

河内長野市 辻村ヒロ

前向きな言葉聞かせて脳刺激

好奇心ちらりと老いが隠れてた

新鮮な孫の話で若返る

年毎に世間が狭くこゆくくなる

趣味あつて老いの花道まつしぐら

河内長野市 中島一彌

どっこいしょ動作のたびの句読点

雑草の庭を横目にする逃避

背伸びした時代もあつた青かった

逆立ちをすれば読めます明日の風

コロナ自粛は自己と向き合ういいチャンス

河内長野市 藤塚克三

気が晴れる記事を見つけて妻とお茶

悔しさを呑み込み明日の糧にする

おばちゃんは自粛中でも口達者

三日坊主に妻が一言やっぱりね

杖が先かおむつが先か考える

河内長野市 村上直樹

糸切り齒キラリ目に染む五月晴れ

CDの山かけがえのない青春譜

二段跳び真似て息切れする無念

コロナ禍にも妻は陽気にお洗濯

冗談でしょう相思相愛ですいまも

岸和田市 岩佐ダン吉

反論も妨害もあり川渡る

逆風の中で私の腹決まる

人間は陽気なんだがそこまでだ

雨が止むもう逡巡はしておれぬ

本当の顔私にもわからない

岸和田市 宮野みつ江

コロナ禍に春の楽しみ持ってかれ

こんな時となり近所の温み知る

ときめきの種コンビニで探します

亡父の書架「愛染」「新子」並びおり

恐怖すら覚え大きく赤い満月よ

岸和田市 雪本珠子

生きていくかぎりリスクは付いて来る

今日の日を楽しく過ごし過去追わず

ブルースを聴くたび貴方思いだす

しがらみを捨て切れなくて黄昏れる

川柳が心の糧になっている

四條畷市 吉岡修

だとしてもやっぱり遅い給付金

やまぬのは愛をなくした涙雨

天花粉母と幼い日の匂い

おいて行ったミルクの匂い孫かえる

ビー玉が我が家の床を転がってる

吹田市 太田昭

四コママンガに俺の不満をぶちまける

拳骨に小さな意地を閉じ込める

エキストラでも仲間で居たいまだ米寿

雑巾を絞り謀反を企てる

無になれずまだ煩惱の渦に居る

吹田市 野下之男

あぶないぞ音楽会も要注意

薬の名よく覚えたねよくのむの

すごいねえ日の出見る山こんな人

寒暖計ほんと静かだありがとう

部屋かたづけ大きな辞書がこまってる

高槻市 島田千鶴子

断捨離を加速している癌告知

自粛延長されど五月の明るさよ

一面の白話草よ母の手よ

言霊に魅かれ柳誌を読み耽ける

コロナ撲滅医学の進歩信じます

木漏れ日の下で輝く伸び盛り  
手造りのギフト頂く五月晴  
どことなくお疲れ気味の布マスク  
リーダーの手腕も試す魔女コロナ  
端切れからマスクへ妻の裁ち鉄

高槻市 初代 正彦

病んで知る家族の支えゆるぎない  
逆境に強い男の逞しさ  
筋トレの動画茶の間で大人気  
大切な命という字でかく書く  
歌は苦手言いつつマイク離さない

高槻市 杉本 義昭

人類は弱者コロナにお手上げだ  
ガン癒えて新型コロナ襲い来る  
かなりいる鼻出しマスク顎マスク  
天に地に命溢れて喋りけり  
マスクした女ばかりが街を行く

高槻市 富田 美義

友に会い食事したいがまだまだだ  
コロナにも耐えて悟りの窓開く  
留守電に孫の声聞く旅帰り  
弥次喜多の情緒知らぬ空の旅  
淡々と粘る私も春ウララ

高槻市 富田 保子

顔と手のしわさえなけりやごまかせる  
窓広く開けて長生き予約する  
ここだけの話になると連帯感  
血圧の話に助言どつと来る  
巣ごもりでひとり遊びが上手くなり

高槻市 原 洋志

喜寿来てもまだ年寄りにしてくれぬ  
百均の老眼鏡を各部屋に  
昨晚のメニューを妻が答えよと  
取説に足引つ張られ孫に聞く  
アナログ派ネット通販怖くつて

高槻市 松岡 篤

眼鏡かけ読めぬ漢字に虫メガネ  
爽やかに女子学生の衣更え  
この歳で犬が怖くて遠廻り  
同窓会竹馬の友と抱きあえり  
コロナ禍家がきれいになりました

高槻市 安田 忠子

子供の日爺と婆とでかしわ餅  
中止です不本意ながら合言葉  
家籠りちよつと口紅つけてみる  
空っぽの街につばめが来てくれる  
七歳と飛べば縄飛び軽くなる

豊中市 池田 純子

豊中市 上 出 修

富田林市 片 岡 智恵子

病んで知るやはり頼りは妻一人  
安倍さんの指示に従い家に居る  
自粛解く社会そろりと動き出す  
気は急ぐが足がもつれてつんのめる  
ほめられても前へ出れないシャイな僕

豊中市 きとう こみつ

誰かのためにする行動は暖かい  
目玉だらけのマスクが街を闊歩する  
あの人が濃くなる命日が近い  
老化だと思わず進化だと生きる  
さくら散る来世を信じきりながら

富田林市 中 村 恵

桜ツツジ咲く順番を間違えず  
うちの犬綺麗なお姉さんが好き  
顎の出るマスクに金をかける国  
オンライン句会これはやっぱり無理かいな  
病床の石田純一みたくない

豊中市 松 尾 美智代

花冷えの人っ子一人いない街  
言い訳の不要不急の風の中  
帰ったら荷物が軽くなっていた  
どっぷりと浸かる柔らかな哀しみ  
贈り主不明わたしに応援歌

富田林市 山 野 寿 之

コロナ疎開夫と歩く田舎道  
人間のおろかに山は笑ってる  
せめて家で春を楽しむ豆ご飯  
家の電話鳴ると夫婦で身構える  
平凡な毎日がいい柏餅

豊中市 水 野 黒 兎

全開の窓から風の笑い声  
手放せぬピアノに棲んでいる娘  
ケアハウス桜が囲むちりぬるを  
蒲公英も蓮華莖も春謳歌  
体温計チェック怠らないコロナ

寝屋川市 伊 達 郁 夫

列島に万緑という泉あり  
ウイルス禍巢籠りめいて細る食  
断捨離に無駄と惜しさがせめぎ合う  
不眠不休八十年の鼓動かな  
ボチボチで浪速商人ビルを建て

合掌の指の隙間に欲が棲む  
鍵かける寂しい人になる私  
告白をすればお腹が空いてくる  
恨み事止めたら羽根が生えてきた  
うっかりと脱いだ仮面を置いてくる

郵便物投函たのむ娘婿

寢屋川市 富山 ルイ子

投句控えパソコンに入力する

自画自讃頭を打って恥ずかしい

火の橋を渡りそこねて蹴つまずく

頂いたマスクをつけて庭散歩

寢屋川市 平松 かすみ

マスクしてみんな同じ地球人

通り抜け中止折角咲いたのに

買物も上手になった三日分

ウィルスに好かれぬようにママチャリで

体操も中止朝寝を悔いている

寢屋川市 森 茜

実直に皆で守っているルール

もうずっと逢えない美しい手紙

あったかい集いにいつも君が居た

餌あさる鳥とマスク買う列と

わたくしを許す手鏡はにかんだ

羽曳野市 磯本 洋一

昨今の味噌汁お湯でプロの味

節約を子に説教し酒煙草

病院食妻には内緒ああ旨い

春の花今年スマホで一人酒

所作に惚れうなじに見惚れ茶をすする

環境破壊にストップかけたのかコロナ

病院がいつもの病気診てくれぬ

ゆったりと流れる一日もう飽きた

老い二人炬燵片付く今日夏日

庭の樹々虎刈りになる憂さ晴らし

羽曳野市 藤原 大子

花や木に季の移ろいを知る散歩

マスク顔過ぎて互いが振り返る

コロナ禍に無言で交わす軽会釈

見えぬコロナ人と人を引き離す

営業自粛テイクアウトにみる気概

羽曳野市 三好 専平

マスクして美人になったおばあちゃん

伊達マスクこのごろ急に役に立ち

目ぐすりを入れたときだけ出る涙

ありがたや三百六十五日日曜日

古本屋京の街から消えました

羽曳野市 吉村 久仁雄

爺ちゃんがマジで叱ってくれた夏

スッピンで生きた老母のいい笑顔

アベマスクうさん臭さがあごに出る

マナーモードスマホがほっと息をつく

線上に森加計桜検察法

もう傘寿まだまだ頑張る人が居る  
東大阪市 北村 賢子

コロナにも抗いながら百目指す

巣ごもりへ嬉しほっこりする手紙

風見鶏のごとアンテナのガラス

長い一日今日はどの部屋整理しよう

東大阪市 佐々木 満 作

予定表中止の赤線が目立つ

髭剃りも三日に一度自粛中

椅子撤去スーパードパー一休み出来ぬ

四六時中無口の夫といる虚ろ

行きつけの病院コロナ禍で閉鎖

東大阪市 西村 哲 夫

やさしさの幻覚お慈悲逃げていく

公式はないぞ緞帳降りないぞ

煩惱が常に潜伏しています

順調が恐怖に変わる当たりくじ

男と女截然しない夫婦仲

枚方市 丹後屋 肇

入学式延期暴れるランドセル

テレワーク煎餅齧る応接間

漫画チックなマスクが欲しい三才児

三密へ手話が大声立てている

藤井正雄遺句集敬意込めて読む

枚方市 藤村 亜成

疫病へ蛹のように閉じ込める  
拒絶と同化その過程で生まれる詩

決別の夜が生やしている水花

目眩する体が泡の如く浮く

気が弛むと放尿したくなる

枚方市 山口 弘委智

夕陽の速度で落ちゆく軽い人生

手に掬う清水にゆれる生命線

鍵穴の奥も真つ赤な嘘である

指先に未知なる知恵と力湧く

ぶらんこの揺れこれでよし老い一人

藤井寺市 太田 扶美代

葉桜になつて諦めがついた

夕焼けを見てる嫌いでない人と

約束を想い出そうとせぬ小指

優しさに囲まれ惨めになっている

退院をほのめかす朝の献立て

藤井寺市 高田 美代子

雨は斜めに昨日のことはもういいよ

目が覚めてきのうの続き風を詠む

的外れも時々 にんげんだもの

コロナ足す熱中症じゃ画にならぬ

不自由は感じていない戦中派

朝一番新聞コロナ一覧表

緊急事態は元気に群れている

お付き合い電話とメール顔がない

ぶらぶらとただ歩いてた日の貴重

クシャミ出て花粉症です小さくなる

定年後逆さになった主導権

口下手は笑顔でカバーおもてなし

マスクして出掛け減らない化粧品

毎日の数字に踊る日本中

まだ早い叱咤されてる志村けん

樹々の新芽あざやかコロナ何のその

花の水かえて一日穏やかに

しあわせだ友が一緒に泣いてくれ

夕焼けこやけ帰らぬ人を待っている

しあわせな私がいまます水鏡

ご近所の無事を確認物干し台

高い竿拭いて久久腰伸びる

コロナ禍の仕事に敬意感謝する

コロナ禍に見頃の花を刈る哀れ

会いたいね友と溜め息リフレイン

藤井寺市 吉田 喜代子

朝顔の種と一緒に夢を撒く

貼りすぎた切手代は帰らない

屋根瓦ずれてますよとご親切

外出は強制自粛の優等生

意地悪なコロナに子等は術もなし

失敗をすれば無謀となる勇氣

鉛筆の芯に本気度試される

人の道正解見えぬまま老いる

コロナに耐えてきざしの春へ歩を運ぶ

老いが持つ唯一経験と言う味方

うつさないうつされまいと生きている

ひきこもり殆んど出番ないマスク

まだまだ続くステイホームの暮らし

母の日も自粛じしゆくで何もない

認知症にムタなおしゃべり効くらしい

正調のうぐいす長閑丘の墓

春コートステイホームで吊ったまま

ミシユランのシエフの動画で家ランチ

経済も命も重いやじろべえ

刻々と戦況聴いた日にも似て

八尾市 内海 幸生

神戸市 上田 和宏

今日一日無事であれよと起きる朝

コロナ疲れ今日は何日何曜日

一か月電車に乗らずバス乗らず

晩年とまだ言わせない意地もある

仲直り妻のサインはどくだみ茶

神戸市 奥澤 洋次郎

非正規は置き去りにされコロナの春

コロナマスク息止めている擦れ違い

ナンセンス句新しそうな感じする

うるさい手続マイナンバーは雲隠れ

五月七日まだ着きませんアベマスク

神戸市 敏森 廣光

三密を許し合うのは妻とだけ

コロナには負けてならじとバラが咲く

女性と孫にゆるゆる財布持つてます

大阪のおばちゃんが好きコクがある

通勤時間帰りは五倍かかります

神戸市 富永 恭子

繋がっています手作り弁当で

ふる里の銘菓取り寄せ懐古談

対応の遅れに我慢強いられる

草刈機の音に妹思い遣る

ウイルスの無い新札をくれと言う

神戸市 能勢 利子

小四に教わる事が増えてきた

中三は保護者のような顔をする

百歳の同じ話を聞く役員

時間割決め小四と家籠り

ひじとひじこれも立派なハイタツチ

神戸市 山口 光久

ちよっぴりの安らぎ奪い去るコロナ

心とこころキャッチボールをして夫婦

踏まれても蹴られてもただ耐えている

生きている限り自分を磨かねば

頑張ろう今朝もナットウ食べながら

神戸市 山口 美穂

お家にいようで認知症の歩がすすむ

老いの空咳車中で視線浴びている

戦中戦後語れる姉がもういない

夢のつづき見たくて布団かぶつたが

終活が出来ないままになりそう

神戸市 山崎 武彦

やばくなるとマスクをなさる総理殿

もうあかん総理がマスク付けだした

うるそうてかなわん妻がマスクする

けんさんの遺影にカラス「かあ」と鳴く

どうでもいい事は覚えている海馬

明石市 梶谷和郎

フルムーン詰めるポッケが弾んでる

夢の中やつとトンチが解けました

運のなさを努力足りぬと母が言う

五輪あとの次の生きがい探さねば

日めくりを破る昨日の音がする

芦屋市 竹山千賀子

長寿国発酵食は花盛り

君の影ただ追うだけの僕である

早とちりまたかと笑い見てる影

法話聴く顔はだれもが安らいで

時時は亡夫の話もしてみたい

尼崎市 近兼敦子

やさしいね気づかぬフリがお上手で

同じこと考えてたと目でわかり

顔かれどんどん口が軽くなる

一通り断捨離おわりまた暇に

口紅がちつとも減らずマスク顔

尼崎市 永田紀恵

歳月が許してくれた親不孝

ほとぼりが冷めて愛しい手術跡

一強の驕りに民の無関心

四コマ目落ちが決まらず旅に出る

北新地と肩書のある立ち飲み屋

尼崎市 藤井宏造

コロナ風ものともしない鯉轢

愛犬とも接触させるコロナ禍で

五月の空にギザギザハート癒やされる

仏壇のリンの中にもある埃

ひっそりと暮らしていてもゴミは出る

尼崎市 藤岡りこ

逝く日取り決まらないからのんびりと

マスクして深呼吸吸した覚えはない

うたた寝で気がつくマスクしたまままだ

元気なうちに握手もハグもしておこう

緊急宣言終った頃にマスクくる

尼崎市 藤田雪菜

ほろ苦い山菜届き里恋し

カレンダー四月五月は真っ白だ

不揃いの種を抱えて夢を持つ

必要とされて手作りするマスク

元気印の自由を奪う新コロナ

加西市 山端なつみ

マスク不足口紅などで汚せない

嫁入りのミシンが出番マスク縫う

医療か景気かコロナ舵取り困難だ

外出自粛農家の職場は田畑です

ステイホームお出掛け日和とは言えぬ

今やもうコロナウイルス評論家

川西市 山口 不動

コロナ来てコロリと逝ける覚悟する

遺書遺影用意は出来た来いコロナ

恐慌の再来見ずに逝くつもり

下戸なればウオッカ噴霧惜し気なし

三田市 足立 つな子

心が沈む間に鳥の新コロナ

新緑のつや肖りたいな朝日浴び

タケノコ料理旬をいただく果報者

緑なす鳥のさえずりニュータウン

急変の禍福にくれる世の定め

三田市 上田 ひとみ

これほどに守ってくれるあなたです

ゆつくりとあなたとふたり家ごはん

ふたりならしんどいこともお湯割りに

居なくなるそれはあなたも私も

いつかまた信じています会える日を

三田市 大西 重男

姉妹でもまったく違う親思い

妻逝って日に日に増えるひとり言

さあ寝よう明日の目覚めを期待して

最後の牙城崩れて歯までゼロになる

コーヒーにタバコにスマホ三時です

贅と貧自由不自由今学ぶ

三田市 尾崎 一子

これからの家族スタイル今チャンス

贅を知り貧を知らずに弱音吐く

終息へ自分勝手は許さない

御機嫌よう終息したら会いましょう

三田市 九村 義徳

コソコツが生んだトップの心地よさ

アルバムが記憶の扉ノックする

聞き上手出世街道まっしぐら

おしどりの夫婦の振りをしています

思いやる心が生んだ地域の輪

三田市 多田 雅尚

結果出る二週間とはエンドレス

配られるマスクに言えぬ「ありがとう」

花粉症コロナに御株奪われた

自粛して昼寝の時間長くなり

ステイホーム庭でこっそりバーベキュー

三田市 谷口 修平

ロボットが汗を流している廃炉

虫の音を消してしまった除草剤

プライドを捨てると迫る紙オムツ

化粧など無縁の母の死に化粧

糟糠の妻です元は他人です

三田市 野口 真桜子

天敵に気づかれぬよう死んだふり  
かざら橋もう戻れない歩き出す

サーズとコロナ神を恐らせたのか人  
同窓会さざ波たてた君と僕

乱された心誰の尺度の善と悪

三田市 福田 好文

国難にファーストレディーの能天気

コロナなど知らぬと野花咲き誇る

余命僅かなのに次々向かい風

引籠りせめて阪神見せてくれ

10万円後ろめたいが貰っとく

三田市 堀 正和

今日は何する日だったかカレンダー

孫が来てギョウザを包む休校日

家飲み空のビン缶山となり

まずマスク メガネ 補聴器 忘れんな

数独を一題解いて今日を締め

三田市 松本 ゆかり

桜はらり係争の家壊れゆく

土筆摘む場所を明かさず伯母は逝き

山つつじこぶしコロナなど知らぬ

自粛休業路地裏の闇深くする

禁足令風呂にハーブを入れてみる

三田市 村田 博

「生きている」友と電話の合い言葉  
近道は無い愚直なまま生きる

スポーツのない世こんな寂しいか  
終着駅見果てぬ夢を抱いたまま

逆風に耐えてカラコロジンフィーズ

高砂市 松尾 柳右子

外出はしないマスクが底をつく

右向いて左向いても独りぼち

難聴のせいで控える自己主張

つづかない一人ぼっちのトレニング

度忘れの名前ごまかす孫曾孫

宝塚市 丸山 孔一

医者よりもインターネットで納得す

マスクマスク目元美人の花盛り

平服でどうぞ私の誕生日

これだ！と思えるものが無くなった

辻褄の合わない夢の筋を追う

丹波篠山市 北澤 稔民

良い事が聞こえるように耳掃除

ひとり旅悶々の日々憂さ捨てる

今年こそ毎年願う米作り

五十年なんとかつなく手の皺が

軽トラが総出で並ぶ田植時

丹波篠山市 久保木 剛

負けてよしプロ野球観てほやきたい  
普段から距離をおいてる妻と住む  
自肅勧告ない農業で無事田植え  
白紙のままちぎる四月のカレンダー  
すすくとコロナ知らずに早苗伸び

丹波篠山市 酒井 健 二

青春のにおい残した人が来る  
ウイルスを怯えていてもしょうがない  
パーティーは貧富を問わず開けまい  
返事だけいつも一番ほめられた  
将来に備え巣ごもりスクワット

丹波篠山市 長谷川 善 輔

膝手術大きな顔して胡座組み  
臆月晴れ高速道路に閉古鳥  
この夏は我流のマスクが闊歩する  
衣替え暦通りにしてた母  
気がつけば九時間もいるそばに猫

西宮市 緒 方 美津子

こうなると自動式ドアありがたい  
ウイルス禍の卒業式よバネであれ  
ありがたや可もなく不可もない二人  
ライバルの峰打ち感謝するばかり  
中止の文字並ぶ予定表に鬱

西宮市 亀 岡 哲 子

五年日記牡丹の花の開く数  
おそろくはもう会うことの無い電話  
いささかの自負ありほんまよう生きた  
だんご虫もみみずとかげも生きづらい  
過疎の駅紋白蝶が乗り発車

西宮市 西 口 いわゑ

ペランダの花医のように向かい合う  
熱爛がホロホロ舌を喜ばす  
ウイルスなどものともせず咲く花よ  
風みどり誰にも逢わぬ日が暮れる  
千年の恋をひもとく閉じこもり

西宮市 福 島 弘 子

スーパーは無言で会釈マスク達  
親だもの気づいていますその態度  
きゃらぶき煮るしばしコロナを忘れてる  
家ごもり日毎に増える作り置き  
老猫と自肅メリハリ鶴を折る

西宮市 福 田 正 彦

先入観外して見ると光り出す  
あやうさは卒業したが足にくる  
隙あらば一瞬を突く新型コロナ  
人波の消えた花道飛花落花  
友元気久しく聞けぬ生の声

南あわじ市 萩原 狸月

ロケ自粛昔が蔵が出るテレビ  
毎日がコロナ特需のタレント医

コロナ殿わたしマスクをしています

ウィルスで死ぬか餓死かの自営業

嘘ついて眠れる人がなる議員

奈良県 安福和夫

ステイホーム頭切換え腹くくる

不精髭マスクで隠し皿洗い

昼爆睡夜中はラジオ深夜便

コロナ禍で異なった世が生まれそう

仕事を猫が横切るテレワーク

奈良県 谷川 憲

ご近所では犬の名前で声かかる

巣ごもりに山の青葉が目沁みる

コロナ禍は働き方を変えていく

地凶に無い田舎の家にテレビ来る

老犬は四肢が萎えても生きんとす

奈良県 中堀 優

見られなくなったら淋し鬼の顔

真つ暗だがそれでも見える光ある

大仏さん何でも聞くと大の耳

コロナ禍で妻でも三步離してる

警沢は麻薬元には戻らない

奈良県 渡辺 富子

汗まみれ草と格闘する帽子  
あれこれと身辺整理して籠る

青春を支えた本も赤茶ける

ころぶなと夫の杖に呪文かけ

コロナ禍へ妹の愚痴長くなる

奈良市 宇賀史郎

七十億三密憂う宇宙人

出不精か自粛か髯が手に痛い

厄払いかミサイル飛ばす北首領

孫帰る菖蒲と鯨浮かぶ風呂

目的地周辺からが欲しいナビ

奈良市 大久保 眞澄

コロナも私もお尻に根が生えた

あごは進むお尻は残る登り坂

貧しい電話が儲け話を喋ってる

テレワーク現場の仕事には不向き

明日何食べるとごはん食べながら

奈良市 加藤 江里子

コロナショック三世代で受け取る

飼い猫も全部聞いているワイドショー

マスクした政治家の目がよく動く

岡江さんまさかを皆に突き付けて

見付けました四つ葉を辞書に認める

奈良市 高橋 敬子

ステイホーム毎ジャムの香部屋に満ち

朝昼晩手を洗いすぎ絆創膏

窓開けて五月の風で部屋洗う

夫や子と家の空気を分かち日日

布巾貰えばマスク出来るか抜げてる

奈良市 辻内 げんえい

コロナ会見知事の優劣見え隠れ

最後の砦ゴルフもついに自粛する

買い物も妻が入店僕は外

靴の紐見られたくない不器用さ

孫からのビデオ帰省で起こされる

奈良市 山本 昌代

先ずコロナ未だマスクが届かない

まだまだと確と口紅引いて出る

わが胸のドキンドキンに怯むまい

会いたくて迷い子になった友見舞う

じゃあまたネなのにコロナが通せんぼ

奈良市 米田 恭昌

呱呱の声暗いニユースに灯を点す

コロナ禍に曾孫朱里の呱呱の声

コロナ禍に欠伸の続く招き猫

ゴールデンウイーク子や孫の顔も見ず

老妻はまだまだ生きるつもりスマホ買う

生駒市 飛永 ふりこ

しんどいねんまさか最期の言葉とは

深夜までおしゃべり君はもういない

すっぱりと君の笑顔と声消える

アマリリス活き活き君が住んでます

どんくさい私やけれど好きやねん

香芝市 大内 朝子

八十二歳紆余曲折の深い皺

御洒落する心も萎える閉じ籠り

心にぼつ薄くれないの花水木

お喋りの口がどんどん退化する

収束をしたあかつきの絵を描く

香芝市 山下 純子

ステイホーム家事はバッチリ優等生

不要不急故郷の山もはるかなり

マスク生活眉が美人の決め手です

三食昼寝犬の散歩も日に三度

二人つきりやさしい時間とり戻す

桜井市 安土 理恵

体調のわるさは友に逢えぬせい

引退もできずどつかと妻でいる

一日の余白いとしむバスタオル

内緒の予定みんな白紙にして介護

庇いあいながら傘寿のやぶれ傘

岩国市 上村夢香

ランドセル見捨てられたと拗ねている

弱者まで視線を向けるメルケル氏

恋文の代書ばかりを引き受ける

トップには強い信念持った人

ゴルフ場鎮座している高級車

下松市 有海静枝

断捨離が進むコロナの副作用

触れられぬ小さい画面越しの笑み

息詰まる家族 口さびしい独居

プライベート映りこむリモートの背

耐えて待つひとの叡智が勝るまで

防府市 坂本加代

巣ごもりではつきりしない新年度

封じ込みステイホームを呼びかける

分け合って食べる国民生き延びる

ネット社会どうにかできる過密都市

鯉のぼり羨ましいが先にたつ

鳥取県 門村幸子

コロナ禍を支える読書ボランティア

雑誌撤退 コロナ予防の歯科医院

おろそかにできぬ階段下りるとき

読み返す漱石「こころ」古からず

スーパームーン話の種に会いに出る

鳥取県 竹信照彦

旬を過ぎわらびぜんまい今や草

苗物を植えるとキューリ追って来る

夏日まである温暖化まだ五月

苗植えて晩めしに出る茄子胡瓜

五月苗透き間を埋めるハウス物

鳥取県 細田裕花

下り坂楽しい事を友とする

大木にもたれ平安なる心

身に付いたマスクと二メートルの距離

柿若葉世間の風はまだ知らぬ

亡き友はポエムの中で笑ってる

鳥取県 山下節子

久々に自分勝手を押し通す

私の進路後押したのは母だった

的中はしてほしくない負の予感

花めぐる人は優しく見えてくる

咲くまでは花はしっかり身を守る

鳥取県 池澤大鯨

踝の有無鳥だって二足歩行

そう言えば手首にもあり喉仏

青いシートやつとまばらな中に我が家

スーパーマンなりたがっても無理ですよ

AIは超の意味だと理解する

鳥取市 奥田 由美

バラさくら無人の庭も巡る四季  
遺伝からの美貌の恵み薄い孫  
通販なら全部試した美容液  
深いから膿が出せない恋の傷  
父欠いて広さ分かった深い愛

鳥取市 加藤 茶人

無免許のS字クランク車椅子  
騙すより騙されている君が好き  
取説の取説がいるメカ音痴  
恋愛は理屈じゃないよ不等号  
秒針がゆっくり進む金曜日

鳥取市 岸本 孝子

もやもやの胸のつかえはコロナ菌  
口紅差してときめくころまだあった  
クラス会帰りじっくり鏡みる  
桜一枝酒の肴で乾杯だ  
蝶よ花よと育てちゃっかりさらわれた

鳥取市 倉益 一瑤

人類よコロナで学ばねばならぬ  
臆病で飛べない鳥になつている  
大輪の花を咲かせたこぼれ種  
キッチンで弾んでいます年金日  
可能性ゼロでも押せと友の檄

鳥取市 田賀 八千代

古里の山河に眠る淡い恋  
廃校の桜の下で明日を詠む  
ポケットの中で温めている絆  
かさぶたは取れた後ろは振り向かぬ  
紙ふぶき舞って入学夢も乗せ

鳥取市 田中 天翔

ノーマーク玄関閉めてほっとする  
ステイホーム開放感をひとり占め  
ゴロ寝よし片づけもよし自由な日  
写メ撮って子供の服にさようなら  
コロナ自粛こんな暮らしもいいものだ

鳥取市 棚田 大

幼児も三密を聞き身構える  
的中を肝に入れ過ぎくらくらに  
難題はコロナを所為に逃けている  
幼児もスマホ自由にプッシュする  
コロナまた匂つくる俺に喝入れる

鳥取市 谷口 回春子

独り酒飲んですつきり憂さ晴らし  
小さな旅心はデカイ温かい  
庭先の楓が春を連れてきた  
別腹でぼた餅四つ食べる午後  
判断の甘さ巧みに突くコロナ

鳥取市 永原昌鼓

オーイお茶誰も言わない侘住い  
幸いな事にコロナにまだ会わぬ  
暖かい手にもウイルス付いている  
旨い物食べても一人味気ない  
緊急時人の心がよく読める

鳥取市 中村金祥

船頭が幾らいるのか渦の中  
ふれあいを忘れにんげんをも忘れ  
お試しの健康セット命とり  
振り向いた亭主笑顔が歪んでる  
瀬戸際で踏ん張る力磨いてる

鳥取市 夏目一粹

この世から愛が消える日ないだろう  
青い鳥会ったが色が惚けていた  
止まる日のごには触れぬ夫婦独楽  
最強の凶器は自然災害だ  
天国の父母とは縁が切れません

鳥取市 副井ゆたか

大型店街の灯りを消して行く  
AIがプロを鍛える囲碁将棋  
三時間走れなくても飲める酒  
ゆったりの下り坂にも深い味  
帰省したつもりで食べる郷土食

鳥取市 前田楓花

困ったなマスク二枚ももらっても  
またいつか会えると信じ縫うマスク  
手づくりのオシャレなマスクして笑う  
冬を越え春になったら一大事  
買い物メモを渡して念も押す

鳥取市 山下凱柳

コロナ禍で世界恐慌現実化  
感染が怖く三密ただ守る  
給付金貰い一息つく家計  
外出禁止居場所を探すぬれ落ち葉  
句会中止老いゆく脳に拍車かけ

鳥取市 吉田孔美子

特産の桃よ一夜で香り立つ  
箒目もめつきり遠のいた社  
生り物たわわ見ないなあ人の影  
ナイターか御苦勞さんや寝ますわい  
血管若いに踊りすぎてしまふ

鳥取市 吉田弘子

慣れ住んだ家ですまずく転けている  
3密に遠い畑で腰を伸す  
一〇万の価値観同じ筈がない  
プレゼントのリボン解けば孫の愛  
椿ボトリ私の余生だぶらせて

倉吉市 猪川 由美子

大人も子も我慢我慢の対コロナ  
コロナ感染死ねば死んだで残酷だ  
添加物過多で食べるに耐えられぬ  
正念場総理日本を救えるか  
祝改元も一変暗い年となり

倉吉市 田中 紀美恵

私の命尽きる日教えてよ  
ひ孫二才左右の靴がわからない  
お通夜で靴違えられ泣きべそに  
うきうきと傘寿の祝い涙ぼろ  
かごの鳥春を探しに飛んでゆけ

倉吉市 牧野 芳光

外出は八割減と亀になる  
ト音記号しばらくお目にかからない  
エイヤツと言葉の森に入り込む  
捻じ曲げてこねくり回し傑作に  
山桜終り淋しくなりました

倉吉市 山中 康子

過去にこだわらず一から出直そう  
コロナ攻め終りを願うほとけさま  
買出し炊事子守嫁ごはえらい  
ウインドー覗けば弾む婆ちゃんだ  
川柳は宝一生つきまとう

米子市 池田 美穂

ウイルスが七十億を振り分ける  
病んでみてサプリメントの非力知る  
あの時がそうだと漠然と思う  
一人では米も炊けない夫と知る  
困ったなお経上げると息切れる

米子市 伊塚 美枝子

田舎にもコロナの魔の手伸びて来た  
お店から消えたゴム紐ミシン糸  
布マスク喜ぶ人にプレセント  
のんびりと畑で土と会話する  
我が家にも四季を彩る花が咲く

米子市 後藤 宏之

負けてはおれないから眼ピカピカ  
戦争を話せる人がいなくなる  
ブラブラと散歩に丁度いいネオン  
妄想の散歩頭をやわらかく  
もうよからう僕がコロナに話する

米子市 後藤 美恵子

もう一花土壌耕し咲かせます  
膝の傷血止めの草に恩がある  
ステイホーム装いだけは忘れまい  
宴席は手まめなひとの横選ぶ  
干拓の海がバブルの付けに泣く

米子市 竹 村 紀の治

軽い咳待合室が凍りつく  
引き籠り一億コロナ評論家  
乾杯のときは忘れる血糖値  
難しく難しく言う専門家  
家飲みにひとりカラオケ手酌酒

米子市 中 原 章 子

読みかけの本と楽しく巣ごもり中  
連休にフィルター掃除して備え  
周囲の目気にせず笑う友が居る  
久し振り会って相席できぬまま  
黄門さん役者が変わりなじめない

米子市 成 田 雨 奇

病院に着いてあわててマスクする  
こないだのマスクバッグに入れたはず  
テレビ好き総理小出しに記者会見  
ステイホーム女房すっかりテレビっ子  
コロナ菌運ぶ人にはなりたくない

米子市 野 川 宣 子

手作りのマスク妹から届く  
コロナ禍の真ただ中に孫船出  
三密と手洗いコロナ寄せつけぬ  
四苦八苦マスク作りの糸とおす  
終息を八百万の神に願う

島根県 伊 藤 寿 美

スーパームーン映す先祖の棚田跡  
古里はもう私には無い居場所  
我慢知らぬ子に我慢教えるコロナ菌  
コロナ通になった施設に棲む鸚鵡  
人疎らマスクばかりの春の修羅

松江市 梶 瀬 み ち を

現金の凄さカードが駄目にした  
生きがいの重荷下ろしてよく転ぶ  
カーナビを無視しすごすご引き返す  
賽銭を入れたが願ひ出てこない  
夏井さん出る日は飲むと決めている

松江市 藤 井 寿 代

非日常それでも星は輝いて  
退屈でラクダになった雨の午後  
残高ゼロを笑ってるATM  
ネジ一つ抜けてるキミは輝いて  
風穴を開けて夫のグチを聞く

松江市 松 本 知 恵 子

山がらの鳴くふるさとは変わりなし  
春夏秋冬いつかい春巡り来る  
止まらない春の嵐に籠るだけ  
お籠りも特別でない主婦の顔  
飼い猫と会話が増えて初夏の風

出雲市 伊藤 玲峰

孫子揃い嫁還暦の誕生日

揃って元気ありがたやありがたや

遠くから亡夫の守護かも掌を合わす

お隣もコロナウイルス恐怖症

黒臘梅活けてお茶淹れ和みましょ

雲南市 菅田 かつ子

百円玉拾ってくれと目の前に

墓に来て蟻一匹へ話しかけ

輪の中で時たま旗を振ってみる

百歳を目指してなどという気力

振り向けばみんなやさしい人ばかり

岡山県 高岡 茂子

足手術魔法の杖が姿けす

予定外長生きをしてコロナ知る

コロナ菌消滅せよとする写経

表は忘れ裏だけカギをかけて出る

ジャカラランダ咲く連絡とれぬロスの兄

岡山県 田中 恵

食べこぼしつままみ洗いが増えてくる

オカリナのリズムで風の吹く大地

まだ足が気の向くままについて来る

知恵袋母の小言がこびりつく

改めて空の青さに酔っている

岡山県 藤澤 照代

カーネーション買う喜びに母が居る

熊ん蜂の歌に酔ってる藤の花

結び目がゆるゆるしだす七年目

言いかけたこと忘れさす花吹雪

窓照らしおしゃべりに来る春の月

岡山県 山縣 のぶ子

お茶点てるさすが年季の味がする

玄関のプザー昼寝を呼び起こす

老いて子に口出しせぬと言う木霊

ステップバイステップ我が道を行く

マヨネーズしほり出したら句になった

岡山市 大石 洋子

家籠り空を泳げぬ鯉のぼり

体内の消毒ですと酒を飲む

ステイホーム聞き分けのいい犬になる

おひとりさま自主鍛練のスクワット

万歳の形で寝ると風邪をひく

岡山市 工藤 千代子

朝の五時ツバメのために開く窓

畑ある人は良いなと窓を拭く

する事もないので化粧念入りに

躑躅満開となりの庭でする花見

見舞にもうっかかり行けぬ友が病む

岡山市 丹下 凱夫

ステイホームこんなしんどいことだとは

不要不急家でゴロゴロしています

ハナミズキの咲く街角にバスを待ち

五月晴れ何が何でも引きこもり

八十を過ぎたところの木下闇

岡山市 永見 心咲

佳い人の影をなぞって歩きます

結び目は君に誓った正の数

鳩尾に水の替わらぬ湖がある

稚魚の春あすを信じて群れの中

優しさは耳朶のふくらみにも宿る

岡山市 前田 恵美子

川柳を続けていけと師の遺影

コロナ安否十年越えて友の声

三十分歩いただけのプチ家出

郵便局マスク売ってる令和の世

人の世の不安吸い取る山みどり

笠岡市 藤井 智史

焦げ臭い愛も喜んで戴く

人生のカートリッジに興味を持つ

婚活の斬られ役からの卒業

ウエディングベル 婚活の卒業式

愛妻に言わない愚痴はハウリング

広島市 岸本 清

コロナ禍で街はますます無表情

病弱の妻に合わせるスケジュール

カレンダーこの〇印何だっけ

コロナ危機今こそ議員減らすべし

お騒がせファーストレディーの無神経

竹原市 石原 淑子

コロナ復興紅いカンナが応援歌

とうかさんの法要ネットで会えた

会合も句会も休止コロナほけ

そら豆の緑に弾む二人膳

緊急解除美術館に行くつもり

高知県 小澤 幸泉

不器用に一本一本爪を切る

もういいかいまだまだ生きる生きてゆく

不思議だな今朝も生きてるありがとう

眼が覚めるまだまだ朝がやって来ぬ

生き抜いてコロナ悪政やつつける

東かがわ市 川崎 ひかり

ステイホーム望みは孫とハグする日

望まれて望む縁で五十年

あの戦後思えばコロナ堪えられる

ウドン屋へもう二ヶ月も行ってない

青葉風まだまだ続く立てこもり

松山市 栗田忠士

強そうに見えた男が頼りない  
土の匂い汗の臭いのした昭和  
少年の記憶にグミの白い花  
朝ドラで始めサスペンスで納め  
百四歳生きた父には敵わない

松山市 古手川 光

青春とは春の野山を見て思う  
萌え上がる春の野山が活入れる  
麦の秋ぱっと明るくなる故郷  
入院の妻にも会わせないコロナ  
溜め息をつくのお止しと陽が昇る

松山市 宮尾みのり

専業主婦でした自粛に慣れている  
パチンコへ長蛇の列という依存  
現役の老いへきびしいデジタル化  
満開で応えてくれた庭の花  
花がらを摘んで会話をしています

松山市 柳田かおる

思春期の嵐に親なんて無力  
十年先のシミュレーションは浮かばない  
温度差に気づいていない机上論  
自粛生活無表情です時間割  
ドーナツの穴に三丁目の夕日

西予市 黒田茂代

芽ぐみかけた庭木詩人のまなざしで  
二度咲いて孝行者の庭ざくら  
みな無事に根付いた山梔子の挿し木  
香り楽しむ山梔子窓辺りに植える  
山梔子も薔薇も雨降りが苦手

北九州市 小松紀子

ノラ猫にオイデをしたら断られ  
無理きかぬ年それはそれで良いのでは  
ほどほどの暮らしが性にあっている  
ピンポーン映像をたしかめるくせ  
私の葬式ジョークとばして送ってネ

唐津市 坂本蜂朗

先祖祭り娘の弾くビオラ止まる雲  
いい歳が独りで今日も赤くなる  
もう余命過ぎてゐるのに酒飲むな  
六十年愛想尽かさず側にいる  
胸を張り咳払いする老いである

熊本県 岩切康子

歩幅の差夫婦別べつ散歩する  
泥ラッキョ腰を下ろして取りかかる  
新型コロナナ神水さえも止めている  
免許更新認痴症は免れた  
掘り立ての筍焼いてもオツなもの

熊本市 杉野羅天

休校やコロナに負けてなるものか

太陽に焼いてもらおうコロナ菌

芽吹く辛蕨・筍・タラの芽と

水割りのグラスへ映す世の不満

喉の悶えあの汚染水漏れ続け

札幌市 小沢淳

徒花というまい桜のいさぎよさ

命令に補償要望に協力

この僕に待つ人がいるポランテア

麒麟来る歴史の角度変えてみる

対面はよそうウイルス恐いから

弘前市 稲見則彦

母ちゃんが作ったマスク街を行く

満開のさくらの無念聞いてやる

ダテナオトやっぱり君はやって来た

不要不急蟻はやっぱり蟻のまま

道草もできないままのランドセル

弘前市 今愁女

誕生日だよと甥が花持ち来てくれた

加齢に比例物忘れ多くなり

三密に庭の草引き籠り居る

「積んどく」を読む気にさせたコロナなり

川柳塔じっくり読むも至福なり

塩竈市 木田比呂朗

去年とは勝手のちがうクールビズ

息ひそめあの戦時下を思い出す

だとしても外へ出たがる歩数計

その割りにただ漫然と送る日々

ウイルス禍人恋しさに距離を置く

男鹿市 伊藤のぶよし

私にも欲しいと妻の日曜日

気兼ねなく咳二つ三つ妻の留守

哀しきは寄り道知らぬ蟻の列

ばらの棘知らずに終わるうぶな恋

長寿ばんざい無駄にはできぬ恋の種

(喜田准一さん、上村夢香さん、藤澤照代さんは64頁にあります)

第35回 国民文化祭・みやぎ2020

期日 11月8日(日)  
場所 宮崎市民プラザ オルブライトホール  
電話 0985-24-1008

事前投句 5月1日～7月31日  
「メダル」 浪越 靖政 選  
「牛」 熊谷 岳朗 選  
「高千穂」 西岡 南風 選  
「趣味」 伊達 郁夫 選

応募料 1000円  
応募先・問合せ先  
一般社団法人 全日本川柳協会  
〒530-0041  
大阪市北区天神橋2丁目北1-11  
ステップイン南森町905号  
電話 06-6352-2210

# 川柳塔の

## 川柳讚歌

180

上方芸能評論家 木津川 計

高齢になって夫婦だと思つ

鳥 ひかる

川口松太郎は結婚式のスピーチでこう言うのが常だった。「花嫁はどうか三益愛子のよくな妻になつて下さい」。芝居「がめついい奴」のお鹿婆さんを当り役とした名女優は高齢になつても夫の川口といい夫婦だったのだらう。そのための条件を水六輔は「夫と妻」(岩波新書)である棟梁にこう語らせている。「歳をとつたら女房の悪口言っちゃいけません。ひたすら感謝する。これは愛情じゃありません。生きる知恵です」。ひかるさん、知恵ではなく愛情のある感謝ですよ。

水アメが買えず遠目の紙芝居

藤田 武 人

カチ、カチ、拍子木が聞こえるとアメ代の小銭を貰い、空き地へ紙芝居を見に行つた。その小銭を払えぬ裏長屋の子供らは離れて遠目で見ると。子供心に人の世の格差を知つた。のち、中学への道すがらにあるポロ家が紙芝

居のおつさんの家と知つた。おつさんは戸口でアメを控ねていた。掌にベツベツと唾を吐き、また唾を吐いては練る。唾まみれのアメと知らず、僕ははしゃぶっていたのだ。武人さん、遠目の子供はそんなアメと無縁でした。

何でやる暗い詩歌が身になじむ

酒井 健 二

石原慎太郎の「太陽の季節」を読んだら諷歌の青春だった。ほどなく弟の裕次郎が「銀座の恋の物語」他、ラブソングで超人気になった。何不自由なく育つた湘南ボーイの青春はかくも恵まれて華やかなのか。働くばかりだった僕は境遇のあまりの違いに馴染めず、啄木の暗い詩歌にひたつた。「はたらけどはたらけど猶わが生活楽にならざりちつと手を見る」が身に染みた。希望なき二十代の暗鬱だった。健二さん、「夜明けの歌」を歌おう。

二千万ようやく貯まりすぐに逝く

山下 節 子

実直な方だった。二千万円なければ老後生きられない、と誰が言ったのか。真に受けたそれからは酒を断ち、煙草もやめ、一切の無駄を省いた。食品スーパーへは値引札の貼られる閉店間際に行き、友達は無論、親戚付き合いもせず、粗食に耐え、質素を旨とし、ようやく二千万貯めてこれで安心、と安堵した途端の他界である。嗚呼。自分を構わず、

妻の老後を案ずればこそその緊縮生活だった。節子さん、貯めた方がご主人だったら感謝を。

断捨離のはじめアルバム全部捨て

丸山 孔 一

お寺の過去帳だけではない。アルバムもまた生きた証だ。その証を捨て、過去と断絶して生きようとするのである。石をもて追わるる如くふるさとを出奔した石川啄木だったのだが、故郷の訛りが懐かしく、停車場へ聴きに行くのだった。「かにかくに洪民村は恋しかりおもひでの山おもひでの川」。アルバムは、そんなころのふるさとなのだ。そのアルバムを全部捨てるには余程の決意なくしてはできない。孔一さんの振り返らない人生です。

濃厚接触が子育ての基本

内藤 憲 彦

埼玉県の東武動物公園で「ブラッザゲエノン」の赤ちゃんが生まれた。世界で最も美しいサルとして知られる。赤ちゃんは生後1カ月が経っても母親がしっかりと抱いたままで、性別も体重もわからない。抱きしめていた写真が朝日(6月2日)に載つた。正に濃厚接触である。人間も同じだ。ところが新型コロナウイルスが接触を遠去ける。子育ての基本が壊れる。憲彦さん、5+6+7+8+9+10+11+12+13+14+15+16+17+18+19+20+21+22+23+24+25+26+27+28+29+30+31+32+33+34+35+36+37+38+39+40+41+42+43+44+45+46+47+48+49+50+51+52+53+54+55+56+57+58+59+60+61+62+63+64+65+66+67+68+69+70+71+72+73+74+75+76+77+78+79+80+81+82+83+84+85+86+87+88+89+90+91+92+93+94+95+96+97+98+99+100+101+102+103+104+105+106+107+108+109+110+111+112+113+114+115+116+117+118+119+120+121+122+123+124+125+126+127+128+129+130+131+132+133+134+135+136+137+138+139+140+141+142+143+144+145+146+147+148+149+150+151+152+153+154+155+156+157+158+159+160+161+162+163+164+165+166+167+168+169+170+171+172+173+174+175+176+177+178+179+180+181+182+183+184+185+186+187+188+189+190+191+192+193+194+195+196+197+198+199+200+201+202+203+204+205+206+207+208+209+210+211+212+213+214+215+216+217+218+219+220+221+222+223+224+225+226+227+228+229+230+231+232+233+234+235+236+237+238+239+240+241+242+243+244+245+246+247+248+249+250+251+252+253+254+255+256+257+258+259+260+261+262+263+264+265+266+267+268+269+270+271+272+273+274+275+276+277+278+279+280+281+282+283+284+285+286+287+288+289+290+291+292+293+294+295+296+297+298+299+300+301+302+303+304+305+306+307+308+309+310+311+312+313+314+315+316+317+318+319+320+321+322+323+324+325+326+327+328+329+330+331+332+333+334+335+336+337+338+339+340+341+342+343+344+345+346+347+348+349+350+351+352+353+354+355+356+357+358+359+360+361+362+363+364+365+366+367+368+369+370+371+372+373+374+375+376+377+378+379+380+381+382+383+384+385+386+387+388+389+390+391+392+393+394+395+396+397+398+399+400+401+402+403+404+405+406+407+408+409+410+411+412+413+414+415+416+417+418+419+420+421+422+423+424+425+426+427+428+429+430+431+432+433+434+435+436+437+438+439+440+441+442+443+444+445+446+447+448+449+450+451+452+453+454+455+456+457+458+459+460+461+462+463+464+465+466+467+468+469+470+471+472+473+474+475+476+477+478+479+480+481+482+483+484+485+486+487+488+489+490+491+492+493+494+495+496+497+498+499+500+501+502+503+504+505+506+507+508+509+510+511+512+513+514+515+516+517+518+519+520+521+522+523+524+525+526+527+528+529+530+531+532+533+534+535+536+537+538+539+540+541+542+543+544+545+546+547+548+549+550+551+552+553+554+555+556+557+558+559+560+561+562+563+564+565+566+567+568+569+570+571+572+573+574+575+576+577+578+579+580+581+582+583+584+585+586+587+588+589+590+591+592+593+594+595+596+597+598+599+600+601+602+603+604+605+606+607+608+609+610+611+612+613+614+615+616+617+618+619+620+621+622+623+624+625+626+627+628+629+630+631+632+633+634+635+636+637+638+639+640+641+642+643+644+645+646+647+648+649+650+651+652+653+654+655+656+657+658+659+660+661+662+663+664+665+666+667+668+669+670+671+672+673+674+675+676+677+678+679+680+681+682+683+684+685+686+687+688+689+690+691+692+693+694+695+696+697+698+699+700+701+702+703+704+705+706+707+708+709+710+711+712+713+714+715+716+717+718+719+720+721+722+723+724+725+726+727+728+729+730+731+732+733+734+735+736+737+738+739+740+741+742+743+744+745+746+747+748+749+750+751+752+753+754+755+756+757+758+759+760+761+762+763+764+765+766+767+768+769+770+771+772+773+774+775+776+777+778+779+780+781+782+783+784+785+786+787+788+789+790+791+792+793+794+795+796+797+798+799+800+801+802+803+804+805+806+807+808+809+810+811+812+813+814+815+816+817+818+819+820+821+822+823+824+825+826+827+828+829+830+831+832+833+834+835+836+837+838+839+840+841+842+843+844+845+846+847+848+849+850+851+852+853+854+855+856+857+858+859+860+861+862+863+864+865+866+867+868+869+870+871+872+873+874+875+876+877+878+879+880+881+882+883+884+885+886+887+888+889+890+891+892+893+894+895+896+897+898+899+900+901+902+903+904+905+906+907+908+909+910+911+912+913+914+915+916+917+918+919+920+921+922+923+924+925+926+927+928+929+930+931+932+933+934+935+936+937+938+939+940+941+942+943+944+945+946+947+948+949+950+951+952+953+954+955+956+957+958+959+960+961+962+963+964+965+966+967+968+969+970+971+972+973+974+975+976+977+978+979+980+981+982+983+984+985+986+987+988+989+990+991+992+993+994+995+996+997+998+999+1000

# 橘高薰風句抄

〔橘高薰風川柳句集〕平成十三年発刊

誕生日ひとりひとときが至福

若者の海を歩けるような靴

末法の世に降る羅生門の雨

八月の花火 九月に曼珠沙華

あわててもあわてなくても熊の顔

しのび寄る秋が今年は音を立て

芋の葉の露は仏舍利然とまるい

悼 寺尾俊平さん

俊平に柩は狭しあわれ哉

十三夜 俊平杉の子になった

除夜の鐘俊平星を磨いとる

もつと光をもつと 空気を元日

おおらかに僕も初湯のジベタリアン

お年玉きったかたくちゃん待ってたホイ

悼む川上富湖さん

湖に映すはオフェーリアか鶴か

水平線一筋の沖仏岩

君は逝きありし日のまま茶房の絵

こがるは父母よペルーのティティカカ湖よ

豆撒いて自分で拾う旅の果て

弥生待つ七つの孫の机かな

灘の酒湯呑みに注ぐは無法者

残念の幼な駆けずり回るかな

老いらくのこぼれこぼれて続く恋

蕩尽は金だけでないことを知る

雪見酒かの家持も招んでやれ

我が庭にわれと名付けし夢見台

嘴の形に鳥の生きるべし

髪白うならず年寄るのも寂し

蘆山寺 四句

プラトニックラブいとおしや桔梗寺

半時を一声もなし桔梗寺

源氏には夕顔がいた桔梗寺

桔梗寺光源氏とかたつむり

待ちやすし かたすみという名の茶房

星が出て露天風呂にも沖がある

# 自選集

小島蘭幸

文学碑といふ七月の海光る  
結婚記念日妻も忘れていたようだ  
三歳の妻とツーショットの僕と  
うしろ姿のふたりと海と夕焼けと  
古いカセットが出て来た父の声だった

板尾岳人

だんだんと未来が逃げて行く命  
流鎗馬よ老を恐れず的を射る  
生き延びて未来に届き母に逢う  
未来から過去を見ている頭蓋骨  
行き止る冊をのり越え生き延びる

川上大輪

石橋を叩いて渡らない政治  
採決へ案山子がどっと起立する  
ステイホーム僕の居場所は何処ですか  
ウィルスがまだ騒いでる踊ってる  
そう言えばアベノマスクはどうなった

北野哲男

巣籠りで古い蔵書が日の目見る  
晩成のみくじ何回もう卒寿  
まだ卒寿いいハブニングある予感  
立ったまま靴下を履く卒寿です  
保険証と年金老いの旅続く

木本朱夏

官民の押れ合いあまい闇の中  
こそこそと雀卓囲む自肅の夜  
権力にすり寄り錆びるペンの先  
うすら笑いのキツネ階段踏み外す  
従順な羊に爪も角もあるぞ

新家完司

索漠とこの世の果てのパチンコ屋  
ウィルスに負けてなるかとひとり酒  
いつ飲もう桐箱入りの大吟醸  
混沌の大海原にある老後  
ボケぬようピリケンさんの足撫でる

高瀬霜石

1億総糞虫社会6カ月  
昭恵にはアキレマシタと言えぬ安倍  
同い年でした 絶句 志村けん  
まさかねえこればかりはねえ 合掌  
ここが魔の交差点ですオトコ古稀

竹 治 ちかし

時過ぎて我も我が家も妻好み  
良いものは良いと言うのが師の教え

今日もまた同じ仕種の夜が明ける

コロナ禍の今生き方を試される  
生かされて生きて七十四の春

津 守 柳 伸

無事息災日毎の祈り深くなる

コロナとのいくさ検温欠かせない

非常時の自粛じわじわ台所

組合費免除乗り切る小企業

3密を避けて自室の575

都 倉 求 芽

おうちにいよう言うまでもないひとり

おふくろの味には遠いけどひとり

母の日の花は遺影に供えとく

今宵は格別に光る遺影のネックレス

日が暮れてからも落ちつかぬ五七五

西 出 楓 楽

五七五の舞台とてつもなく広い

コロナ禍へ春そそぐさと去ってゆく

ステイホームの空があまりに澄みすぎる

思わくがあつて返事を三つする

コロナ疎開出来ずひたすら閉じ籠もる

仁 部 四 郎

ネクタイのある制服で十五歳

十八の一票ネクタイ締めてくる

ネクタイの黒だけは要る再雇用

高齢者叙勲ネクタイ着用で

ネクタイを締めた写真にやはりする

三 宅 保 州

香典も組んで行こうと言う仲間

土砂降りになつても守るものがある

逆境になつたら一人ずつ欠ける

手ぶらでは来るなど言うとき来なくなり

お志で結構ですと言うお寺

福 士 慕 情

暖冬で早目に咲いた春の花

公園閉鎖桜満開無観客

花吹雪ひっそりと散り春がゆく

コロナ菌青い地球を赤く塗る

終章へ砂の落下が早過ぎる

松 本 文 子

木枯が胸に残っている夏よ

天女にはなれなかつたねダンゴ虫

動ける限りおせつかいは致します

兎になつてお月さまに行く準備

ふるさとはレッドカードなど出さぬ

三浦 強 一

斎場に色紙短冊友の葬

これからはあの世の句座と笑む遺影

伝染かどのチャンネルも皆コロナ

ヒト科から笑い奪ったコロナ菌

深夜便朝まで聴いて昼寝する

宮西 弥 生

酔うてても私の耳は全回転

飾らない言葉が雫する母の文

青丹よし奈良の草花みなうらら

一步ずつ歩けば景色変わる奈良

願わくば世の傘になる孤独

村上 玄 也

皆マスク表情のない街になる

くしゃみした顔に白い眼突き刺さる

黒マスクどこか強盗じみて見え

どの局もコロナコロナで気が荒む

ステイホーム家で採めごと多くなる

森山 盛 桜

紺のスーツでほとほりが冷めるまで

重石を取ると川虫が喋り出す

どうとでもなれパウダーに身を任す

チャージしただけその後が生温い

壺に来たことば太字になってきた

独りでも

八木 千 代

窓開けてまわる 着替えもそこそこに

単純に好きなの明けていく空が

六月が好きよと伸びる夏木立

気まぐれの蝶とも朝のご挨拶

ヤットコサアの日々でもたった独りでも

山本 希 久 子

弥生卯月皐月へマスク外せない

終息へ近づく油断できないマスク

生涯に幾人ひとを送りしか

雲悠悠しばし現実忘れたし

心配をさせて孝行する息子

麻生路郎語録

何れにしても、人間の魂に点火する川柳でなければ、十七音字工作がいかにか巧みにほどこされてあらうとも、それは沙上に描かれた閑文字に過ぎない。

(「川柳雑誌」NO・133より)



『麻生路郎選集—私達』

西<sup>にし</sup>村<sup>むら</sup>梨<sup>り</sup>里<sup>り</sup>

ぶどう籠持てば貧しさ絵の如し  
 風吹いて淋しいことを思い出し  
 先ず集ればやせたい娘ばかりなり  
 おどかしてやりたく自殺してみたく  
 喰べて寝て猫の現実主義もよし  
 愛と言う言葉をならべ詩人逝く  
 足組んだとこだけ女優さんに似て  
 ライバルへほほえむそれも教養か  
 リズミカルに歩きたしこの街の灯に  
 女なる悲しみおんな酌をする  
 或日蝶々になりたい空の色  
 恋愛論引き分けのまま午前二時  
 泥臭い河で恋の灯ポトの灯  
 昨日は死ぬ気今日はピロード買ったがり  
 光るものつけそれが女の総べてとは

(昭和32年1月20日 発行)

温故知新

小出智子川柳集『落の臺』から

削つてやるとエンピツにさえ自負がある  
 京都辺りで辻褄が合っている  
 こめかみに四、五日人が許せない  
 午後は雨読みさしの本出している  
 明日のことわからないから種を蒔く  
 悲しみが少しわかってグルになる  
 挨拶もわたしも秋になっている  
 こんなに年をとってしまっていた日傘  
 母の日の軽い魔法がまだ解けず  
 円満なことを望んでいる屋根だ  
 とときは覗いてくれる息子たち  
 体力が気になる枯葉散っている  
 いっそ敵に回した方が楽になる  
 今更と思うてならぬ墨を摺る  
 落ち着いていらぬ秋がやってくる  
 晩年を庇うてくれるバスタオル  
 寒いから腹を立てないことにする

# 水煙砂

## 川上大輪選

大洲市 花岡順子

また一つバックミラーに映る嘘  
散漫な脳があれこれ思いつく

未知数が怖くなったか引きこもり

屁理屈に妙に納得させられる

ユニークと言われ思わず苦笑い

ポジティブに生きてわくわくする明日

コロナ禍

風切り羽畳み怯える籠の鳥

玄関の無口になったスニーカー

散る花も静かな街もテレビ越し

歌えない踊れない日のぬるいお茶

不自由の海で自由の空を見る

ため息を窓から捨てててカップ麺

布マスク届く祭りの翌日に

桜散る頃だけ蝶になって来る

切り株に座る年輪撫でながら

仙台市 月波与生

大阪市 石田孝純

思い出し笑いする夜の万華鏡

病室の鶴放つ散骨するように

久々の脱皮連休最終日

寝屋川市 廣田和織

古稀の坂オフロード車に乗り換える

三叉路が次々続くマイロード

信号の青色やけに愛想良い

あの世へは初心者マーク付けて行く

幸せはそのあたりだとナビの声

天国へ矢印ここで折れている

大阪府 奥野健一郎

プライドを潰さぬように助け船

いい目覚め今日も笑って生きていこ

言い分けを決め兼ねている帰り道

反省をするたび個性ひからびる

ファイティングポーズは得意痩せ蛙

ええ人や何を言っても怒らない

尾道市 小川道子

今日は吉ことさらベンの滑らかさ  
長談義おためごかしの風が吹く  
移り気な人には少し距離を置く  
確かなるもの手のひらに握り締め  
風ひとつ抱いて気丈に生きてます  
美しい嘘も方便まんまるい

三原市 笹重耕三

棘のある言葉を包む春の風  
窓際で真面目に座るコッペパン  
後ろの正面に座った人と今も居る  
神様の声が聞こえて来ぬコロナ  
昨日の風と居座る公園のベンチ  
折り畳み傘はカバンの底にある

府中市 岸田武

籠城してコロナの画像見えています  
世の中を見る目が変わりそうコロナ  
帰宅して妻の監視で手を洗う  
箸を置き自分の部屋に飲みに行く  
点滴を見つめ言葉を探してる  
たけのこを掘る腰付きは老いていず

貝塚市 吉道あかね

自粛する部屋で捨てたり残したり  
糊付けてアイロン掛けて待つ出番  
たっぶりの時間集中力がない

不器用で歪な丸があたたかい  
自粛してパンツのゴムが伸びてくる  
丁寧生きるやがての日のために

神戸市 斎藤隆浩

電線に間隔あけて雀たち  
怖い怖い地震カミナリ火事コロナ  
ライバルも同じ病で友だちに  
ゴミ袋生まれ変わって防護服  
我が家ではコロナ前から距離がある  
ヘアスタイル悩んだ頃に戻りたい

富士見市 中島通則

初めて知る全国知事の顔と顔  
期せずして大気汚染が少し減る  
テレワーク無駄な会議の多さ知る  
籠るだけで人を救える楽隠居  
便利さを使い切れずにいるスマホ  
字余りだ類似語辞典引いてみる

安来市 原德利

新生活へ手洗いうがいマスクする  
鍵穴の向こうに飛んでいるコロナ  
新コロナ マスク二枚を嘲笑う  
田園を聴きながら朝のコーヒー  
丈夫な布でつくる堪忍袋  
ぐつぐつと小言堪えない落し蓋

東京都 高岡 弥生

リモートの飲み会ジャージはいてます

在宅で毎日すっぴん肌元氣

ゴミ増えた家族の誰も知らぬけど

病院に背中を向けて寝れませんが

在宅で暇なら家事もしてみたら

横浜市 巖田 かず枝

友達をテイクアウトで助けたい

古い二人三密だった以前から

出来る事何かないかと探す日々

新聞を開けばコロナ乱舞する

助け合うことをコロナに教えられ

横浜市 加藤 佳子

スケジュールばかり空いたGW

外出は9割自粛年金者

社会的距離を教わるレジの前

ガス抜きに10万円の給付金

終息へ向けて老人パワー維持

横浜市 長 亜希子

わたししか言える人ないだから言う

言い過ぎたでもホントなのごめんなさい

香に負けて焼き芋を買う散歩道

久しぶりに来た道友の家がない

ステイホームマスク紅さすこと忘れ

各務原市 喜多村 正儀

沈黙の陶器に遠い火の記憶

約束の海で再会する滴

母と居る写真はいつも笑った

黙約の街で迷っている小指

和して出す味を覚えた煮込み鍋

豊橋市 西郷 紀美代

落書が動画となって動き出す

古稀迎えまだこれからが佳境です

畑仕事心安らぐ土いじり

死にたいと言いつつ薬ちゃんど飲む

卒寿でもマスク求めて並ぶ列

和歌山市 北原 昭枝

我慢する腰の低さが発条になる

ちっぽけなわたしにもある自尊心

大波小波ふたりに漕いで許し合う

家族まつ安らぎの窓灯が温い

並んでる靴が互いの癖を知る

和歌山市 倉橋 悦子

政界のそこには愛はありますか

タクシーもバスも駄目なら人力車

尖ってるこころ静めた七千歩

地球儀を回す青息吐息音

コロナさんあなたいつまで居据わるき

和歌山市 定松宏枝

健康の文字に飛びつく老年期

食べて寝て起きて働き医者知らず

翔んでますだつて人生一度きり

フアッションも子のお下がりで若返る

お迎えは急がなくてもやって来る

和歌山市 佐藤まき

闘病を思えば自肅何のその

救急のまさに仏心救世主

マスク頭巾すべて手作りして生きた

零細の社長給金手に出来ず

奨学のローンだけ持ち嫁に行き

和歌山市 鍋嶋澄子

フォトスタンド思い出ひとつしまい込む

マスクよしアルコールよし買物へ

空晴れて花見弁当家の中

化けの皮剥がれて仮面ポケットへ

春だものおかめひよつとこ皆笑顔

和歌山市 西川千鶴

急ぐまい今日も明日も明後日も

生きるため爪も研ぎます嘘もつく

逃げ水のようなものです人の欲

友情が儚く散った判ひとつ

従順な女の胸にある打算

和歌山市 福島一雄

見物に出来ない桜寂しそう

辛抱ができず手を出す桜餅

次のバス素敵な人に会えるかも

そろそろと蚊取りと団扇枕元

漸くに色即是空見えてきた

八幡市 武田悦寛

思いつきり角度を変えて見る鏡

貧乏神つかず離れず追い越され

最新のニュースも聞ける古ラジオ

今日まではほぼ楷書体で生存

社長とは血液型が同じです

大阪府 大浦福子

髪すけば君の残り香ほのか立つ

六月の雨古緞帳のにおいさせ

部活終えすれ違う子等陽のにおい

トクホンと土の香のする亡母でした

ぎんなんを拾って悔やむバスの中

大阪府 高木道子

籠もつては居れぬ農家の田植時

縁の下の力竹の子見せつける

一病と連れ持つて行く四コマ目

コロナなど解せぬツバメの宙返り

主の旅立ち知ってかつつじが燃えている

大阪市 阪本 秀子

ドクターも看護師もいま命張る  
何処なのかなぜモノクロか夢のなか  
ノーという勇氣が居場所きめてゆく  
混沌の世にまつ夜明けワクチンも  
時として芯と誇りがゆれうごく

大阪市 中村 峰子

過去はみなしあわせだった物語  
なんとなくてく歩き腹が立つ  
句が浮ぶメモが手元にならないときに  
わが先祖天然痘を生きのびた  
新聞の切り抜き溜めて捨てている

大阪市 降幡 弘美

花が咲き心のすき間埋めていく  
目で笑いマスクの下で毒を吐く  
断捨離をしすぎたようなスケジュール  
おウチ好きステイホームも苦にならず  
少しかだけ気を引きたくてついた嘘

堺市 羽田野 洋介

ええ恰好しても中身は今一歩  
カラオケにお玉杓子は無関係  
よくやったまぐれじゃなくて実力だ  
腹割って話し合うには飲み足りぬ  
飲むほどに話に花が咲いてくる

池田市 上山 堅坊

悩んでる闇に閃きポツと浮く  
広い広い世界へ続く趣味の道  
駅裏のほっこりとする縄のれん  
恥かしい昔の記憶顔を出す  
美人にドキドキ僕の血まだ赤い

河内長野市 穂口 正子

冗談かと現実睨むパンデミック  
母になり子になり抱くぬいぐるみ  
母さんはずっとに君を許してる  
終息後楽しむためのスクワット  
生き生きて今生きる外術はなし

四條畷市 西川 ひろし

カレンダー×印だけ増えている  
全チャンネルコロナが占拠移りそう  
鯉のぼり間隔開けて泳いでる  
ゴミの日にカラス間隔開けている  
お笑いを視ても手で口抑えている

吹田市 岩口 のぞみ

コロナ来て家族の絆強くなる  
テレワーク映るとこだけ片付ける  
遠出避け気付く近場のこんなところ  
五月晴れ花に草木に励まされ  
老親の安否確認欠かさずに

豊中市 荒木郁子

コロナ騒ぎ手抜き料理の言い訳に  
好きだから腰痛忘れ花の世話

ヨガポーズ背中に湿布張れそうね  
気が晴れずのらりくらりと日を過ごす

公園の散歩だけでは物足りぬ

豊中市 齋藤奈津子

仏壇の花瓶に亡夫のピアグラス

聞き覚えしどろもどろの般若経

まだまだ元気美人薄命選にもれ

温暖化買い置きやめる冬コート

眠れぬ夜川柳できたまあいいか

豊中市 松田蟻日路

我が日常晴耕雨読昼寝付き

温暖化今日は風呂屋の湯が熱め

時として人を狂わす正義感

雨音に心温めてコップ酒

役所向け書類一つで陽が沈む

枚方市 谷英也

コロナ禍で今日もテレビと暮れました

ピカピカのお肌と脳が生き返る

文化とは人と自然のお付き合

今は春巢籠りするは恨めしい

長寿社会まだまだ八十路光ります

八尾市 山川寧

樽になる食べることは自粛なし  
食卓に二人無言で横並び

暗い世にマスクの色が華やかに

コロナ疎開赴任先へ押しかける

都会から地方へ移動コロナ難

神戸市 青木公輔

見覚えのある夜景ドラマは急停車

左手を出せば占い師が逃げた

幻を追えば追う程辻褄が

ブライドが有りすぎいつも末席に

結論を後へまわして何に成る

神戸市 石川克美

経験の国に学ばぬ見栄つぱり

役人の資質問いたい厚労省

マスクなど笑止千万国政策

ヌラヌラと知見を述べる同じ人

無事という幸せいつも忘れてる

神戸市 米田利恵子

作戦タイム流れ変えよう汗拭こう

先ず引いて寄せる波から学ぶこと

価値観の違いそろそろ震度六

錯覚か石が論してくれる庭

粹な科白祖母がしびれる時代劇

神戸市 近藤 勝正

明けぬ夜はないと信じてなお不安  
戦時中耐えたほくらはたえられる  
かき氷綿菓子ラムネ昭和の日  
楽な道歩いた過去が悔まれる  
詐欺師たちコロナを餌に知恵しほる

神戸市 櫻井 崇史

雑草の花が道端かざってる  
そよそよと若葉が誘う散歩道  
庭そうじ草も景色に残しとく  
水撒きで草も一緒に育ててる  
パスワード書いたメモ紙どこいった

神戸市 田本 古鈴

コロナには負けぬ私のテリトリ  
人の目が届かなくても花は咲く  
痛みほど人を滅入らすものはない  
後先も何も思わず病来る  
洩れてきた秘密を明日はみんな知る

神戸市 山根 弘華

引出しに昭和の夢がてんこ盛り  
戻れない過去を追ってる老い一人  
リフォームがきかなくなると老いを知る  
ウイルスに心うばわれ春がゆく  
まあいいかずぼらになつていくコロナ

尼崎市 清水 久美子

5月だと言わんばかりに躑躅燃ゆ  
いかんともしがたい嘆き分かち合う  
食っちゃ寝に歯止めをかける一万歩  
争えば獣 和すれば人になる  
健診の結果齢に値する

伊丹市 延寿庵 野鶴

絵蠟燭泪流して無に還る  
五欲の火少しずつ消す座禅堂  
喝采を浴びてピエロの野望燃え  
微温湯に浸かり明日が見えぬまま  
あつさりと受けた返事の重いこと

伊丹市 岡村 風琴

一瞬のひらめきへペン走りだす  
青葉風命が燥ぐ四分音符  
センス問うマスクを付けて引く眉毛  
満月はコロナ蔓延知らず照り  
パレットへ朱色を足して夢繋ぐ

三田市 生田 えい子

治療の朝目覚し時計よりも先  
テレワーク悩むことない定年か  
お茶の友開口するも孫自慢  
節句餅りんを鳴らしてせかす孫  
手間賃も無しで手伝う息の仕事

三田市 稲角優子

踏み出せば運も味方のその一步  
適材を植えて椅子にも花が咲く  
子に託すバトンの文字は平和のみ  
絵手紙の窓に笑顔の母を足す  
この想い君にあずけて遥かなり

三田市 木村 マユミ

挨拶も頭を下げて2メートル  
マスク取り名もなき花に語りかけ  
お別れの挨拶できずまだ夫婦  
おくやみに涙とまらず花粉症  
憎越と言ったわりには自画自賛

宝塚市 岸田万彩

人類に宣戦布告したコロナ  
雑草をみんな抜いてもまだ自粛  
汚れてる気のしない手をまた洗う  
鎖国にも良い面あったことを知る  
断捨離で意外に広いウサギ小屋

奈良県 室田行久

激痛にわらをも掴む承諾書  
暗闇に俺を見ている俺がいる  
まだ余力三途の川を往復す  
手術室命を懸けたワンチーム  
目が覚めて生きているぞとただ嬉し

生駒市 饗庭風鈴

憧れの無人島まで来たけれど  
今気づくサビついていた危機管理  
ない知恵をしぼって生きてきたけれど  
有為転変この絶妙なさじ加減  
このごろは付かず離れずいい気分

山口市 中前幸子

孤高なる音真夜中の鳩時計  
お天気が好いから空を翔んでみる  
風は静かにわたしの胸を搔き立てる  
大上段に構え半熟卵斬る  
まだ恋ができそうときめきが止まぬ

倉吉市 堀かずこ

年をとる今日という日を大切に  
ほほえみのあすは咲かそう夢の花  
酔っぱらい飲まなきやいしがやめられぬ  
ほんやりと心に穴が虚脱感  
歌声がリズムに乗って踊りだす

倉吉市 若松由紀子

気が付けば斜めに歩く老いた吾  
追い風を背中に受けてよい人生  
子に荷物喜ぶ顔を思いつつ  
病んで見て人の痛みの解る日々  
せつかちが釣り糸たらし小半日

境港市 藤原久直

行事予定コロナはびこりゼロとなる

心地よい汗もかきます万歩計

働いて流した汗で米を研ぐ

朝昼晩飯が旨くてピヤ樽に

手を焼いて育てた子ども親しい

米子市 妹能 令位子

削除したはずの昔を子が歩む

焼魚二人で丁度良かったね

足が向く集まりいつも米子弁

目の化粧キャッチコピーはマスク映え

鉄振るう時代遅れと言われても

松江市 中筋 弘 充

消しゴムで消せる程度の法螺を吹く

なにもかも知って知らんぶりの母

原稿通りになかなか言えぬ喪主の謝辞

神葬は仏葬よりも泣き難い

うれしそうにしなければならぬ誕生日

津山市 高橋 由紀女

水飴も納豆もおねだり上手

電動ミシン扱い上手にしたマスク

コロナ禍にもしものが募るマスク買う

愚作でも活字になって晴れ姿

巢籠もりの暮らしを変えたテレワーク

広島市 田桑 恵子

会う度にマスクあるかと子ら尋ね

リーダーの手腕問われる国難時

としよりにオンラインでと言われても

片隅の明るい記事に気が和む

何食べたい夫はいつも何でもと

広島市 常國 喜好

さりげなく酔い醒めの水置いてある

当分は家族第一主義でいく

黒塗りの父の日記を見てしまう

二千万貯めた人から通りゃんせ

知ってたがまるで分かっていなかった

広島市 松尾 信彦

初孫に父も曲げてる自尊心

歳だから妥協と譲歩恙無し

里の春きのうテンプラ今日は和え

土肥料虫も育てる無農薬

母の鍋シカにイノシシ自家野菜

三次市 伊藤 寿子

ウイルスへこんな世の中くるなんて

耐え忍ぶみんな一緒と心寄せ

亡姉さんが今の世みたら何とする

0才児の抱っこへ癒し貰う夜

缶ビールを抜く音妻が数えてた

松山市 大内 せつ子

脱皮しますすこしわたくしらしくなる

あなたのかけら片付けました玩具箱

砂時計すこし斜めにしてあげる

内緒の話日記帳からあふれそう

シナリオの通りに傘が開かない

今治市 永井 松柏

銘のない地産の米が美味すぎる

国難はさておき焼酎が旨い

年金の目盛りの中で回る独楽

合鍵が合わなくなつてから独り

白地図のインクの染みが現在地

今治市 渡邊 伊津志

知恵知識暮らし上手の必需品

地球という窓が曇っていませんか

控え目な人の言葉の重さ知る

競つても無駄だと笑うコンパクト

宮崎県 黒木 栄子

分り合う友達一人居ればいい

枇杷を下げ来た友偲ぶ枇杷の頃

ひそひその会話いつしか弾み出す

冗談もほどほど相手傷付ける

噴水の一日一日にあるドラマ

沖繩県 あら さくら

飲食でマスク上げ下げせわしい手

ウイルスでエデンの園が遠くなる

荷重でも笑いがあれば軽くなる

物干しでくるくる回る花マスク

みなマスク口の代わりに目で申す

佐賀県 真島 久美子

両翼を差し出されても猜疑心

女子力は全開タコの口真似る

大袈裟に驚いてみる一人部屋

ほろほろと逸れた場所にまた戻る

渦潮になってしまった台所

黒石市 石澤 はる子

大志抱く蟻のその後を考える

耕せば待つてたように笑う土

猫の額有効活用ナストマト

まだ勝負最後通告されるまで

月あかり問わず語りをしてしまう

黒石市 北山 まみどり

使い分け楽しむ作りのマスク

マスクからはみ出している感嘆符

違和感に慣れてきました自粛中

不完全燃焼でしたこの春は  
ダンスから漏れてくる作戦会議

栃木県 廣瀬良磨

散歩するいつもの人がいない道

無意識にうがい手洗い梅雨明ける

春場所悲鳴聞こえる無観客

ドタバタとマイナンパーと助成金

南アルプス市 小林金剛

とめないでこのリズムこそ川柳道

札幌の地下鉄クール青い春

幾つ星越えたでしようか人の愛

愛の詩素直になると楽し旅

神奈川県 小田幸子

雨あがりコロナ吸いとる空の青

花ざかり庭の主は海外赴任

鼻の先花びらつけて犬寄り目

通り過ぎジャスマミンの香に振り返る

静岡県 渡辺芳子

日本人頭の良さを世に示せ

家に居るCD聞ける本読める

ちぎり絵の会心作も出来上がる

無駄のないように時間を生きたいな

名古屋市 福田末男

心配をさせないためにする仮面

元氣だね電話の母に安堵する

同情はするが疑問が許さない  
時々は思い出すマイパートナー

江南市 脇田雅美

一強の風吹くままに右に向く

温暖化のツケ環境を破壊する

頭無いサンマいわしは買う気ない

乗り過ごし何度もやって酒やめた

豊橋市 小松くみ子

柿の花ひとつもつかずチョン切るぞ

墓まいり御苦勞様とおそザクラ

コロナ禍にピンチもチャンスヒトの知慧

まぐれとは言わせたくない骨密度

和歌山県 三枝眞智子

そろそろと言いながら呑む三本目

想い出の橋に佇む赤トンボ

むらさきが好きで集めた豆絞り

もう一人の私に聞かす褒め言葉

和歌山県 森下よりこ

農作業するには変わりない日だが

人の振り見て我が振り直す日常に

縮緬雑魚と漬物変わらないくらし

生きている水に流せぬ事も抱き

和歌山市 まつもと もとこ

純白のマスク戦闘モード中

会いたいと逢いたい使い分ける夜

平熱と体温計は言うけれど  
マスクの中で喜怒哀楽が渦を巻く

岩出市 村中悦男

舵取りの期待をよそに海荒れる

三密の向こうにきつとある出口

おうちにいようコロナの鬼へ豆つぶて

コロナ禍に風評おぼけひそんでる

京都府 北野クニオ

花の宴コロナの所為で一人酒

十万円到着遅く効果なし

景気より医療が大事日本国

お寺まで拝観停止の新型コロナ

大阪市 柴本 ばつは

土用干し梅しっかりと塩を吹く

食い倒れの大阪沈んでいる姿

金あるがコロナウイルスには負けた

人間って野の花よりも弱いのだ

大阪市 樋口 眞

感染のリスク通院ためらわす

自粛でも年金日には支給され

感染者漸減光少し見え

神のよう感染治療担当者

大阪市 前川 善之

葬式も結婚式もオンライン

町医者もコロナ治療に助け船

今の世も隣は何をする人ぞ

三密の禁止を習い防御する

大阪市 松田 聰

コロナ禍で自死のないこと折るのみ

マスク来ず補償もされず腕を組む

官僚の作文を読む閣僚ら

横文字で誤解生まれることもある

大阪市 森 廣子

恐怖をこらえマスクの下に置く素顔

あやふやなフェイクニュースで眼を回す

梅の実の青い匂いが初夏を呼ぶ

ふるりの村は総出の茶摘み唄

堺市 楠井 輝子

残り火のロマンに水をかける妻

あんたの介護口に出さぬが任せるとき

コロナウイルス見えない物に立ち向かい

大丈夫きつとコロナに打ち勝てる

堺市 古川 光雄

誘われて金と暇なしやめとこか

長電話料金気にして早口に

財布には金よりカード鎮座する

インスタ映え気にして料理味落ちる

池田市 倉本 一弥

鯛の小骨小癩に喉で遊んでる

別れの場面泣けとばかりの挿入歌

幸せは布団の中に風呂の中

晩酌は二合で今日は好い日なり

泉大津市 助川 和美

トマトジュース赤い愛情押しつける

指先に香り残してよもぎ餅

腹八分米寿の今も医者知らず

本棚に飾ってるだけ歴史本

河内長野市 渡邊 修

テイクアウトコロナがつなぐ味くらべ

息つまるコロナに飽きて新喜劇

マスク付け散歩するペア声でかい

引きこもる家内独占長電話

高槻市 三谷 白黒

家の中そこは我慢をするところ

衣料具も防衛品に仲間入り

財務省非常時には機能せず

使い捨て止める時代になりました

豊中市 貝塚 正子

千円で迷うたのしみ百均屋

ほめ言葉たつぷりと盛る見合い席

採寸をして別注のマイマスク

ステイホーム右肩上りの通信費

寝屋川市 川本 信子

不思議だな独り巣籠もり慣れてきた

公園も街も無音の昼下がり

久々の散歩若葉と初夏の風

粥でいい静かな日々が欲しいのよ

寝屋川市 坂本 ミヨノ

公園でやさしく香る藤の花

困りコロナ気遣いながらマスクして

ポケットに花見酒ありかくれ飲む

太つてもいいから食べるかしわ餅

東大阪市 秀 彦

名門校行きたかったとわが履歴

青春は地獄のような日々だった

パワハラに耐えたご褒美退職金

今に見ろ岩窟王を師と仰ぐ

八尾市 田邊 浩三

温暖化怖さ知らせにコロナ来る

くやしいがコロナに負けたオリンピック

デマだらけ判っているがのってみる

コロナかな料理が不味い妻怒る

神戸市 青山 ひろし

開幕がおくれ新人老けはじめ

トラキチも三連発を見飽きたり

コロナの禍ビール空きカン小山なり

多機能のトイレにすくむ他所トイレ

神戸市 輿水 弘

孫三人合格しらせ唾をのむ

百から七引く計算がやつとでき

老い集い笑いうなずき和む味

手すり持ちしつかり踏んで生きてます

神戸市 松倉 正美

ピコ太郎の歌に合わせて手を洗う  
外出は手製マスクでおしゃれする

米中はコロナを巡り泥試合  
陽性の疑い晴れて自由の身

芦屋市 新 阜 義 明

辞令受け地酒探しに夢うらら  
間食が主食になって妻タルマ

スマホより財布よりまずマスク付け  
マスク顔ホント素敵とそりゃないよ

尼崎市 寺 嶋 恵美子

粛粛とコロナ終息待つ私  
PCR検査なぜだか後向き

無念の死はなまる久美子悲しけり  
明日は我が身老体更に縮こまる

尼崎市 山 田 厚 江

孫の顔あと2、3人見るまでは  
赤いウインナーやっぱりおまえはタコ

誕生日のケーキ冷凍で届く  
フィリピンとベトナムの娘に介護され

伊丹市 平 井 富 夫

嘘が下手いい秘書雇え議員さん  
各テレビ耳にタコです新コロナ

言い訳はコロナと言えばそれで済む  
新コロナさすがと言える策がない

三田市 幸 田 厚 子

おでん種たまご人気の子沢山  
三世帯愚痴も出ますよ妻の位置

終息願う一人散歩は辻地蔵  
渡り鳥飛び立つ北もコロナ渦

三田市 住 吉 美和子

山里の朝の目覚めはホーホケキヨ  
山里の木々の芽吹きに癒やされる

長休み家族の笑顔消えてゆく  
ビデオ観て世界旅行をしました

三田市 辻 開 子

不安ある買出ししてる距離とって  
地場産の短縮料理美味しくて

長びいた自粛のつけは肥満呼ぶ  
ランドセル名人入り鉛筆までひかり

三田市 中 山 昭 美

物忘れしても鼻歌すぐに出る  
あと一つ欲が目覚める袋詰め

本当の笑顔に会えぬマスク顔  
コロナ禍に試されている人の智慧

三田市 中 山 寅 男

焼け跡に絶望孕む黒い雨  
ナース言うもう来ないでね退院よ

お返しが重荷になったお中元  
胃を切って不本意ながらダイエツト

三田市 馬場 貴美江

喘息と付き合い上手八十路です  
米寿です卒寿めざして筋トレス  
辛抱だ外出白肅肩が凝る  
夢の中極楽浄土へ老い二人

三田市 森 玲子

この時節断捨離しますほつほつと  
毎日マスクすっぴんの日が多くなる  
試すことまだまだあつて死ねません  
そのうちに長寿の税も引かれそう

宝塚市 太田 としお

幸も不幸も自分の所為と思ひ知る  
まっすぐに生きてきたから悔いはない  
許せても自分自身は許せない  
一円も持つて行けないあの世へは

丹波篠山市 澤 良子

湯けむりに疲れを癒す旅の空  
百均の掘り出し物で諭吉飛ぶ  
呆け防止フィルターの網細かめに  
頂いたポインセチアがまだ元気

丹波篠山市 藤井 美智子

花は散りコロナは強く生き残る  
この場所に立ってる生きてるこの瞬時  
失せ物へなかなか出ない老いに酷  
穏やかに新緑愛でて暮らしたい

三木市 山口 ヨシエ

吹き抜けの窓から月に覗かれる  
ていねいに紡いだ今日を折り畳む  
まあまあと優しい風が来て座る  
季は巡る泣いた笑つたいのちの譜

丹波篠山市 横溝 安子

ばあちゃんの長い電話はほけ防止  
熟年の白髪わたしの勲章よ  
三密を守る暮らしもきゆうくつだ  
断捨離をしながらいつも迷つてる

西宮市 高橋 千賀子

コロナでもウグイスの声冴え渡る  
ハチ鳥に元気をもらう夢もらう  
木の芽和え筍ごはんおっいいね  
春風に乗つてわたくし白い蝶

奈良市 尾畑 なを江

テレワーク子供さわいではかどらん  
陽あたりへ猫も孤独も寄つて来る  
大根の花想い出す蝶のむれ  
大臣のミスは誤解と人のせい

生駒市 児玉 規雄

今日からは出社及ばずテレワーク  
観光地来るな来るなのキャンペーン  
越境をいとわずに行くパチンコ屋  
居酒屋がテイクアウトのアルバイト

尾道市 小畑 宣之

あれやこれ気になることを五七五

葉飲むために三食忘れない

天然色映画と言つて歳が知れ

手相では長生きなのに事故で死に

鳥取県 飯野 菖子

過疎の村向こう三軒となりです

野良仕事それでもマスク忘れない

揉めごとが起きないように生きている

揉めごとはないとポツンと一軒家

鳥取県 下田 茂登子

賞味期限切れたうどんも食べている

拾万円計画立てる一人者

血糖値上がる食べ物旨いこと

川柳を作る希望で生きている

鳥取県 田中 重忠

ありがとう一杯言つて逝くつもり

お地蔵のころも汚した鳥の糞

老いてまだ励んでいます菊作り

死にたくもないし手術もしたくない

鳥取県 西谷 悦子

五月晴れ空の青さに洗われる

行楽のシーズン親子触れ合つて

コロナのため外出禁止店不況

物忘れ逆立ちしても還らない

鳥取県 橋谷 静江

つぎつぎと咲く花友の貰いもの

花を見て友の顔まで思いだす

花の前作法なしでのお茶をのむ

合言葉になつてしまつたマスク持つ

鳥取市 上山 一平

鬼さんも目隠し取つてみかん食う

八十でヨイシヨが増えたストレッツチ

天井のへそくり食べたねずみ君

コロナ禍で老いの幸せ捜す旅

鳥取市 大前 安子

苦勞なら籠一杯にありました

あのねだけ聞けば判るよ友だもの

そのことに触れず語らず空仰ぐ

気が付けば我が問題だ自肅せよ

鳥取市 山野 すみれ

雨あがり写真日和のくもり空

お似合いの二人緑の風の中

開けたドアから虹色のメッセージ

丁寧な今日を過ごしてまた明日

倉吉市 伊藤 嘉昭

歩くこと近づく老いを先のばし

気分良し朝の散歩後老いの風呂

一律で先ずは日本を落ちつかせ

コロナ後は補償が日本左右する

倉吉市 大羽雄大

いつ帰る背に呼びかけ妻送る  
早く行け助走ばかりで肩が凝る  
ばかだなあしくじりについ口に出る  
宣言に家の片付けでもするか

倉吉市 宮田風露

春だから素適な絵具買いました  
五月空コロナに負けず泳ぐ鯉  
コロナ禍に農は自粛をしてられぬ  
薫風に三密守り散歩する

境港市 中井虎尾

長い藤美人の影が見えかくれ  
水道料思えば無駄な滝の水  
花大根ながめつゆれる青い海  
ガタガタとゆれ移動する御老体

米子市 川本美津子

出無精の夫今では気にならず  
長すぎた昼寝で余計出る疲れ  
電源を切って自分で一人立ち  
コロナ対策井戸端会議中止する

松江市 相見柳歩

窓からの景色お金にかえられぬ  
横向いたスキに渡そうプレゼント  
パワハラと言われ何にも言えませぬ  
振り返る大きく育つための道

松江市 山根邦代

さあさあと声に出したら軽い腰  
コロナにて箱入りムスメ決めてます  
古里は昔の顔で待っている  
いただきます一人食事も感謝して

出雲市 黒目ひでお

持病もちウイルス恐れ果ごもりに  
パンデミックまるで戦争起きたよう  
感染の恐怖ひしひしひとり旅  
観光地ステイホームで閑古鳥

雲南市 永見安子

気が付けばいつも眉間がこわばって  
自分より孫はどうかと気に掛かる  
会えぬ今スマホ頼りに持ち歩く  
つばめ来て家族で守る網を張り

益田市 篠原紋次郎

ウゲイスが運んでくれた春の声  
梅林に色をつけてく春の風  
曲よりも歌詞を聞いてる春の午後  
今日もまた俺を鍛える風が吹く

笠岡市 小野美那子

何故なのか濡れ出すのは同じ川  
弱点の生真面目豆腐くずさない  
珍客にお口のチャック開き通し  
一たす一が三になる日の上機嫌

瀬戸内市 宮宅 比佐恵

狂コロナ地球制服するつもり  
ウィルスの猛威と同居する怖さ  
新緑を見ながら一人ストレッツ  
生き残りかけて応援エール飯

美作市 岡本 余光

壁に貼る兼題まるで受験生  
川柳が確かな余生お約束  
ひらがなで固い頭のストレッツ  
コロナ禍は手に余るのか神仏

竹原市 若年 幸子

緊急宣言マスク作りとTV漬け  
花柄水玉今日のマスクはベアルック  
マイホーム屋根も柱もコロナ病  
検温チェック無事に入れた待合室

竹原市 土井 輝恵

閉店の貼り紙もあり散歩道  
崖っぷちぶら下がっても運は吉  
傘寿です少し甘えていいですか  
積ん読を整理しながら籠ってる

高知市 三谷 松太郎

こいのぼりコロナの風で泳いでる  
子どもの日こわがらないで遊びたい  
自粛散歩買物どこ行こか  
コロナ野郎もう地球から飛んでいけ

阿南市 小畑 定弘

ほほほの今日の私を許す酒  
手を張って十万円を待っている  
まっさらな朝だサブリが効いてくる  
心電図狂わす人がいるのです

松山市 郷田 みや

追いかけたい一つが決まらないのです  
気になるのはいつもと違う並び方  
目の前に消しゴム覚悟できたのに  
取り敢えず小さく前へならえする

沖繩県 禱 モモト

世の中の見えぬコロナに日日不安  
世界中コロナ戦争死の恐怖  
朝一の検温味覚嗅覚で  
完成のホテルオープンは閉館

沖繩県 宮 すみれ

虫の目が新芽ねらって腹八分  
ぬか床がハンドパワーにたじたじだ  
長い夏 虫軍団とノコギリ葉  
巣ごもりとぼんぼん腹と二十四時

福岡市 本田 さくら

憂うつが二つコロナと骨折と  
風のいたざら洗たく物が肩を組む  
今日は雨花に水やり免除です  
うぐいすがコロナこわいとホーホケキョ

唐津市 岩崎 實

案内の母の法事はうちうちで  
取止めと高校総体新ニュース  
美しい自然「八ヶ」目の保養  
好天気剪定バサミ動き出し

唐津市 前田 廣幸

着脹れを春に剥がされダイエット  
いつ解除ホールドアップされた儘  
ぐうの音も出ない衝かれた痛い処  
パソコン打つ指は蜈蚣の足のごと

五所川原市 むらの ひとり

右手を叱る左手の内弁慶  
苦虫を食べてるうちに桜散る  
神様は舞台袖にて覗き見中  
おトイレで水を流して咳をする

奈良市 仲西 賛郎

話題つきぬコロナコナで立夏過ぎ  
サウナ好き閉められ行けず内湯風呂

(前月分) 神戸市 青木 公輔

立場上少しは怖い話する  
群れを出るたしかに有った下心  
ランドセルの向こうに百人の敵が  
立位置にこだわる姫と殿である  
レコード売るためいやな声も出す

(前月分) 山口市 中前 幸子

噴水の虹きらきらと初夏を描く  
宵待草咲き晩春の胸疼く  
爪を噛む女に明日の地図が無い  
じゃんけんにかけて気弱になってゆく  
明日を描く影が伸びたり縮んだり

# 川柳塔

(つづき)

(前月分) 和歌山市 喜田 准一

正論へ確かと効かした塩コシヨウ  
反対を唱えてウラで手を握る  
心掛け次第良縁くされ縁  
出来の良い子幸せとは限らない  
ニコニコとそつとりストラ告げられる

(前月分) 岩国市 上村 夢香

このごろはラジオがいつも友達で  
女子会の顔が見えない独り酒  
コンサート桜のように散っていく  
ランドセル誇らしそうに待つ四月  
雨音も映画音楽コラボする

(前月分) 岡山市 藤澤 照代

意地を張りもの言わぬ日もあり夫婦  
星屑がこぼれたようなイヌフグリ  
さびしさは重なる音も無くひとり  
三歳のかあさんがいる花筵  
ふるさとのつきは金色うみわたる

## 英語 de Senryu ⑩③

麻生路郎句集 『旅 人』

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

うすぐもり 誰か来そうで 来ぬ日なり

*slightly cloudy day  
somebody might come  
nobody comes*

妻だけがまつる 神様仏様

*only my wife  
worships the God and the Buddha  
in my family*

---

*slightly* わずかに *cloudy day* 曇り日 *somebody* 誰か *might* かも知れない *come* 来る  
*nobody* 誰も~ない *only* だけ *worship* 礼拝する *the God and the Buddha* 神様仏様

---

〜リバーウィローのため息〜世界の川柳・俳句④③ 英語ハイクコンテスト盛況

国内外でハイクコンテストが増えてきました。芭蕉の「奥の細道結びの地」として知られる大垣では、毎年4月に「舟下り芭蕉俳句祭」が開催され、英語ハイクコンテスト部門があります。第1回大会(1991)の投句数は僅か7句でしたが、29年目を迎えた2020年は小学・中学・高校・一般から1738句の応募がありました。応募数の増加は英語ハイクが学校教育の中に取り入れられたことや、英語教育に自国文化の発信が組み込まれたことが誘因だと思います。

*pretty pink hair/ I wonder who she is/ a cherry tree*

(ピンクの髪・誰かと思えば・桜の木)

2020年度特選の中学生の作品です。ピンクの髪が、桜の木に転化するという作者の発想に驚きます。また大垣に暮らす海外からの人びとの応募作品も増えています。日本に居住し、母国語と日本語を学びながら、暮らしに根付いたハイク作品がこれからも生まれてくるでしょう。熊本の「草枕国際俳句大会」(2016)では、ナタリア・ルディチェさん(USA)の作品がグランプリを取りました。「草枕」は夏目漱石記念事業として1996年に創設された著名な国際大会で、海外にも知られています。

*tears of joy/ rain drops run up the window/of home bound plane*

(喜びの涙・雨滴が窓に奔る・故郷への飛行機)

故郷に向かう嬉しさを涙と雨で描出し、それが読者の心に響きます。最近の海外のハイクコンテストでは、ハイク以外にセンリュウ、ハイガ、ハイブンさらにキョウハイまで入っています。この現象はまさに海外での日本の短詩形文学の定着であり、彼の地でいかに変容しているかも興味深いところです。

# 誹風柳多留一二篇研究 85

小栗清吾・細井龍夫

伊吹和男・山田昭夫

石川道子

清 博美

725 あら後家へ出這りをして毒づかれ

小栗 新後家は、後家になりたての女（日国）。毒吐くは、ひどい悪口を言う。悪口雑言を言う（「江」）。

後家になりたての女の家に出入りして、周囲の人からひどい悪口を言われたということ。本人の気持ちはともかく、周囲の連中は岡焼き半分で、「その気で面倒見ているだろう」などと悪口をいうのである。

山田 賛。瓜田に履を納れず。  
清 賛。

726 神前で女中一トむれ泣いて居る

小栗 神前で女中（奥女中または一般女性）

の一团が泣いている、ということしか読み取れないのだが、何のことも全く分からない。ご教授下さい。

伊吹 伊勢神宮あたりでその神々しさと清浄さに感動して？

清 不明。

727 素人の生酔姿の内ばかり

小栗 句意はそのまま、素人の酔っぱらいが見られるのは、正月の松の内ばかりだということである。酔っぱらいに女人も素人もあるまいが、しよつちゅう泥酔しては他人様に迷惑を掛けるような人物を念頭に置いて、普段あまり酒を飲まない人が、年礼の振る舞い酒を断りきれずに飲んで泥酔してしまう様子を

「素人」と表現したところが手柄という句。

生酔も姿の内の人がよく 一 35

生酔のこわく見へない姿のうち 安元智2

清 下戸だと思っていました。

728 大風の跡卜に伊兵衛と虎斗

細井 「大風」がよくわからない。「將軍の御成」だとすると、そのためのじゅんぴやら何やらで上を下への大騒ぎだったが、城へ御帰還の後はそれこそ「風の後の静けさ」で染井には植木屋伊兵衛と藤堂高虎の屋敷がひっそりと残るばかりだ、とでもいうのだろうか。

大風の跡は伊兵衛が宅に成 筋二31

のり物の内から伊兵衛さらハなり

安八智4

跡ハ野となつて染井を御拝領

四七23

伊吹 賛。伊兵衛宅への將軍の御成は、類句

多数。

山田 賛。次の句の後の場面。

大風が伊兵衛が宅へあてるなり 安七智7

清 賛。

729 わづかな恋をして来るやうじみせ

細井 浅草寺境内には二十軒茶屋の外に、五倍子見世、酒中花店、鳩の豆売り、楊子見世等々が軒を並べていたが、楊枝見世には若者の気を引くために美人むの売子を置いていたので、その美人見たさに通いつめて、うまく行ってもせいぜい手を握るくらいで、ついに要以上の楊枝を買ってしまふ浅黄裏を「僅かな恋」と笑っている。吉原へ行けば、たつぷり楽しめるのに……。

浅きうらやうじもないに長居する

安六五五会

顔へ穴あけてやうじを拾本かい

二〇二五

観音へ日参をして手を握り

傍一三六

清 賛。「わづうかな恋」が見付どころ。

730 伴頭の無念引ケ四ツもりをか

細井 大店の番頭は配下の店員たちが寝静まるのを確かめてからこつそりと遊所へ出掛けるので、引ケ四ツまで売れ残っている遊女を買ふことになる。残り物に福は考えられないので、不本意ながら何時もお粗末なので我慢することに。

こつそりと行クか番頭上手なり

明六義二

番頭は子に行寅に帰るなり

四六一九

のちの四ツなるほとけちなつらだハへ

山田 賛。さぞ「無念」であろう。 二四一六乙  
清 賛。

731 せつないにきぬのじゅばんでけいこさせ

細井 下五の「けいこさせ」を「芸子させ」と読んだ駄労解。客の留守居役にしこたま吞まされて切なくなっている踊子は上等の座敷着である絹の襦袢のまま「させ」ている。

伊吹 同じく駄労解。せつないに生活が苦しいという意もある。懐の具合がそれほどいいほけでもないのに、将来大いに稼いでくれそうなので、絹の襦袢を着せて踊りや三味線もの稽古をさせている、踊り子の母。

山田 礎のようなことか。

小栗 伊吹説賛。踊子が営業するのを「させる」とはいわないと思う。

清 同右。ただし、一般の娘の親で、踊り子の母と限定することもなからう。

732 在郷医者なんぞといふと騎馬で来る

細井 町中だったたら医者は駕籠でしずくと来るが、田舎の医者は馬で来るだろう。

田舎医者急病馬で駆ケ附る 一六七一〇

清 賛。距離についても触れなければなるまい。

733 身ン代イが直ると姫のうつとしさ

細井 家が潰れかかっている時は、身上の立ち直しに夢中だったので、さほど気にもしていなかったが、さて身代が持ち直して安定してくると、苦しきまぎれに迎えた持参嫁の存在が気になって来る。勝手なものだ。

身ン上ハたて直ツたがけちなよめ 一一二二

清 賛。

734 いのしゝに笹りんどうの糸ふを立テ

細井 建久四年（一一九三）五月八日より源頼朝は関八州の将士を集めて富士の裾野で巻狩りを実施した。そこで射られた多くの猪には源氏の紋である笹竜胆の絵符が付けられたらう。因みに、曾我兄弟の仇討ちはこの時のことである。五月二十八日のことだった。

猪狼へ笹りんどうの糸ふをつけ 三四一三

小栗 賛。絵符は、江戸時代、公家、武家など、特権者の荷物を陸上輸送する際、その荷物であることを表示した荷札（「日国」）。

清 賛。

# 愛染帖

## 新家 完司選

(投句278名)

### 音楽の原点だろっ子守唄

河内長野市 村上 直樹

(評) 楽器が生まれるよりも前の原始時代。赤ん坊を抱いてあやしなながらリズムカルに声を発した。それが音楽の始まりだろう。

姪っ子の制服ちよつと着てみたい  
佐賀県 真島久美子

(評) 高校に入学した姪っ子。制服姿が眩しいほど輝いている。ひよつとしたら、ひよつとしたら、私もまだ似合うかもしれない。

塩サバが旨い庶民の舌である  
大阪府 高杉 力

(評) フォアグラやキャビアやトリュフ等には無関心。塩サバか秋刀魚かメザシがあれば大満足。鍛え抜かれた庶民の舌である。

山盛りにシラス乗つけて大富豪  
鳥取県 斉尾くにこ

(評) ご飯が見えなくなるほど山盛りにシラスを乗つける。それだけでたちまち大富豪の気分。だが、少なからず勇気が要る。

物差しに遊び心を入れておく  
黒石市 北山まみどり

(評) 精密機械工業の定規は少しの狂いも許されないが、ニンゲンのところの定規はゆったり遊びを持たせておきたいものである。

転勤の初日にあだ名いただけた  
唐津市 仁部 四郎

(評) 隠れてコソコソ囁かれた仇名ではなく、歓迎会の席上などで好意を持って披露されたのだろう。「ウエルカム」のシルシだ。

坊さんの説教聴いてヤル気出る  
江南市 脇田 雅美

(評) 神仏は苦手とか、抹香臭いのは嫌いなどと敬遠しては深遠な教えも馬に念仏。お坊さんの説教も心に響くことがある。

付度に続き覚えた自肅の字  
奈良県 長谷川崇明

(評) ニュースに度々出てくるおかげで覚えてしまった付度や自肅。加えて、本来の意味よりも悪いイメージになってしまった。

自肅して夫の顔を見るばかり  
貝塚市 吉道あかね

(評) 外出自肅の所為で同じ顔を見るばかり。夫婦喧嘩が増えたという話はしばしば聞くが、稀には仲良くなった例もあるだろう。

来年はペビィラツシュの予感する  
神戸市 松倉 正美

(評) ステイホームのおかげの「オメデタ」

が増えたとしたら、コロナがもたらした思わぬ効用！ 来年が楽しみなことである。

南あわじ市 萩原 狸月

職退いて花のひとつも買おう余裕  
福井市 伊藤 良一

定年後自分相手の策を練る  
堺市 村上 玄也

万歩には届かぬ万歩計を買う  
奈良市 加藤江里子

郵便局遠回りして七百歩  
長岡京市 山田 葉子

リビングで後ろ歩きをしています  
箕屋川市 廣田 和織

わがままは仲間にならない渡り鳥  
大阪市 津守 柳伸

虫干しのつもり私の日向はこ  
今治市 永井 松柏

ちゃらんぱらん男と鯖は酔でしめる  
岡山県 高岡 茂子

味よりもインスタ映えをとるグルメ  
松江市 石橋 芳山

歳取った気がする派手になってきた  
伊丹市 延寿庵野鶴

千手観音奥の手ひとつしかと持つ  
神戸市 上田 和宏

弥勒菩薩なに考えていらつしやる  
沖繩県 禰 モモト

父と子の形揃わぬ柏餅  
西宮市 高橋千賀子

運勢の嘘つき梯子から落ちる  
松江市 中筋 弘充

チューリップの首はストレスにも折れる  
大洲市 花岡 順子

乾いてはいけない妻の台ふきん  
長野県 丸山 健三

そっぽ向く角度がいつも九十度  
鳥取市 山野すみれ

戻らない時計の針へ陽が沈む  
今治市 渡邊伊津志

CMで会社のセンス暴露する  
青森市 守田 啓子

かあさんが飲むはずだったココア飲む  
男鹿市 伊藤のぶよし

綿棒の先の嵐よ飛んでゆけ  
男鹿市 伊藤のぶよし

この気持訛りで言えばスーとする  
横濱市 居谷真理子

民主主義と脱脂粉乳育ちです  
羽曳野市 吉村久仁雄

川岸のベンチで年金の話  
大阪府 小野 雅美

見舞客演歌な人やジャズな人  
大阪府 小野 雅美

健さんは無理寅さんなら真似できる  
大阪府 小野 雅美

蝶二匹亡妻にも彼ができたらし  
池田市 上山 堅坊

ネックレス外せなくって亡夫想う  
米子市 妹能令位子

気に入らぬ数値ばかりの血圧計  
三田市 大西 重男

ヒタヒタと歳月の波耳ふさぐ  
黒石市 石澤はる子

最初から飛ばし二流を曝け出す  
三原市 鴨田 昭紀

金払い悪いとなれぬ馴染み客  
弘前市 高瀬 霜石

思春期といえは今でもそうですよ  
鳥取県 門村 幸子

あせるまいあわてまいとて茶の香り  
河内長野市 穂口 正子

スケジュール決めてはいるが風まかせ  
河内長野市 穂口 正子

予定無しのつべらぼうのカレンダー  
尼崎市 山田 耕治

自肅中も老いはきつちり進行中  
尼崎市 山田 耕治

午後十時酒の匂いのする電話  
八王子市 川名 洋子

運転手と車掌以外はスマホ見る  
八王子市 川名 洋子

家籠りテレビ相手にポツチ飲み  
米子市 成田 雨奇

濃厚な接触もなく独り居る  
米子市 成田 雨奇

感染者少ない県ですみません  
米子市 成田 雨奇

暖房を入れる入れない犬と猿  
米子市 成田 雨奇

丹波篠山市 澤 良子

昨年ツバメですかと尋ねたい  
米子市 後藤美恵子

抱っこした子らが抱かせるカーネーション  
唐津市 坂本 蜂朗

年頃の娘と門限が妥協する  
西予市 西田美恵子

わくわくしたわ鑑定団に出すまでは  
防府市 坂本 加代

ケータイもスマホも持たず生きている  
防府市 坂本 加代

環境にコストは言わぬ紙トレイ  
米子市 後藤 宏之

途中下車できるから旅JR  
大阪市 宮崎シマ子

よく稼ぐ孫にお嫁のない時雨  
堺市 奥 時雄

ゴキブリの仕掛けカラだどがっかりし  
大阪市 高杉 千歩

一日を有り難うおおきに車椅子  
奈良県 中堀 優

俺に似て子は二人とも石頭  
鳥取市 前田 楓花

冬からの不満を海に捨ててに行く  
堺市 坂上 淳司

軍歌だと気付いて止める戦中派  
大阪市 田中ゆみ子

手も足も口も元気で仕舞い風呂  
大阪市 田中ゆみ子

最前線の医者に感謝のコロナ戦  
札幌市 三浦 強一

命懸け戦う医師にただ拍手  
和歌山市 上田 紀子

平和呆け一気に覚ます新コロナ  
横浜市 加藤 佳子

出歩いているとコロナにかまるぞ  
岡山市 丹下 凱夫

ステイホーム苦痛でないと言う夫  
三田市 上田ひとみ

ステイホーム不和なく一人居の気楽  
河内長野市 木見谷孝代

ステイホームだけどパズルは未完成  
松山市 郷田 みや

自粛ぶり見て満更でない日本  
大阪市 樋口 眞

それなりに部屋かたづけてオンライン  
奈良市 米田 恭昌

引きこもり酒とタバコがまた戻り  
塩竈市 木田比呂朗

家籠り三食昼寝のコロナ太り  
岡山市 大石 洋子

狭い家五人一緒は気が重い  
池田市 太田 省三

晴天が続き自粛もままならず  
米子市 吉田 陽子

コロナなど解せんツバメの宙返り  
大阪府 高木 道子

三密を理由に妻は別の部屋  
神戸市 敏森 廣光

三密を避けるに丁度よい田舎  
鳥取市 田中 天翔

加齢臭気にせずにするデイスタンス  
宝塚市 岸田 万彩

命かけコロナと対峙するマスク  
奈良県 渡辺 富子

戦うぞ手縫いマスクに雨合羽  
下松市 有海 静枝

着る服に合わすマスクの粋なこと  
大阪府 米澤 俣子

新型コロナマスクの柄が競ってる  
八尾市 山川 寧

マスク美人ばつちり決めるアイメーク  
羽曳野市 宇都宮ちづる

街を行く舞妓もマスク新コロナ  
高槻市 富田 美義

助かるわマスクの下のしみの顔  
箕面市 中山 春代

茶の間でもマスクしてろと夫言う  
和歌山市 土屋起世子

銀行ももうマスクにはたじろがぬ  
京都市 都倉 求芽

うがい手洗い外せぬマスク膝シツプ  
東大阪市 北村 賢子

脳自粛ネジを巻いても叩いても  
奈良市 大久保眞澄

コロナ禍に命知らずのパチンコ屋  
高槻市 原 洋志

パチンコ店の社長の気持も分かる  
大阪市 谷口 義

コロナ騒ぎでんでん虫も角隠す  
岡山県 田中 恵

空白の予定表から風の声  
大阪市 平井美智子

淋しそうな句会日の無いカレンダー  
貝塚市 石田ひろ子

暫くは無呼吸症候群の日々  
河内長野市 山岡富美子

コロナ終われば行くぞと見てる旅の本  
高槻市 片山かずお

コロナ禍を癒やし心に蒸しタオル  
越谷市 久保田千代

ウイルスが変えてしまった死生観  
松山市 柳田かおる

ベト病になりそうな外出自粛  
安来市 原 徳利

退屈でとても疲れておりますの  
香芝市 大内 朝子

縁側に居付く居場所の無い夫  
尼崎市 清水久美子

コロナ風去れば行きます暮参り  
大阪市 古今堂蕉子

エイプリルフルと言ってくれコロナ  
和歌山市 柏原 夕胡

休会も律儀に句作だけはする  
鳥取市 山下 凱柳

コロナ自粛ゆつくり学ぶ五七五  
大阪市 榎本 舞夢

長文は苦手だからね五七五  
大阪市 岩崎 玲子

不要不急しつかり柳誌読み直す  
和歌山市 松原 寿子

閃きは年輪からのテレパシー  
三田市 北野 哲男

Webにて句会巡りの武者修行  
笠岡市 藤井 智史

手作りマスク選んで句座の会を待つ  
米子市 野川 宣子

枕元句箋と6B待機する  
鳥取市 谷口回春子

辞書を引く僕もやっぱアナログ派  
三田市 多田 雅尚

全没の涙が滲む古畳  
岡山市 折鶴 翔

ステイホーム増える酒量と減る意欲  
尼崎市 永田 紀恵

外出はできず家族で酒を酌む  
大阪市 奥村 五月

終電を気にせずに済むネット呑み  
富士見市 中島 通則

家飲みのお相手今日は藤圭子  
弘前市 稲見 則彦

強かに飲もうコロナが去ったあと  
河内長野市 梶原 弘光

日本酒で除菌するのは二十歳から  
和歌山市 まつもととこ

封切ったボトル空ければ午前様  
三田市 村田 博

一杯と決めて二杯目飲むスリル  
熊本市 杉野 羅天

すぐに酔う酒に女に乗り物に  
大阪市 江島谷勝弘

深入りをせずほろ酔いで別れましょ  
桜井市 安土 理恵

飲み方を見る人がいる只の酒  
美作市 岡本 余光

泣き言がコップの中で騒いでる  
大阪市 石田 孝純

焼酎の牛乳割りを飲めという  
府中市 岸田 武

食べる量減つても減らぬ酒の量  
広島市 岸本 清

晩酌に一〇〇引く七を取り入れる  
香南市 桑名 孝雄

七回忌好きなお酒で、ありがたう  
瀬戸内市 宮宅比佐恵

二次会も難なくこなすウーロン茶  
西宮市 緒方美津子

二日酔いです認知症ではありません  
藤井寺市 鈴木いさお

ハズキルーベヤつと買えます支援金  
三田市 野口真桜子

パソコンを買い替えようか十万円  
三田市 堀 正和

通院のネコにも欲しい給付金  
朝霞市 前田 洋子

景気まで引きずり下ろすコロナ菌  
大阪市 坂 裕之

雑踏を避けて畑の草を抜く  
富田林市 山野 寿之

好きな場所自由に行つて叫びたい  
箕面市 出口セツ子

暇だけど混む日求めて行く映画  
松江市 梅瀬みちを

雨音とシャワーリズムがチャンプル  
沖縄県 宮 すみれ

水音に混じるあぶくや鯉の息  
茨木市 細田マキコ

押し車頼りに歩く散歩道  
鳥取県 山下 節子

人生にまだ未使用の色がある  
豊橋市 西郷紀美代

忘れてた驚く心蟻の列  
生駒市 饗庭 風鈴

美意識のつづく限りはまだ真面  
倉吉市 山中 康子

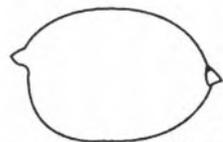
地球丸ごとアルコール漬けしましょうか  
三田市 福田 好文

共選欄

檸檬抄

(薰風書、カッタとも)

(投句372名)



K. K

「ゆらゆら」 水野 黒 兎 選

川柳は血をサラサラにするらしい  
 お茶漬けをさらさら疑似餌とはしらず  
 さらさらと早苗五月の風になる  
 さらさらと瀬音抱えた花筏  
 血液はさらさら汚点など見せぬ  
 さらさらの血をイメージにジヨギング  
 ふっきた迷いさらさら血が巡る  
 お詫びする気などさらさらないお詫び  
 文句などさらさらないと塩むすび  
 やる気などさらさらないが口は出す  
 さらさらと記憶こぼれて加齢知る  
 「この星を出て行けコロナ」笹飾る  
 風抜ける内緒話か笹の声  
 さらさらときついこと書くおんな文字

弘前市 高瀬 霜石  
 仙台市 月波 与生  
 和歌山市 佐藤 まき  
 鳥取市 上山 一平  
 岡山市 水見 心咲  
 丹波篠山市 酒井 健二  
 犬山市 金子美千代  
 松山市 栗田 忠士  
 広島市 松尾 信彦  
 堺市 村上 玄也  
 大阪府 大浦 福子  
 箕面市 中山 春代  
 池田市 倉本 一弥  
 伊丹市 延寿庵野鶴

「ゆらゆら」 鴨 谷 瑠 美 子 選

少女の髪さらさら流す初夏の風  
 洗い髪さらさらとして神田川  
 昇進へ行く気さらさら持てなんだ  
 さらさらの肌着を着せる汗っかき  
 さらさらの夏座布団に涼を呼ぶ  
 読めぬ字をさらさらと書くサイン会  
 そんな気はさらさらないと裏で言う  
 始末書をさらさら妻へ十枚目  
 さらさらの血ですと医者のお鼓判  
 血液はさらさら汚点など見せぬ  
 さらさらと秘密が書ける日記帳  
 朱印帖さらさら記帳心地よい  
 さらさらと一句所望の箸袋  
 川柳をやめるつもりさらさらない

桜井市 安土 理恵  
 豊中市 貝塚 正子  
 大阪市 川端 一步  
 大洲市 花岡 順子  
 羽曳野市 藤原 大子  
 高槻市 片山かずお  
 名古屋 富田 末男  
 松原市 森松まつお  
 西宮市 高橋千賀子  
 岡山市 永見 心咲  
 鳥取市 太田 睦子  
 京都府 北野クニオ  
 出雲市 竹治ちかし  
 寝屋川市 富山ルイ子

K点を越えた百歳のさらさら	三原市	笹重	耕三
灰汁を取り私をさらさらにする	海南市	小谷	小雪
手を合わす指から零れゆく祈り	大阪市	平井美智子	
また一つ舌はさらさら嘘を吐く	富田林市	中村	恵
小川さらさら会いたい人の声になる	藤井寺市	太田扶美代	
座敷童さらさら歩くいろり端	箕面市	酒井	紀華
さらさらと海馬が過去を消して行く	東大阪市	佐々木満作	
別れる気さらさらないが蟻地獄	神戸市	山口	光久
戦争をさらさら知らぬ戦好き	大阪市	平賀	国和
ステントのお蔭さらさら血が流れ	越谷市	久保田千代	
するならばトリートメントよりも恋	佐賀県	真島久美子	
砂時計さらさら今がこぼれてる	貝塚市	吉道あかね	
さらさらと陽気な母は空の青	長野県	丸山	健三
何事もさらさら受けて風邪をひく	八幡市	今井万紗子	
さらさらになつて夫婦に隙間風	鳥取市	山下	凱夫
さらさらとしゃべる言葉の裏を読む	豊中市	上出	修
さらさらの手だあの時の母の手だ	宝塚市	丸山	孔一
シャッターを下ろしさらさら梅茶漬け	大阪市	高杉	力
さらさらの粥で命を確かめる	三田市	谷口	修平
愛とエゴ捨てさらさらのおつきあい	香芝市	山下	純子
さらさらと刻が流れる砂時計	和歌山市	古久保和子	
傷口をさらさらにして風は止む	鳥取県	斉尾くにこ	

茶漬けさらさら肩の力が抜けて来る	羽曳野市	吉村久仁雄
さらさらの血液目指し飲むサブリ	三田市	丹羽 美恵
さらさらへ肉はひかえて鯖鱈	藤井寺市	鈴木いさお
謝る気はさらさら持たぬ高い鼻	唐津市	坂本 蜂朗
さらさら文句言えない立場僕無職	大阪市	柴本ばつは
まだ髪は恋もパーマも知らなくて	橿原市	居谷真理子
恋愛にさらさら縁のないわたし	三原市	鴨田 昭紀
さらさらな手ばかり握っていいですか	吹田市	太田 昭
グラニュー糖ついさらさらと入れすぎる	神戸市	上田 和宏
コーヒーへさらさら恋を甘くする	三原市	笹重 耕三
さらさらと手帳に書いたのに忘れ	富山市	伴 よしお
さらさらとお世辞言う人信じない	大山市	金子美千代
嫁と婿さらさらしてて物足りぬ	松江市	榎瀬みちを
さらさらと流せん記事が多過ぎる	大阪府	高木 道子
トップの嘘がさらさら流れ春の鬱	羽曳野市	徳山みつこ
「この星を出て行けコロナ」笹飾る	箕面市	中山 春代
手話の指さらさら五月の風を切る	堺市	矢倉 五月
そんなつもりサラサラないと悲びれず	豊橋市	小松くみ子
さらさらときついこと書くおんな文字	伊丹市	延寿庵野鶴
さらさらと流して痴呆症になる	倉吉市	牧野 芳光
せせらぎのごとく流れてゆく記憶	大阪市	石田 孝純
さらさらと脳から記憶消えてゆき	羽曳野市	三好 専平

さらさらのはずの未練をコップ酒	唐津市	仁部	四郎
さらさらの味噌汁暗示する二人	大阪市	古今堂	蕉子
さらさらの流れの先を意識する	松山市	大内	せつ子
衣擦れの音煩惱をかき立てる	桜井市	安土	理恵
風紋がさらさら未来素描する	喜屋川市	川本	信子
風紋にわが人生の年重ね	橋本市	石田	隆彦
さらさら砂が落ちなきやならぬ砂時計	高槻市	片山	かずお
新しい風紋つくる砂嵐	三田市	北野	哲男
さらさらの砂が知ってる愛の意味	河内長野市	坂野	澄子
さらさらと過去を飲みこむ砂時計	広島市	田桑	恵子
さらさらと演技は要らぬ砂時計	岡山市	田中	恵
砂時計ちよつと休憩しませんか	和歌山市	西川	千鶴
砂時計コロナに刻を食べられる	大東市	小川	賀世子
嫉妬する少女の髪が風にゆれる	松山市	柳田	かおる
さらさらの少女の髪に風薫る	和歌山市	北原	昭枝
サラサラの少女の髪に夏帽子	大阪市	森	廣子
洗い髪さらさら初夏が香り立つ	大阪市	若本	安代
雪解けをせせらぎにする遅い春	男鹿市	伊藤	のぶよし
せせらぎのさらさら森の生きる音	各務原市	喜多村	正儀
せせらぎを見つめ音符をつけてみる	横浜市	菊地	政勝
結末は言うなさらさら降った雪	鳥取市	夏目	一粹
うりずんの風がさらさら春告げる	沖繩県	あらさくら	

そんな気はさらさらないと眼をそらす	京都市	都倉	求芽
毛頭にさらさらないと書き記す	尾道市	小川	道子
さらさらとファンのシャツにサインペン	枚方市	丹後屋	肇
コロナ知らずさらさら泳ぐ鯉のぼり	大阪市	宮崎	シマ子
さらさら髪パツパリ切つて子育て中	岡山市	大石	洋子
さらさらと入学前に字を覚え	羽曳野市	磯本	洋一
空腹に3分長い砂時計	豊橋市	西郷	紀美代
さらさらと出た嘘妻に見抜かれる	宮崎県	黒木	栄子
さらさらと流れて欲しい令和の世	大阪市	平賀	国和
文句などさらさらないと塩むすび	広島市	松尾	信彦
さらさらと書けた手紙の心地良さ	豊中市	池田	純子
さらさらと日本の四季は万華鏡	尼崎市	藤田	雪菜
収束に何度も返す砂時計	羽曳野市	宇都宮	ちづる
信じてる玉ネギが血をさらさら	大阪市	江島	谷勝弘
自慢話さらさら流し聞いている	鳥取市	岸本	孝子
代読の弔辞サラサラ味が無い	唐津市	山口	高明
支払う気さらさらないが聞いてみる	大阪市	小野	雅美
殺す気はさらさらないと言う自白	奈良県	長谷川	崇明
欲などはさらさらないと嘘をつき	鳥取市	倉益	一瑤
さらさらと英語読めます喋れます	大阪市	樋口	眞
月へ行くつもりさらさらありません	島根県	伊藤	寿美
里の川さらさら愚痴を流します	奈良県	渡辺	富子

邪心などさらさら無いと若葉風  
 さらさらと樹液運んでみどりの葉  
 野心などサラサラ見せぬバラの棘  
 風薫るサラサラ流れていく記憶  
 さらさらとあしたは明日花筏  
 手話の指さらさら五月の風を切る  
 さらさらと無窮をつける水の音  
 お静かにわたしを漏れていく記憶  
 さらさらと風のリズムをうたう森  
 滝の水さらさら過去を流し去る  
 散るさくらあゝの世手向けの花筏  
 さらさらとあなたの過去と花筏  
 シルバープランさらさら後はねこじやらし  
 石ころの一つさらさら京の庭  
 さらさらと日本の四季は万華鏡  
 さらさら髪バツサリ切つて子育て中  
 まだ髪は恋もパーマも知らなくて  
 さらさらになるまで風の中にいる  
 さらさらと月日振り返りはしない

秀句

茶筌さらさら煩惱はまだ溶けぬ  
 頷いてさらさら流れ去つて無為  
 蟠りさらさら流す血の絆

貝塚市 石田ひろ子  
 米子市 妹能令位子  
 和歌山市 福井 菜摘  
 横浜市 川島 良子  
 堺市 柿花 和夫  
 堺市 矢倉 五月  
 河内長野市 森田 旅人  
 尾道市 大本 和子  
 香芝市 大内 朝子  
 羽曳野市 吉村久仁雄  
 三田市 尾崎 一子  
 松山市 宮尾みのり  
 西予市 黒田 茂代  
 八尾市 宮西 弥生  
 尼崎市 藤田 雪菜  
 岡山市 大石 洋子  
 榎原市 居谷真理子  
 東京都 川本真理子  
 笠岡市 藤井 智史  
 岡山市 工藤千代子  
 下松市 有海 静枝  
 和歌山市 堀 富美子

達筆の文に返事の書きにくし  
 返事ならさらさら書ける「ありがとう」  
 野心などさらさら見せぬバラの棘  
 やる気などさらさらないが口は出す  
 さらさらと核廃絶の署名する  
 来世の縁さらさら無いと妻は言う  
 ギラギラと生きてサラサラ死んでゆく  
 さらさらと言つておしまい何も無い  
 顔を見てさらさら名前出てこない  
 さらさらと気持よく流れる記憶  
 未練などさらさらないとみんな嘘  
 今は昔さらさらと梳くわが御髪  
 さらさら塗る男のデオドラント  
 川柳は血をサラサラにするらしい  
 横文字をさらさらと医師のペン  
 ステントのお蔭さらさら血が流れ  
 絶好調さらさら樹目埋めてゆく  
 さらさらのはずの未練をコップ酒  
 月の雫さらさら浴びている居場所

秀句

さらさらと海馬が過去を消して行く  
 さらさらと風のリズムをうたう森  
 身も心もさらさらになる御来光

八尾市 内海 幸生  
 鳥取県 門村 幸子  
 和歌山市 福井 菜摘  
 堺市 村上 玄也  
 大阪市 田中ゆみ子  
 奈良県 谷川 憲  
 大阪市 高杉 力  
 鳥取県 飯野 菖子  
 高槻市 松岡 篤  
 八幡市 武田 悦寛  
 堺市 奥 時雄  
 熊本市 杉野 羅天  
 安来市 原 徳利  
 弘前市 高瀬 霜石  
 高砂市 松尾柳右子  
 越谷市 久保田千代  
 弘前市 福士 慕情  
 唐津市 仁部 四郎  
 八尾市 宮西 弥生  
 東大阪市 佐々木満作  
 香芝市 大内 朝子  
 川西市 大坪 一徳

「騒ぐ」

(投句 244名)

藤田武人選



ポップコーン閉じ込めるなど鍋の中  
朝の靴ひも切れハッと胸騒ぎ  
旧姓のマドンナひとり胸騒ぎ  
映画から家族笑わず志村けん  
ストレスを飲んで騒いでぶっ飛ばす  
三蜜の爆弾抱えライブする  
来年の花見は騒ご二年分  
ロックダウン静かにしろと言っている  
当たったら大騒ぎする予定でず  
横綱が別に勝とうが負けようが  
好きな娘の前でことさらはしゃいだ日  
恋をする少女家族の空騒ぎ  
秃鷹にチクってやると言うカラス  
告白へ胸騒ぎする観覧車  
胸騒ぐあの人見えぬだけなのに  
胸騒ぎ若きあの日の緑の目  
騒がせてホシはチャッカリ輪の外に  
騒動のもととは小さなデマだった  
会見の一語に騒ぐツイッター

明石市 糀谷 和郎  
大阪府 米澤 俣子  
広島市 松尾 信彦  
生駒市 飛永ふりこ  
東大阪市 佐々木満作  
丹波篠山市 酒井 健二  
安来市 原 徳利  
高槻市 松岡 篤  
岡山市 丹下 凱夫  
大阪市 坂 裕之  
三田市 谷口 修平  
河内長野市 梶原 弘光  
富田林市 中村 恵  
佐賀県 真島久美子  
伊丹市 延寿庵野鶴  
池田市 上山 堅坊  
熊本市 杉野 羅天  
奈良市 宇賀 史郎  
松山市 宮尾みのり  
八尾市 山根 妙子

騒がせてしてやったりの週刊誌  
騒音に弱者の悲鳴混じってる  
青春の声高らかにデモの列  
責任のない末席が騒がしい  
言葉尻とらえ野党がまた騒ぐ  
抑えてた血が騒ぎだす解禁日  
初孫が這った立ったと大騒ぎ  
血が騒ぎ過ぎると困る聴診器  
喧騒を逃れて森の奥で咲く  
恋模様ころころピンクに騒ぎ出す  
黒門の喧騒今は懐かしい  
お騒わがせしましたパソコンを閉じる

佳句

ポケットの中で騒いでいる無念  
消灯を待つ始める枕投げ  
流行に騒ぐ事なく好きな服  
喧噪の中で独りの繭の中  
差別化かミリの違いを騒ぎたて

人

騒がしい世を騒がしくするフェイク  
地 チャンネルを争う朝のマグカップ  
天 いち抜けたなんて言うから輪が騒ぐ  
軸 五つ目で揃いピンゴの大騒ぎ

南あわじ市 萩原 狸月  
寝屋川市 川本 信子  
橋本市 石田 隆彦  
鳥取市 岸本 宏章  
大阪市 小野 雅美  
大山市 金子美千代  
弘前市 福士 慕情  
堺市 矢倉 五月  
藤井寺市 太田扶美代  
香芝市 大内 朝子  
豊中市 きとうこみつ  
樺原市 居谷真理子  
大阪市 平井美智子  
松原市 森松まつお  
大阪市 笠嶋 恵美  
河内長野市 森田 旅人  
大阪市 原田すみ子  
堺市 澤井 敏治  
黒石市 北山まみどり  
岡山市 永見 心咲

「 酔 」

川 島 良 子 選  
(投句 241名)



三本立て都こんぶと見る映画  
減塩をお酢で補う妻の愛  
母さんごめん妻の甘酢について行く  
子の手借り酢飯を冷ますいい時間  
ふるさとの旬が届いて酢みそ和え  
便利酢が助けてくれる老い独り  
頑な心酢漬けにしてほぐす  
大雑把な母の酢の物大所帯  
甘めの酢飯好きな男を待っている  
酢酸でコロナころりと逝ってくれ  
優柔不断な男を酢で締める  
盃に黒酢が朝のルーティーン  
酢を効かす母となる娘にちらし寿し  
ステイホーム子に伝えたい酢の料理  
倦怠期の会話にお酢のひとつ  
甘酢ばい恋の想い出胸に棲む  
ふところ手酸いも甘いも噛み分ける  
バラ寿司はひ孫誕生うすめの酢  
舌先が忘れぬ亡母のちらし鮎  
帰省子の酢の物食べる子になれり

河内長野市 穂口 正子  
池田市 奥園 敏昭  
大阪市 田中ゆみ子  
和歌山市 上田 紀子  
八幡市 武田 悦寛  
池田市 上山 堅坊  
河内長野市 木見谷孝代  
唐津市 坂本 蜂朗  
堺市 矢倉 五月  
尼崎市 清水久美子  
三原市 鴨田 昭紀  
防府市 坂本 加代  
八尾市 山根 妙子  
加西市 山端なつみ  
河内長野市 中島 一彌  
藤井寺市 藤井 富子  
倉吉市 山中 康子  
富田林市 山野 寿之  
河内長野市 森田 旅人

奥様の機嫌で変わる酢の加減  
錆びぬよう朝は黒酢とストレッチ  
酢の物が苦手で苦勞した昔  
一滴のお酢に中華が目覚ます  
酢のものを一品添えて食進む  
酢加減が母に似ている姉妹  
酢の物を好む二人で恙なし  
在宅の身体ボン酢でダイエツト  
母さんが腕をふるった祭り寿司  
ざらついた心にお酢を垂らされる  
酢味噌和えははのレシビが生きている  
みかんの酢足して優しい味にする

佳 句  
酢こんぶで眠け紛らす受験生  
自己中なオトコ酢水に沈ませる  
レモン酢が乱れた心浄化する  
酢をきかせ明日という日に賭けてみる  
加速する脳の老化を酢で締める

人  
青いまま酢でしめておく小生意気  
地  
免疫を高めるお酢の隠し味  
天  
冷やし中華始めましたと夏が来る  
軸  
酢味噌和え一品子供から脱皮

三田市 上田ひとみ  
堺市 内藤 憲彦  
越谷市 久保田千代  
丹波篠山市 酒井 健二  
松山市 宮尾みのり  
高槻市 島田千鶴子  
熊本県 岩切 康子  
豊中市 藤井 則彦  
岡山市 丹下 凱夫  
大阪市 小野 雅美  
弘前市 福士 慕情  
大洲市 花岡 順子  
横浜市 菊地 政勝  
佐賀県 真島久美子  
寝屋川市 川本 信子  
八幡市 今井万紗子  
貝塚市 石田ひろ子  
東京都 川本真理子  
東大阪市 佐々木満作  
弘前市 高瀬 霜石

# 初歩教室

## 題 — 魔法

### 高瀬霜石

これを書いているのが、5月上旬。

新型コロナウイルスは、地球をまるごと席卷し、終息する気配はまったくくない。

今回の題「魔法」と、「コロナ」がびたりマッチして、同想句がどっさり届いた。句会や大会ならば——ゼーンぶ相打ちで——みんな没になるのだが、ここはそのでの場所ではない。全没にするにはとても忍びない。せつかくの「コロナ句」だ。一部を紹介しよう。

ちちんぶい新型コロナ飛んでいけ マキコ  
チチンブイ消えてなくなれコロナ菌 千賀子  
早よほしいコロナ退治の魔法薬 光雄  
魔法かけすべて消滅コロナ菌 風露  
新型コロナナまるで魔法をかけたよう ひでお  
世界中パンデミックの魔にかかる (あ)さくら  
感染症止める魔法はないものか 秀彦

①いつも通り、まずは上と下を入れ替えてみる。入れ替えてみて、どちらがよりドラマチックになるかをよくチェックし、句を組み立ててみるべきだろう。

(▼が原句。▽が参考句)

▼世界中魔法でもかけられたのか ゆき

▽魔法でもかけられたのか世界中

▼孫のケガばあちゃん魔法ですく治る (樺)良子

▽ばあちゃんの魔法で治る孫の怪我

▼八十路でも若い若いと魔法かけ 由紀子

▽ここは、上が重くなくても、あえて、

▽若い若いと魔法をかける八十路でも

▼マジックで菌食う鳩を出してくれ 勝正

▽ウイルスを食う鳩出してマジックで

② たった五・七・五なのに、言葉がダブったり、

不要な言葉があつたりもする。できるだけ

シンプルに仕立てたいものだ。

▼お願いね鏡よ鏡滅消して (樺)良子

「鏡よ鏡」ときたら「お願い」はいらない。

▽鏡よ鏡わたしの皺を消しとくれ

▼手鏡を下せば小百合に妻化ける (貞)正子

コレ、やつぱり言い過ぎでしょう。

▽手鏡を下せば妻は小百合さま

▼ありがとう魔法のことばフリーです 峰子

「フリーです」が、分からんでもないけど、も

っと分かりやすくした方がいいんじゃないね。

▽ありがとう これは魔法の言葉です

▼母の手の千手観音摩訶不思議 眞智子

これも、あえて「摩訶不思議」をカット。

▽母の手に千手観音おわします

▼嘘を真実に見せる涙は魔法です 一弥

この句は、後半の「涙は魔法です」が肝。

だから、前半はサラリと流したい。

▽本当か嘘か涙は魔法です

▼ピアノ売ってちょうだい泣く児みな笑顔 閑

面白い。だからこそ、もっとシンプルに。

▽ピアノ売ってちょーだい泣いた子も笑う

▼桜の下春の魔法にかけられる (南)廣子

俳句のいわゆる季重ねの句。せつかくの春

だからさあ、ロマンチックにいきまひょう。

▽桜の下で君に魔法をかけられる

③余分な言葉を切つて——視覚的な句に。

▼消えているここに置いたメモ五枚 崇史

「五枚」の意味は、作者にしか分からない。

▽消えている確かに置いたはずのメモ

▼監督のひとこと生んだサヨナラ打 亜希子

面白いけれど、ちょっと説明過多か。「生んだ」までは言わなくていいと、僕は思う。  
▽監督の一言カキーンサヨナラ打

④この言葉でいいのか？ もっと適切な言葉はないのか？

▽夢叶う魔法をかけて今日も寝る もとこ  
これはこれでいいのだけれど、なんか、イマイチ美しくないのだなあ。僕ならば、  
▽夢叶う魔法をかけて床に着く

▽添い遂げる魔法が解けぬいい夫婦 奈津子  
どうもねえ。「いい夫婦」がイマイチ。

▽添い遂げる魔法が解けぬまま夫婦

▽魔法です妻を口説いた決め文句 義明

「決め文句」なんて聞いたことないし、こ  
こは素直に、これで。

▽魔法です妻を口説いた決め台詞

▽めっちゃ綺麗魔法かけすぎ厚化粧 えい子  
言いたいことは、めっちゃ分かるけどもさ。

上の五か、下の五の、どちらかの単語を整理したら、すっきりするのは。

▽めっちゃ綺麗あなた魔法のかけすぎよ

▽厚化粧あなた魔法のかけすぎよ

▽ビビッと来た笑うあなたにロックON 厚江

厚江さんは、松田聖子タイプですな。ただねえ「笑うあなた」はいいかなものか。  
▽ビビッと来たたきみの笑顔にロックON

▽おばあちゃん巧みにさそう魔の電話 一平  
ちょっとしたところだが、こうしてみたら。

▽ばあちゃんを巧みに誘う魔の電話

▽孫はサリー飽きず呪文と竹ぼうき 厚子  
これも、ちょっとしたところ。

▽孫はサリー飽きずに呪文・竹ぼうき

▽風立って天の魔法か花吹雪 蟻日路

「風立って」が、イマイチどうも美しくない。  
ここはあえて、文語体でいってみるか。

▽風立ちぬ天の魔法か花吹雪

⑤時には、あえて大袈裟に句を仕立ててみる。  
▽三食は魔法をかけて作れたら 開子

お気持ち、よく分かります。このご時勢。  
ここはあえて、頭が重くなっても大袈裟に。

▽いちにち三食 魔法をかけて作れたら

▽ママが唾付けて痛い飛んでいけ 行久  
ママが唾付けたら痛み飛んでった

▽ママが唾付けたら痛み飛んでった

▽魔法びんの中の地酒をちびり飲む 三樹夫

▽地酒ちびり飲むでも減らぬ魔法瓶

（○は佳句。◎は優秀句）

○気が付けば妻の魔法にかかった (川) 信子

○知ってるよ魔法はいつかとけるもの 弥生

○諭吉さん崩すとすぐに消えちゃうよ 不二夫

○少年は魔法の杖を持っている よしお

○解けていくアベノミクスという魔法 通則

○母の手に魔法が宿るはた織機 貴美江

○かけられた魔法気分はシンデレラ くみ子

○野放しのように大きな母の愛 佳子

○新婚の魔法が解けてから長い 令位子

○一日をやりくりしてる魔法の手 紀美代

○使えるが魔法封印して生きる 睦子

今月の卒業生は、神戸市の松倉正美さん。

○母ちゃんのちんぷいぷいよう効いた 正美

「魔法」の題で、ちんぷいぷいは、あまりに平凡。でも、3句全体の力量は本物。

これからの正美さんに必要なのは冒険心。

つまり、「母ちゃんのちんぷいぷい」は捨てて、もっと別な切り口を探ること。

◎魔法の靴一役買って新記録 正美

目の付け所が面白い。視点はとっても大事。

○ドラえもんはええなあまほうつかえるし

この句もそう。眩きが楽しい。頑張つて。

# 川柳塔鑑賞

同人吟 緒方 美津子

— 6月号から

保険証も生きると言ってくれている

山田 耕治

保険証はどこに行くにもついてきてくれます。元気になってほしいと。長寿社会、老いてなお頑張れとエールをくれている気がします。いつまでも、プラス思考でいきたいものです。

集合写真いつも後方左寄り

島田 千鶴子

思っていることを言っていたきました。この位置が一番安定します。確かに参加しています。顔は見えます。

全体は見せません。帽子も邪魔になりません。カメラマンには笑顔です。

何処でも生きるとスマイル崖に咲く

前田 楓花

小さなスマイル、生きる場所を自分で探すとは、野草の逞しさでしょうか。

道端で群れて咲くより、崖の上で自己主張。とても可愛く、あっぱれでもある。

こんな中災害あればどうするか

星野 育子

災害国日本。コロナ禍の中、地震速報が流れます。油断も隙もありません。

気を引きしめて暮らさねば。

コロナなど無縁と思うのが怖い

島 ひかる

心配をしだすとみんな怖くなる

坂 裕之

溜息をマスクの中でそとと吐く

山岡 富美子

このように心身共に揺れています。コロナウイルスを抜いては考えられない今日此の頃です。

コロナ旋風気にもならない九十四

高杉 千歩

この開き直りが、すばらしい。

気持を強く持てばいいのですね。普段より規則正しい生活をされているのだと思います。くよくよせずに大らかに。氣持の持ち方を学びたいと思います。

郵便切手紙めずに貼れる新時代

今 愁女

長い道のりでしたけど、うれしいです。いそいそと投句。私もシール派です。

フライドの壁低くして風を入れ

福井 菜摘

あまり背伸びせず、いろいろな風を遊びたいものです。やわらかく生きようとされる菜摘さんに賛同。「風を入れ」が、気に入りました。

主婦業の卒業これからが佳境

石田 ひろ子

そうです、今まで世話ばかりやいてきた主婦業。卒業して、自分を取り戻します。仲間と旅行、カルチャーへ。またボランティアと、夢は広がります。長寿国の有り難さ。第二章を有意義に。

ロボットでは出来ぬ感覚耳掃除

加藤 茶人

世はまさにロボット時代となりました。ロボットに使われるようになるかも知れません。しかし耳掻きを操作するこの微妙な感覚、これはロボットには譲れない、人間さまの妙技ですね。

長命にサプリメントのせめぎ合い

小沢 淳

毎日毎日これでもかと思う程サブリのコマーシャル。腰に足に認知症にと、高齢者をターゲットにしています。大なり小なり症状はあります。みんな買っていないとたまりません。情報の選択に苦慮します。しっかりと食べて寝ることに。

白イチゴ甘い赤い味が無い

坂上 淳司

高級白イチゴ、もちろん糖度は高く、生産者の努力あって生まれ、市場にお目見得した高嶺の花です。こんな視点から句が生れました。白と赤、味に違いはあるか、私も気になります。しかしまだ庶民の味方は、安くて子供もケーキも喜ぶ赤いイチゴのお味の方がいいかも。

いつからか自分に甘くなっている

米澤 俣子

そうなんです。ついつい楽な方に走り、自分を許してしまいます。いつも「まあいいか。」あとでしよう。」と流している。その時はよくても、いずれ「つけ」がくるかも、と思いつつ、目を瞑ります。この句に少し反省させられました。

命あるものみな愛し今生きて

久保田 千代

二度、三度手術をのりこえてこられて、いろいろな事を考えられたことでしょう。忙しく走りまわっていた時のことも思い、生きること、命とは、思いを馳せられた事でしょう。句に重みを感じます。

フルーツに癒されてゆく早春賦

小谷 小雪

こんなうきうきする春らしい句に会うと何だかほっとしますね。

例年ならば、こんな楽しい句が作られ、心もやさしくなる季節なのに、今年ばかりは、オリンピックも、春夏の高校野球も消え、淋しい限りです。だからこんな句に心癒されます。来年からは、心弾むような句が並びますように。

それぞれの立場で座る春の椅子

川崎 ひかり

新学期が始まり、新しい教室の椅子であったり、就活から会社の椅子に、退職して我家の椅子にゆっくり掛けてみたり、新しい生活を支える椅子達。種々の生活パターンの見える句だと、感心いたしました。

恋でした君にほろ酔いする桜

藤井 智史

久しぶり春と恋の句に出会いました。躍動する春、弾ける恋、いいですね。ルンルンです。梅雨も猛暑も何のその。もう土に愛してもらえない素足

居谷 真理子

そういわれれば土を踏む感触を忘れています。アスファルトに馴れ、靴に靴下に守られ、素足になるチャンスはなし。たまには裸足で川底を、畑の土を。手でさわる土と、足の裏に感じる土とは、違うと思います。考えさせられました。

身の置き場なくて急須の蓋になる

石橋 芳山

目立たないが、全体が見渡せる絶好の場所、人間観察にもっともいい位置取りになります。ペットボトルにない豊かさ、聞き上手にもなれそう、お茶の側ではみんな心が和みます。絶妙な場所を見つけました。急須の蓋に脱帽。

実る頃句会再会できるよ

竹信 照彦

どうか秋には完全に句会が再開できますように。これぞみんなの願いです。

# 水煙抄鑑賞

— 6月号から

清水英旺

パレットに溶かす今年の夏の夢

喜多村 正 儀

鮮やかな色彩で画かれるはずの楽しい夏の夢が、新型コロナウイルスのせいで、変色しなければいいのですが…。

コンパスで書いた円から出られない

廣田 和 織

自分の堅い殻を破れない。そのもどかしさよく分かります。だったら、半径を少しずつ大きくしていけば、円は広がり、枠を気にする必要がありません。

忘れものしたような僕の人生

武田 悦 寛

さて、人生の忘れものとは何ですか。思い通りに成らなかつた人生を振り返れば、やり残した事が何と多いことか。ふと空しさを感じるのでしょうか。失われた恋もその一つかもしれませんね。

妻に感謝生きてるうちに言つてえな

助川 和 美

日ごろ心の中では思つていても、面と向かつて言うのは照れくさいのが、一般的な日本男子だと思います。でも妻としては、一言欲しいところでしょうね。

日に三度必ず笑う処方箋

石澤 はる子

毎日、食前、食後、食間に笑いたいのですね。それも腹の底から。そんな笑いつつ何時だったか忘れてしまった今日このごろです。本当に笑えない世の中—。

棒読みの答弁にない人情味

脇田 雅 美

確かに。某国の宰相の答弁には、国民を思う心がこもっていませんな。熱い夢と希望を抱かせてほしいものです。

噛み合わせぬそれでもずっと夫婦です

柴 本 ばつは

ン十年添つてやつとこ波長合

楠井 輝 子

歯車もいつの間にかみ合はず

永見 安 子

何やかやいいながら、夫婦を続けていくのですね。偕老同穴、どうぞ幾久しく。

明日への一歩今あるものを壊さねば

原 熊 知津子

よく分かつていることなんです。なにせもの凄いエネルギーが必要です。自爆すれば元の子もなくなりませよな。

無理するな今日から後期高齢者

三谷 白 黒

でも、何もしないで老け込んでいくわけにもまいりません。人生百年、これからも川柳など詠んでゆつくり、のんびり。忘れまいと覚えた花の名が出ない

宮 田 風 露

花の名前ならまだ罪は軽い。突然出会った旧知の名前を失念でもしたならば、それこそ悲劇です。

年金が生きてますかと聞いてくる

岡 本 勲

豊かな年金暮らしをしているわけでもないのに、追い打ちをかけるような冷酷さが、心に響く一句です。

癌手術あれから五年澄み渡る

原 徳 利

再発の恐怖から解放されたその喜び、安堵感が、下五によく表わされていると思います。本当によかつたですね。



ゴミを考える

私たちが快適で安全な暮らしを楽しめるのも、数え切れないほどの便利な発明品のおかげです。しかし、愛用している道具や電化製品も経年劣化は避けがたく、いずれは買い換えられて廃棄処分されます。人類の課題の一つが「ウィルスの闘い」であると言われていますが、この「ゴミ処理」も世界的に大きな問題となってきました。

ゴミの日に必ず捨てるゴミがある

ゴミとする勇氣娘に背を押され

大声で笑う両手のゴミ袋

おしゃべりをせぬよう結ぶゴミ袋

おとなりと同じぐらいのゴミの量

いじましく詰め込んであるゴミ袋

ゴミ袋詰め込み方にある美学

高齢になって、彼岸がチラチラ見えるようになってきますと、残った家族が困らないように預貯金の整理や借金の始末をしなければなりません。同時に、使う物は出来るだけ絞って、身の回りをスッキリ片付けておきたいものです。

一年間着なかった衣服は死ぬまで着ないでしょう。一年間手にしなかった書籍も同じです。そのようなものは思い切って捨てなければいけません。但し、ゴミ袋は家庭の事情を喋りますのできっちり口を結んでから捨てましょう。

もともとはゴミでなかったはずのゴミ

即ゴミになるが便利な紙コップ

飛んでいく風船すぐにゴミになる

ゴミ箱の中でも磁石北を指す

父のギターポロンと鳴らしゴミに出す

ひとつゴミ落とせばゴミは積もり出す

土砂降りて側溝のゴミ流れ去る

最初から「ゴミ」として生産された物などはありません。

紙コップもゴム風船も、使用後はすぐゴミとなる運命ではあります。使用者が手にするまではゴミではありません。

公園の隅や電柱の陰など、人目に立たぬ場所も綺麗にして

いるとポイ捨ても気が引けますが、空き缶が一つでもあれば

たちまちゴミがゴミを呼んでゴミの山。見ぬふりをしていた

側溝のゴミは雨が流してくれました。

神様に好かれたいからゴミ拾う

ゴミばかり拾って歩く癖がある

拾ったゴミ同じ地球に片付ける

過疎ですが都会に負けぬゴミの山

人煙の稀な辺りにゴミ処理場

アルプスの山にもゴミの回収車

金儲けのゴミに窒息する地球

車の窓からポイ捨てる不心得者もいれば、黙って拾う人もいます。しかし、「天網恢恢疎にして漏らさず」。大いなるものは総てお見通し。ポイ捨てる人と黙って拾う人を秤にかけたとき、後者を虫屑にしたいのには神様も同じでしょう。

ゴミの殆どは、私たちが便利に使った物や賞味期限切れの

食品などです。それはまた、商魂逞しく業者が次々と市場へ

送り込んでくる膨大な商品のなれの果てでもあります。

寺原 千代

柴田 和男

渡辺 富子

毛利 由美

福士 慕情

岡川 勝司

炭蔵 正廣

佐藤 千四

小林 妻子

田鎖 晴天

楠本 晃朗

奥澤洋次郎

三宅 保州

小谷 小雪

丹羽 杏

多田 誠子

平木 公子

侯野登志子

近藤ゆかり

柔原 道夫

寺川 弘一

近藤ゆかり

丹羽 杏

多田 誠子

平木 公子

侯野登志子

近藤ゆかり

柔原 道夫



(投句221名)

コロナ太り、コロナ疲れ、  
コロナ離婚などなど、この  
三ヶ月ほどでいろんな言  
葉が出てきました。



それから、どこかの知事  
さんの横文字好きのおかげ  
で、耳慣れない横文字にも  
ずいぶん慣らされたように  
思います。  
夏でもマスクかと想像すれば  
やり切れませんが、すこし  
落ちてきた感のある  
コロナ、どうか収束を  
と祈るばかりでは、  
ナビです

三田市 北野 哲男  
ああヒト科ブラックホール程食へる

(評) 際限なく食べ物  
を口に運ぶ様子はまるで  
ブラックホールのように  
満腹でも食べるのは  
ヒトだけです。

朝霞市 前田 洋子  
一度だけ言うよ得するハナシだよ

(評) はいはい、よく聞か  
せて頂いて

パツチリ得させてもらいま  
すわ。早く言って下さいな。

奈良市 高橋 敬子  
巢ごもりに財布も眠る三日間

(評) 確かに、外へ出ない  
とお金は殆ど使いません。  
だからと言って巢ごもりも  
あまり長いと大変。

五所川原市 むらのひとり  
商売はそんなに脆いものなの  
か

(評) 緊急事態宣言で倒産に  
追い込まれた多くの企業や  
商店、そんなにも余力が  
無かったのかとボーゼン。

米子市 池田 美穂  
ピノキオを飲みこんだのも  
私かも

(評) ふと気付けばピノキオ  
がいません。夢中で飲み  
食いしたから、何を胃の中  
に収めたか記憶に無いのは、  
ちよつと怖い。

奈良市 大久保眞澄  
口を開けば経済効果などと言  
う

(評) 今の諸国の事情から  
すれば、とにかく経済を回  
すことが大事、効果とまで  
言える余裕があるかどうか。

明石市 梶谷 和郎  
ア行からワ行まで売るのが  
商社

(評) 何だか抜けない悪徳  
商社のように見えますが、  
これぐらいでないとい  
世界では通用しないのでし  
ょうね。

笠岡市 藤井 智史  
苦にならぬひとりカラオケ  
三時間

(評) ひとりカラオケつて  
結構人気があ

るそう。他人のヘタな歌  
聞いて待ち時間を無駄に  
するよりはいいかも。

高槻市 初代 正彦  
飢餓の国あるのをあなた  
ご存知か

(評) 食品ロスを何とかし  
ようという動きをニュース  
で見たりします。自分の家  
の台所を見直すだけでも  
皆がやれば…。

西宮市 亀岡 哲子  
アルバムのあなたと喋って  
いる自粛

(評) 自粛生活とはいえ、  
たまには誰かと喋りたい  
です。アルバム相手では  
返事は無いけれど、アー  
懐かしい。

米子市 吉田 陽子  
泳げそうな気がするすべ  
て吐き切った

河内長野市 山岡富美子  
コロナ禍も噂も節操に欠  
ける

弘前市 福士 慕情  
外来魚日本の湖沼食い荒  
らす

唐津市 山口 高明  
プライドが邪魔して言えぬ  
アリガトウ

香芝市 大内 朝子  
取り敢えず腹を満たして  
考える

鳥取市 夏目 一粹  
無観客慣れ独り言あちこ  
ちに

土佐清水市 辻内 次根  
個人情報があ闇魔帳に載  
っていた

樺原市 居谷真理子  
憂き事はみな飛んでいけ  
風力5

米子市 八木 千代  
特大のマスクどこにもあ  
りません

丹波篠山市 酒井 健二  
でき過ぎた花を造花と見間違っ  
三田市 大西 重男

手作りのマスクが届く果報者  
大阪市 小野 雅美

毎日がスベシャル感謝しなければ  
箕面市 出口セツ子

元氣出る魔法下さい鯉のぼり  
松山市 大内せつ子

ごめんなさい吸引力が売りなのね  
佐賀県 真島久美子

確かめてみますか君の喉仏  
奈良市 山本 昌代

おーいおーい五月の空は大威張り  
大阪市 岩崎 玲子

ゴミの日に時時懺悔しています  
弘前市 高瀬 霜石

ペラペラのほくを支えてくれる辞書  
松山市 柳田かおる

自粛には笑い上戸で乗り切る野  
三田市 野口真枝子

飲み込んだ言葉がからみ五月病  
高槻市 松岡 篤

連休は家に居ました食べました  
鳥取市 田中 天翔

アマビエの団扇でコロナ扇ぎたい  
彦根市 川本 信子

法学部出たのに息子ミュージシャン  
大阪市 江島谷勝弘

ジンベイザメはなんでも食べるのかい

大洲市 花岡 順子  
少年の頃には夢が生きていた  
和歌山市 まつともとこ

オゾン層壊さぬように掃除する  
大阪市 柴本はつは

わあ硬いもんばつかりやよう噛みや  
鳥取市 竹信 照彦

星が降る夜は潜って深海魚  
藤井寺市 鴨谷瑠美子

目に若葉鱈のたたき膳に出す  
大阪市 平井美智子

ボン菓子のボンから古里へ帰る  
松山市 郷田 みや

五月晴れ言いたいことは言えました  
唐津市 仁部 四郎

円にドル元にユーロもみんな好き  
鳥取県 斉尾くにこ

密約をしてから口元がゆがむ  
大阪市 田中ゆみ子

天国か地獄か食べ放題の皿  
仙台市 月波 与生

非常口出ると他人になるふたり  
大阪市 内田志津子

食べて寝る免疫上げるキーワード  
三原市 笹重 耕三

ふる里へ戻ってけると言ったのに  
鳥取市 谷口回春子

無駄口が多い説明時間ロス  
豊中市 松尾美智代

ふくらんだ希望今では遠い夢

富田林市 片岡智恵子  
薔薇百本送りたし母はいず  
大阪市 坂 裕之

餌を撒き食い付く時を待つ漁師  
鳥取市 奥田 由美

片思いが弾けて飛んだ彼の老い  
西宮市 緒方美津子

断捨離をやりすぎ自分見失う  
今治市 永井 松柏

よく喋るハニートラップとも知らず  
可見市 板山まみ子

お互いの過去は飲み込み前を向く  
堺市 内藤 憲彦

百歳に向けてしつかりポイストレ  
岡山市 大石 洋子

プラグミを食べた鯨の大逆襲  
吹田市 山本希久子

日常に潜む宝もバイ菌も  
奈良県 室田 行久

交響曲終章までに眠りつく  
大山市 金子美千代

思い出は胸にアルバム整理する

### 9月号発表 (7月15日締切)



(平本 霧石人 画)  
柳箋に2句

# 主幹・理事長の選任について

川柳塔社

今年主幹・理事長の改選年に当たります。

立候補者は下記の「主幹・理事長の選任に関する規則」に基づき期間内に事務所（06-6779-3490）へ申し出て下さい。

総務部

## 主幹・理事長の選任に関する規則

- 1 主幹・理事長を選任するための投票は、すべての代表役員・執行役員と相談役および参与によって行う。ただし、会計監査は投票に参加せず、選挙を管理して投票結果を常任理事会に報告する。なお、主幹・理事長の選任に関する事務は総務部で担当する。
- 2 主幹・理事長を選任するための投票は2年ごとを原則とする。ただし立候補者が一人の場合には選挙は行わず無投票にて選任する。
- 3 主幹・理事長が退任（定年を含む）する場合において後任の立候補者がいない場合には、主幹、理事長、副主幹、副理事長が協議の上、次期候補者を推薦する。
- 4 複数の立候補者がある場合には選挙により決定することとし、最高得票者を当選者とする。
- 5 主幹・理事長の立候補資格は、同人歴10年以上の者とし、同人15名以上の推薦を得た者、または現任主幹、理事長、副主幹、副理事長協議の上推薦を得た者とする。
- 6 立候補の受付は、7月1日から10日までに川柳塔社事務所総務部宛て必着とし、投票は7月中に所定の用紙によって行う。
- 7 この規則は、平成23年7月7日から実施する。  
この規則の改廃は、常任理事会の決定によらなければならない。



毎月24日締切・35句以内厳守  
掲載は原稿到着順となります。  
楷書で誤字のないようにお願い  
いたします。  
編集部

川柳塔なら

大久保眞澄報

まだという言葉葉えにチャンス待つ  
コロナ奇禍チャンスと捉えテレワーク  
ワンチャンスこそ勝負のはつけよい  
逆転のチャンス溜めてる徳俵  
夜核がシャッターチャンス待つてます  
網不在漁夫の利を得た徳勝龍  
今がチャンス濃い目のルージユ引き直す  
チャンスだと利用し過ぎたつけが来た  
ウインクできわどいチャンス作り出す  
病得て子等に甘えるチャンスかも  
ダメもとを乱発し過ぎ嫌われる  
娘のしくさシャッターチャンス逃さない  
風読んでも読んでも旅立つ遣唐使  
何歳でもチャンスはあると暗示かけ  
「米貸してあっけんからんと助け合う  
下町が似合う寅さんだから好き  
義理人情がステテコはいて将棋指す  
駄菓子屋の昭和の風が心地よい  
N A S A を支える日本の町工場

江里子 優  
比呂志 美  
千代美 作  
満作 子  
万紗子 子  
萌子 子  
洋子 子  
菜子 子  
和夫 子  
榮子 子  
崇明 子  
敬久 子  
行久 子  
保州 子  
貫主 子  
良一 子

下町で育ち培うド根性  
爺婆が見守る町の子は宝  
下町の技術世界を凌駕する  
下町に生まれ出世払いの恩がある  
わたくしの一揆下町へ夢を盛る  
アメリカの都合五輪は夏盛り  
宇宙人私にキッスしてくれる  
マイカーの運転なんでマスクする  
合鍵が合わなくなった昨日から  
廃棄物積んで原発再稼働  
ガラガラの電車の吊革持つつ男  
大臣はみんなエライと思つてた  
命かけた抗議を総理他人事  
春というのにこのさみしさは何だろ  
う

川柳塔みちのく(青森) 稲見 則彦報

コロナ禍の暇再起の想を練る  
暇な人隣をやたら気になさる  
オンエアされる長い長い列  
晩学の寸暇を惜しむ好奇心  
小指チリチリ啄木の砂と居る  
我ながら上手に暇は見つけます  
知恵のある行列続け生き延びる  
砂浜にそつとストレス捨ててくる  
剪らないでやがて小さな実を結ぶ  
賞味期限過ぎた匂いでまだ青い  
コロナ来て暇持て余す子等哀れ  
とりあえず並んで仲間同化する  
余暇という心和ます潤滑油  
少年よ泣け泣け甲子園の砂

壽峰 勝代 雅昌 恭昌 美智子 俊雄 舞夢 純子 盛隆 富郎 史郎 眞澄 文聡 理恵 勝弘

暇つぶしできる自由の有難さ  
肅々と咲いて散ります花筏  
火遊びの相棒ときまじ砂糖  
砂糖まく蟻の先頭夫だった  
手間暇は惜しまぬ妻の美顔術  
無観客さくらが暇をもてあます  
マスクより花見だんごの列がいい  
砂掘つてほつて醜い過去埋める  
祝定年メタボ街道まっしぐら  
休日暇を暇にさせない同居人  
葬列を掻き乱してのコロナ菌  
休服簿に旅とは書けずついた嘘

川柳塔打吹(鳥取) 斉尾くにこ報

新緑の匂い一杯吸つて吐き  
雑草の緑にこめる力瘤  
花散し草木の新芽緑なる  
うさうさの数ほどきつと幸せも  
ドキドキと聞きうさうさする通知  
うさうさで炊事もします孫が来る  
うさうさときと背伸び始めた庭の草  
うさうさときと菜の花ロード新入生  
うさうさときと咲いた桜も人恋し  
お誘ひが有れば浮かれるまだ卒業  
置き場所に困る春のうさうさ感  
ひらめきが夜中に突然やつてきた  
ひらめいた明日の仕事の手抜き方  
ひらめきは深夜に湧いて風に散る  
花が咲き旗はひらめくランドセル  
万国旗ひらめく空を見失う  
ひらめきがミシユランになる日本食

洋子 風来坊 和香子 慕情 美鈴 規子 ひとし 吹喜 ちづ子 龍馬 ひろ



嘘ひとつ抱いて悩みが深くなる  
泣き笑い今日も浮世の日が暮れて  
とは言えど便りのないのは不安です  
飯まだかにスイッチ入れてまあだだよ  
百歳の喜怒哀楽の深い皺  
石積み陰で支えをする小石  
深読みの出来ぬわたしの上滑り  
どう跳ねたつて自分の巾は忘れない  
絵手紙に春の小川の音を聴く  
スイッチオン今日の予定は目白押し  
向き合えるしあわせほっこり定番茶  
マスク添え外出禁止置き手紙  
脚光はなくても路地に咲くすみれ  
蹠いた数が明日の糧となる  
ほんとうの深さ溺れてからわかる  
スイッチに触れて反転するドラマ  
自分宛今日も手紙を書く日記  
スイッチを切ったかどうか気にかかる  
起こさないでノンレム睡眠の途中  
深読みをしすぎて答え見つからぬ  
スイッチが入って個性発揮する  
推敲をする度文が短なり  
封切れば友のやさしさドレミファソ  
督促の手紙に一句添えてある  
直筆の手紙が醸す懐かしさ  
ラブレターなら誰よりも上手いです  
ダイエット今日もスイッチ故障する  
昨日今日明日へと繋ぐ糸を編む

川柳同友会みらい(鳥取) 吉田 陽子報

幸子 千鶴 俊介 美羽 彦泰 義弘 あき子 悦男 眞知子 明子 知香 康則 よしこ 八重子 保州 富香 純子 宏枝 理恵 和子 幹子 美枝子 かず子 敏照 ひろ子 昇 智三 准一 倅子

歌壇から悲鳴聞こえる名残り雪  
十パーが家族の脳が深呼吸  
合格へ家族の脳が深呼吸  
店員のセンス持ち込む試着室  
喫茶店昭和が香るマイカツプ  
ウイルスに背中丸めている地球  
コロナ菌知らぬ桜が全開に  
菜の花とさくら共演して嬉し  
花で飾ると心の鬼が逃げてゆく  
世情など人間のこた花は咲く  
一昨年は母が生きてた桜咲く  
寄りかかる柱になるとプロポーズ  
輪になるとつい賛成へ手を上げる  
枕ボンボン明日もいい日であるように  
名ばかりの春ですベンも重くなる  
健康ならあなたを少しリードでき  
うれしいと弾んだ影が付いてくる  
大学に憧れている白い雲  
笑ったな泣いたなよれよれの靴よ  
木の芽和えあつという間の句でした  
信じるって軽い言葉のように言う  
3蜜へ壇蜜さんは好きである

岸和田川柳会(大阪) 石田ひろ子報

美恵子 青春 安奈 悠奈 新二 みどり 章子 和代 游子 れい子 節子 健二郎 洋二郎 和郎 七絵 華蓮 真帆 八重 親洋 陽吉 ダン弘 公弘 美信 康信 和美 万彩 富美子 ひろ子 ダン吉

逝きし娘の足音耳に残ってる  
国民の声は雑音ではないぞ  
菓飲むゴクリ命の音がある  
沖繩の空に騒音鳴りやまず  
岸和田のだんじり囃子天下一  
作り方まねても母の味が出ず  
窓際の案山子が言った味なこと  
姉の味私の味も母の味  
味のある一言元氣沸いて来る  
人生の伴侶やつぱり妻の味  
日本が世界に誇る米と水  
封を切るまではわくわくしたけれど  
わくわくを見つけて老いの脳サブリ  
老人会診察済めばカラオケに  
わくわくで出て会った頃に戻れたら  
開幕のわくわく感が堪らない  
終息の日には世界がカーニバル  
休むこと知らない母の医者知らず  
別腹がタフで出来ないダイエット  
タフガイで容赦はしないコロナ菌  
タフな人かげでしっかり汗してる  
野次馬の精神だから老けにくい  
天災に人類タフに耐えてきた  
タフガイも涙にもろいハート抱く  
粘り腰知っているのは徳後  
タフでした戦後の母の産み増やせ  
国難もプラス思考で生きてタフ  
くじけない負の経験があればこそ

珠子 保子 輝也 玄雄 隆勝 昭輔 大輔 規子 規子 義泰 一歩 恵子 政雄 香代 いさお 宏之 隆昭 常男 笑司 律雄 三成 喜代志 みつ江 信二 洋二 俊雄 恭子

川柳茶ばしら(愛知)

関本かつ子報

犯罪者扱ひコロナ感染者  
コロナのバカひとりぼっちの誕生日  
すれ違う猫の狙いは鯛のカマ  
早月晴コロナの街に鯉のぼり  
一生に一度になるかコロナ渦

竹原川柳会(広島)

古田比呂子報

転がった葉明日へ生きてゆく  
毎日が想定外という景色  
弟を背負い麦踏み母がいた  
小さくてもわたしの城と守る店  
休校になつても鳴り渡るチャイム  
マスク二枚家族会議に諮ります  
ウイルスに負けず桜は凛と咲く  
姉編んだ断捨離できぬセーターと  
コロナ菌世界制覇が止まらない  
前向きな友の一言胸に留め  
春嵐コロナ暴れる世界地図  
敗者でも勝者でもなくうまい酒  
橋桁がくずれる様に母が病む  
飲みたい日もあります飲め私にも  
笑つて木を作つて鳥を待つ夫  
止まらぬいつもの友の声がする  
外出自粛畑耕す今日の幸  
考えをまとめる間合い肥後の守  
青空より暗いニュースはもう見ない  
お彼岸の亡夫と頂くさくら餅  
ふとんにくるまつて私ダゴン虫  
勝負勝負人間負けないうコロナ  
普通とは幸せだったと思う今

遡行 美千代 雅美 かつ子  
鬼焼 宣之 寿子 夢香  
昭紀 育子 歩美  
輝恵 淑美 汎美 幸子  
節夫 慶子 貞子 千代美  
規代 栄香 弘子 敬子  
厚子 比呂子 史子

はるのかぜすーっとくもがうごいてる

真備雄節恋う杯を傾けて

四歳ち 蘭 幸

川柳さざやま(兵庫)

北澤 稠民報

卒業ない人生が面白い  
句作りは終点のない可能性  
「出歩くな」俺は勝手に徘徊中  
コロナ禍へ飲んで消毒務めてる  
衣替えするたび縮む老いの坂  
制服の試し着をして五月待つ  
世の動き止まると曜日いっただけ  
いにしへの柱時計が時告げる  
品切れが今懐かしい芋の蔓  
恙ない暮らしを願ひ窓開く

北哲男 稠民 善輔 剛 重男 喜弘 照代 哲夫 美智子

城北川柳会(大阪)

近藤 正報

写経する筆の先から澄んでいる  
ざわざわを街から消していくコロナ  
一病をバネに生命力燃やす  
コロナなど気にせず四季の花は咲き  
ウイルスが奢るとヒト科を巴投げ  
医師看護師に感謝の拍手止まらない  
清い仲続けようねと釘を刺す  
世界中ざわざわさせる見えぬ敵  
シャッター街看板だけは生きている  
看板はどれも駅から徒歩五分  
コロナ禍につくづく亭主留守がよい  
楽しみの句会もコロナ皆つぶす  
皆と又会いたいもど何時の日か  
敬老バス眠つたままで家に居る  
自粛ムード脳も身体も軋み出す

星雨 かずお 朝子 野鶴 直樹 義昭 郁夫 廣光 正彦 洋志 俊雄 五月 満知子 満子 満作

エレベーターの鉤押してる爪楊枝  
収束を唯々折るウイルス禍  
子や孫に負担背負わす十万円  
湧き水に食い付いている登山靴  
ほどほどの程にうなずく事はかり  
この人どう会うことはずないだろ  
緩やかな坂道だけ息上る  
もの言わぬ蟻になるまい戦中派  
円やかな石が流した汗の量  
熨斗袋やわらかく春の雲  
残照に母の余韻を深く見る  
医は聖職コロナ終へとも忘れない  
閉ざされた日日へはつこりする手紙  
どうであれ命を繋ぐ策を練る  
コロナ禍も散歩に出ます弱るから  
朝寝よし昼寝またよし自粛よし

博 克己 実 志華子 峰子 宣子 和夫 堅坊 弘委智 麗 賢子 信子 勝弘 正

西宮北口川柳会(兵庫)

緒方美津子報

カルチャーの卒業証書十枚目  
返納でアツシー君も卒業だ  
定年に家事卒業と妻笑う  
学舎の記憶をつれて門を出る  
備忘録書いたことさえ忘れてる  
嫌なことも忘れ笑顔の認知症  
記憶にございませんと胸をはる  
五百円玉パットと見つけてサツと取る  
きのご雲しかと記した備忘録  
敬老バス忘れたときの情けなさ  
ああしてて億ション三つ持つてはる  
なりふりに気にしてるのにもってません  
抜け落ちた記憶がひよいと蘇る

一徳 正和 敦彦 正弘 弘子 堅坊 伯備 宏造 野鶴 勝弘 廣光 宣子

どなたです息子忘れてた親介護  
 長生きに役立つている物忘れ  
 仏壇にがむしやら生きた親が居る  
 浅からぬ縁で供えたコップ酒  
 生真面目な鉛筆今日は今日を書く  
 高齢者があぶないわたし高齢者  
 思い出が今の自分を元気づけ  
 昼下がりとても静かな花の雨  
 何度でも泣いてあなたを忘れよう  
 五十年妻と埋まらぬままの溝  
 終息を祈る姿で豆の花  
 なりふりを構わず思うままに生き  
 忘れまい二〇二〇ウイルス禍  
 度忘れを補い合つて古い二人  
 句を詠むは生きてる証きのう今日  
 気のゆるみ自粛忘れて花見酒  
 苦勞人情深くてお人好し  
 心だけ残し都会へなごり雪  
 脳回路空まわりして名が出ない  
 若い事卒業しないう増やさない  
 一年も忘れず来ます誕生日

川柳塔さかい(大阪) 内藤 憲彦報

武彦 千代 哲男 哲子 紀華 求芽 盛夫 いわゑ ひとみ 洋次郎 恭子 光久 健彦 邦智 弘委智 つな子 野薫 真桜子 美津子 新録

好き嫌い言つてられるか戦時食  
 横顔が好き定位置は君の右  
 チビリチビリ烟酒二合呑む至福  
 好きだから耳はあなたに伸びてゆく  
 退院の私支える太い腕  
 北風も太陽も好き人の業  
 ミニキヤラを集めて孫の遊園地  
 手を合わすミニローソクの消えるまで  
 ミニが好き薔薇もベトナムもスカートも  
 おばんざいひと口ずつで十種類  
 ミニスカートの写真に孫が吹き出した  
 ガリバーが見れば世の中ミニチュアだ  
 正直が好きだが後で副作用  
 恋人は一人好きならたくさん  
 好きだからついじわるをしたくなる  
 今さらより今からと言う人が好き  
 ガマガエルを抱いて寝たいと豆博士  
 好き勝手言いすぎましたカレー煮る  
 戦いが好きな男の賭博癖  
 大戦を知らず平和が好きと言う  
 そもそも美しい目にもあったの  
 それなりにうまく言うからまかしとき  
 総理殿打つ手の最初マスクかい  
 相談もうまく纏まりまあ一杯  
 付度なし有無を言わせずキッス  
 空高く浮かんだ虹にまわり道

光雄 雅美 憲 瑞美子 蕉子 敏治 堅坊 八千代 扶美代 満知子 さくら 玄也 輝江 みつ子 いさお 五月 美津子 志津子 ゆみ子 和夫 朝弘 勝雄 時雄 憲彦 雅明

飛んでとんで今日まで生きて来たようだ  
 ガラガラと鳴らぬシャッター街の闇  
 がらがらビシャツ妻のご機嫌窺える  
 がらがらの幹耐え忍び芽吹く春  
 がらがらと風邪はイヤだとうがいする  
 葛城の今年のツツジ誰も見ぬ  
 がらがらとうがい隣もやっつていぬ

川柳塔鹿野みか月(鳥取)福西 茶子報

桂子 黒兎 奈津子 郁子 信男 順一 弥子 照彦 孝子 宏章 実昭 重忠 蟹郎 静恵 ゆたか ゆり子 完司 宣子 大鯨 一平 楓花 かおる 英子 孔美子 すみれ 綾子 盛恒 茶子

ほたる川柳同好会(大阪)水野 黒兎報  
 来し方の苦悩が滲み出る背中  
 母の背が見てる坊やのつまみ食い  
 背広着てネクタイ締めて家に居る  
 飛び回る子供等を待つてる青い空

茶子

ツアアウト満塁になり出番来る  
キラキラと美しい蝶毒がある  
日本列島同じ泥船我慢どき  
帳じりを合わせたはずが余る金  
農業にちようもマスクが欲しくなる  
出発の時は楽しく汽車の旅

川柳塔まつえ吟社(鳥根)石橋 芳山報

信頼の喧嘩円卓は喝采  
坂道を転がるまでは恋だった  
そろそろと終活準備始めるか  
草花を活けて素材と取り戻す  
オンとオフ気分さ々カメリオン  
あの人がころり傾く何かある  
ウオーキング始める靴も歌い出す  
今日一日へスウィッチオンの水一杯  
アペノマスク二枚じゃタスマニアデビル  
転ばぬように三角形になつて  
朝露を受けるも草は笑い出す  
職退いて道草という旅にでる  
言負けた日には八時に寝てしまふ  
弾尽きるまで機関銃おっぱなす  
雄叫びを上げてるうちはまだ子供  
東京が遠くて来世の準備始めている  
寝たきりだけの服着てころりタンゴ虫  
ありつたエンジン叫ぶ朝の庭  
次々とエンジン叫ぶ朝の庭  
仲裁はせぬ成り行きを見ていよう  
馬鹿になれたらそらえプチ家出  
レシビ書き材料そらえプチ家出  
近過ぎて一味と七味背を向ける  
負けて勝ついい姑を演じている

小 鹿  
草 文  
弘 子  
文 道  
好 幸  
弘 六  
とも子  
豊 志  
豊 仙  
禮 子  
青 帆  
知 恵 子  
米 估  
はる子  
くにご  
美 智 子  
まみどり  
紀の治  
弘 光  
心 咲  
德 利  
柳 代  
ゆ 歩  
邦 代  
由 紀 子  
陽 子  
瑞 人  
妙 子

フアスナーと喧嘩している試着室  
真白で始まり紅色になろう  
春ウララではもふもふを始めます  
天の川年に一度の叫ぶ声  
みだれ髪未練切の嵐の叫び  
始まりはどうかあれビコンを渡る

長柳会(大阪) 辻村 ヒロ報

なるようになると気づく老いの日日  
気のままにぶらぶら過ごす至福どき  
家族連れ鴨の引つ越し車止め  
ウイルスで世界経済ゆれるごく  
老人会病氣自慢で盛り上がる  
大家族休むひまないお母ちゃん  
刻まれる苦勞に耐えた母の皺  
余裕なく休暇命令つらいだけ  
日溜りで不要不急の時過ぐす  
望みませんタイヤモンドもウイルスも  
本心を平気です喋る乱気流  
傷ついて傷つけて来たことを知り  
後悔とタラレバばかりの日記帳  
種蒔いてはやチャンブルの夢を見る  
採れたてのさや剥きうれし豆ごはん  
ふたりして歩いた跡にさりげなく  
追伸にバラの見頃を待ち初な人  
真に受けてぶぶ漬けを待つ初な人  
気が付けば総理も知事も歳が下  
鮮やかに意趣返すする妻の乱  
どん底を覗いて見えた生きる道  
モグラ叩きヒト科を脅すウイルス榻  
前向きに取り組む子らにある前途  
コロナの抑止核とミサイル役立たず

勝 美  
育 子  
登 貴 枝  
一 帆  
らんま  
芳 山  
ヒロ報  
千代  
洋二  
ゆき  
おくみ  
登美子  
たけし  
旅人  
隆明  
弘美  
三和子  
敬二  
純風  
孝  
孝  
澄子  
和子  
淳司  
正美  
ふみ  
幸樹  
直樹  
隆彦  
光弘

六甲川柳会(兵庫)

梶谷 和郎報

オーイお茶今日も夫の無事な声  
さりげない癒し言葉でお茶いかが  
ご自慢の茶器に招かれにじり口  
摘みたての深蒸し新茶れの極  
集まってお茶をワイワイ懐かしい  
茶柱でプラス思考になれる妻  
幸せな人生だった茶が旨い  
お茶の深味あじわい時の自爾中  
正直にそれを言っちゃあおしまいよ  
正直に日記に鍵をかけておく  
正直さよりやさしい嘘のほしい時  
貰い過ぎお釣り返してほつとする  
正直に言わぬが花の披露宴  
寝たきりで良いぞ帰れと叫びたい  
正直に映す鏡は御蔵入り  
スパーで重いキャベツを選ぶ主婦  
君のことたとえばそれは命です  
心の荷打ち明けられて気が重い  
これ論吉何で俺には素つ気ない  
問われても即答できぬカタカナ語  
五歳児が爺ちゃん貧乏かと問う  
一人山のかい春風が問う山の駅  
富士山に登れば明日が見えますか  
問いかけに頷くだけの母となる  
どう生きるよりも空腹満たさねば  
長生きをしてねと孫の糸電話  
横文字が増え怖いコロナの棒グラフ  
優しい甘えて今年も膝枕  
亡父さんの蘭が今年も咲きました  
五体不自由なれどお酒はまだ旨い

敏 夫  
義 明  
狸 月  
克 美  
盛 夫  
廣 光  
順 子  
紀 子  
美 津 子  
崇 史  
清 之  
ひろし  
利 江  
ひとみ  
千賀子  
正彦  
松洋一  
洋勝弘  
勝勝弘  
美恵子  
和郎  
武彦  
礼甫  
保雄  
義博

粗品です言つて差し出す袖の下  
 婿と孫背合せでテレワーク  
 妻元氣これば宝と知りました  
 コロナ禍を逆手に取つてエネルギー  
 断捨離が出来ず重荷を抱えている  
 正和

川柳藤井寺(大阪) 太田扶美代報

熟睡の脇で不眠の長い夜  
 言いづらい事は言わない事にする  
 働きの極の蓋を閉める音  
 いい話なのに黙つていると言う  
 許さねばわたしが狂いそうになる  
 亡き妻よ意中のひとが出来ました  
 ゆるす気で許す理由を捜してる  
 長生きがつらいと思わせる政治  
 許してはもらえぬ過去が今光る  
 原発に想定外は許されぬ  
 桜散る一年生のつらい春  
 近頃つらい階段の昇り降り  
 つらい話聞いてあげたらどうですか  
 つらい時顔洗つてた母でした  
 看護師の笑顔につらさ吹っ飛んだ  
 つらい話にまだ続編があつた  
 扶美代

豊中もせい川柳会(大阪)初代 正彦報

薄くてもあればまだまし妻の愛  
 貫きし女の意地や薄紅梅  
 生は苦と割切る春に余寒ある  
 薄つべらい男になるな亡父が言う  
 指切りを今も信じて待つている  
 柿若葉毛虫ブランコして遊ぶ  
 歌留多

博 稔  
 和 宏  
 光 久  
 正 和  
 典 子  
 シルク  
 俣 子  
 久 仁雄  
 美代子  
 宏 造  
 かずお  
 みつこ  
 弥 生  
 六 点  
 喜代子  
 いさお  
 ダン吉  
 信 二  
 瑠美子  
 扶美代  
 英 三  
 真理子  
 武 彦  
 憲 央  
 多津子  
 歌留多

自肅には国民力がものを言う  
 ばあちゃんも薄く紅引く診察日  
 ランドセルル飾つたままに春が逝く  
 頭髮は薄いけど人情厚い父  
 和解して砂糖沈めるカブチーノ  
 花吹雪今狂わねば踊らねば  
 甘い物好きでお砂糖よく使う  
 失言をポロリとこぼす角砂糖  
 太陽を抱いては消えるシヤボン玉  
 焼き立てにはスタチンを絞る宿の膳  
 角砂糖ばかり恋するティーカップ  
 侮るな脳は砂糖で目を醒ます  
 角砂糖溶けて難問まだ解けぬ  
 言わずとも自肅自肅の老いひとり  
 塩よりも砂糖を好む楽道家  
 する事はしたはつきりと打つ句読点  
 結局はお金のことにと絞られぬ  
 得心へポイント絞る聞き上手  
 予定ない手帳にせめて花びら  
 老眼鏡拭いても晴れぬコロナ鬱  
 逆立ちにされ絞られるマヨネーズ  
 薄味に慣れて素材の鮮度知る  
 罪のないさくら静かに散っていく  
 絞りカスいいえ主役だぞとオカラ  
 砂糖少し多目に母の玉子焼  
 多美子  
 公 子  
 (永)玲  
 敏 昭  
 ヨシエ  
 野 鶴  
 忠 子  
 洋 志  
 弘委智  
 肇  
 千鶴子  
 美津子  
 希久子  
 求 芽  
 則 彦  
 美 龍  
 耕 治  
 正 彦  
 (岩)玲  
 英 旺  
 黒 兎  
 健 二  
 きらり  
 堅 坊  
 美智代  
 川柳塔なら  
 大久保眞澄報  
 生きるとは危険と隣合わせです  
 お隣も新聞とりに出るパジャマ  
 隣からカレーを運ぶ換気扇  
 終点まで隣座らぬひとり旅  
 みつこ  
 希久子  
 崇 明  
 雅 美

陽だまりのような隣の四世代  
 お隣もときどき皿の割れる音  
 夫の隣に譲つて自立する  
 倅せの隣にあつた落し穴  
 生と死は隣り合わせの砂の上  
 隣国のコロナ終息間の中  
 百歳の我儘くらいええやんか  
 ええやんと甘い男の骨を抜く  
 好きなことしたらええやん知らんけど  
 コロナ禍の菓こもり昼も夜も酒  
 生命力ええやん藤色の色つぼさ  
 少しならいいよと医者の許可が出る  
 百人がダメというけど君が好き  
 ええやんか癖も個性になってきた  
 ええやんで済ます浪速の人の良さ  
 直感ほひとりよがりに気付かない  
 残された時間は知らぬから楽し  
 少数の声が今でも耳にある  
 不和のか糞も悪夢は食べ残す  
 残飯の処理をしすぎて育つ腹  
 古傷のあとに残っている本音  
 私がいると残り香が言っている  
 残り火がチロチロ燃える老いの恋  
 言い残したことがありそな棺の顔  
 一言が言えず残つたままの悔い  
 晩学の森で残り火燃やして  
 残された毛から展開するドラマ  
 投げ頃の小石ばかりが手に残る  
 飲みこんだ石が居座る胃の重さ  
 切り札をまだ残してか妻の笑み  
 もういいやん悔いを残すから言っちゃいな  
 あかり  
 保 州  
 すみ子  
 周 子  
 すみえ  
 江里子  
 いさお  
 楓 楽  
 盛 隆  
 尚 之  
 欣 子  
 一 歩  
 (平)美智子  
 みほ子  
 寿 峰  
 薫  
 堅 坊  
 ダン吉  
 恭 昌  
 弘 美  
 弘 子  
 千代美  
 万紗子  
 則 彦  
 大 彦  
 (の)よし  
 和 之  
 良 一  
 成 子  
 俊 雄  
 優

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳 あまがさき	14日(火) 14時締切 欠片・靴・ほかほか・自由吟	尼崎市女性センター・トレビエ 2階 阪急武庫之荘駅南へ5分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川柳 たちばな	15日(水) 13時45分締切 印象吟・天(互選)・蹴る・自由吟	立花北生涯学習プラザ(尼崎市塚口町3-39-7) 06-6422-6741 阪急塚口駅北へ10分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
岸和田 川柳会	18日(土) 14時締切 宇宙・浮く・長い・センス	岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄「岸和田」駅東へ5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-13-19 中岡香代
川柳 ねやがわ	19日(日) 14時締切 席題・満足・地元・痛い 自由吟	寝屋川市民会館 京阪寝屋川市駅から徒歩15分 または京阪バス市民会館前下車 〒572-0063 寝屋川市春日町9-9 高田博泉
川柳 藤井寺	19日(日) 14時締切 媚びる・役割・席題共選	藤井寺市生涯学習センター・しゅらホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
川柳 わかやま 吟社	19日(日) 14時10分締切 兼題=うんざり・腕・プールの 課題吟=地	和歌山商工会議所 4階 和歌山市西汀丁3 6 兼題 〒649-6253 岩出市紀泉台366 藤原ほのか 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪町東2-208-5 来原道夫
南大阪 川柳会	20日(月) 13時30分締切 了見・ゆるむ・静か・雑詠	大阪市立住まじ情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1124 高槻市南芥川町9-28-901 松岡 篤
豊中 もくせい 川柳会	20日(月) 13時50分締切 棚・競う・たっぷり・自由吟	豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川柳 さんだ	21日(火) 13時30分締切 物色・爪痕・ポイント・洗う・自由吟	キッピーモール (JR三田駅前) 〒669-1545 三田市狹間が丘5-10-19 谷 祐康
川柳 すみよし	25日(土) 14時15分締切 風船・引く・ビール	住吉区役所内 住吉公民館 2F 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
和歌山 三幸柳会	25日(土) 13時15分締切 忘れる・鳥・ドア	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸柳会」宛
はびきの 市民会 川柳会	26日(日) 14時締切 音・育つ・わざわざ・席題	陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川柳 ふうもん 吟社	26日(日) 13時から 自由吟・あの頃・惜しい・沈む 席題	県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町21 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥

★「緊急非常事態宣言」は解除されましたが、各地句会の変更が予想されますのでご承知ください。

## 7月各地句会案内

(開催日順)

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳塔 な	2日(木) 14時締切 アレルギー・弾ける・いかが	奈良市立中部公民館 4F 奈良市上三条23-4 近鉄「奈良」駅④番出口 徒歩5分 〒633-0054 桜井市阿部787 安土理恵
城北会 川柳会	4日(土) 14時締切 狂う・さっぱり・平気・自由吟	旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川柳 とんだばやし 富柳会	4日(土) 14時締切 封・くつきり	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m 〒584-0064 富田林市不動ヶ丘8-31 山野寿之
倉吉会 川柳会	4日(土) 14時締切 ぎゃあぎゃあ・出来心・作る 席題	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072-17 谷口次男
川柳塔 まつ 吟社	4日(土) 13時30分締切 「飛ぶ・跳ぶ」・鳴る・臭い・縫う	松江市雑賀公民館 〒690-1223 松江市美保関町釜浦222-1 相見柳歩
川柳塔 さかい	9日(木) 締切 いじわる・暑い・流れる・折句:お・や・ま	投句会に変更
あかつき 川柳会	10日(金) 14時締切 釣る・峠・余白・時事吟	大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2F) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
川柳大阪	休会	〒534-0021 大阪市都島区都島本通4-11-6 山崎珠生
六甲会 川柳会	11日(土) 14時締切 席題・血・ちっばけ・進む 自由吟	六甲道勤労市民センター 5階 E室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4-11-11 上田和宏
川柳塔 打吹	11日(土) 13時30分締切 板・潜る・ばらばら・席題	倉吉市上灘町9 上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
川柳塔 みちのく	11日(土) 17時締切 とろとろ・切手・儲ける	弘前市御幸町13-1「大成小学校地域交流室」TEL0172-32-2591 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
八尾市民 川柳会	12日(日) 14時締切 夕焼・みくびる・和む・雑詠	八尾市安中町3-5-1 渋川・安中集会所 JR「八尾」駅から徒歩5分 〒581-0083 八尾市永畑町2-1-7 土田欣之
西宮北口 川柳会	13日(月) 14時締切 絞る・駅・へとへと・自由吟	西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「プレラにしのみや」 〒663-8141 西宮市高須町2-1-31-830 福田正彦
ほたる 川柳 同好会	14日(火) 13時30分締切 海・握る・はらはら	豊中市立蛍池公民館 阪急・モノレール蛍池 蛍池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒兔

# 柳界展望

無口↓無言。P 78 中段3  
行目、目が出せず↓芽が  
出せず。

## ▽訃報△

○海老池洋さん（理事・  
千葉市）が4月28日に逝  
去。享年93。

## ★「第22回全日本川柳誌 上大」。同人成績。

全日本川柳誌上大会賞

桃谷 和郎  
小さな輪でいい始めは  
ふたりから

## ▽お詫びと訂正△

○5月号、P 3目次下18

行目、語りました↓騙り  
ました。P 72上段5行目、  
セルフ↓セリフ。P 75下

段15行目、三原市↓三田  
市。P 118 2段3行目、負

けました↓負けたんよ。  
P 120「ひとこと」覧下段

後から2行目、会食↓快  
食。

○6月号、P 1下段18行

目、磯野いさむ↓磯野い  
さむ。P 68中段22行目、  
近日開催予定。

## ▽新誌友紹介△

鳥取県 矢野 道春

紹介者 新家 完司

兵庫県 永喜 清弘

紹介者 ウエブサイト

大阪府 岡田 恵子

紹介者 平井美智子

鳥取県 田中 重忠

紹介者 新家 完司

大阪府 吉岡 勇

紹介者 川端 一步

大阪市 今村 和男

紹介者 平井美智子

生駒市 饗庭 風鈴

紹介者

鳥取市 吾郷 天遊

次回常任理事会

近日開催予定。

## 句会部よりお知らせ

川柳塔本社8月句会は、下記の要領で誌上句会といたします。  
皆様のご投句をお待ちしております。

### 記

『川柳塔』7月号に投句用紙を同封します。  
(未読の方は川柳塔社事務所までご請求ください。)

投句締切 7月31日

入選発表 『川柳塔』10月号

投句料 1000円(切手不可)

兼題 「だ け ど」  
兼題 「動 物」  
兼題 「稼 ぐ」  
兼題 「老いらくの恋」  
兼題 「傑 作」

中村 恵 選  
上田ひとみ 選  
高瀬 霜石 選  
島田 握夢 選  
小島 蘭辛 選

(各題2句出し)

### 問い合わせ・送り先

〒543-0052 大阪市天王寺区大道1-14-17  
花野ビル201 川柳塔社  
TEL 06-6779-3490

暑中お見舞い申し上げます

# 川柳塔すみよし

会長 古今堂蕉子

古今堂蕉子	吉川 哲矢	木白喜久栄	川端 一步	小野 雅美	奥村 五月	大西 晴雄	大隅 克博	大治 重信	榎本 舞夢	榎本日の出	江島谷勝弘	宇都満知子	内田志津子	井丸 昌紀	磯島福貴子	石橋 直子
藤島たかこ	藤井 宏造	西出 楓楽	長高 俊雄	長浜 美籠	中村 民子	中井 蒨	飛永ふりこ	田中ゆみ子	田中 廣子	立石 郁子	鈴木いさお	柴本ばっは	佐々木満作	阪井美世子	坂 裕之	佐伯ミナ子
	吉村久仁雄	横山 里子	山本 進	山根 妙子	山岡富美子	矢倉 五月	森松 芳香	森松まつお	宮本かりん	宮崎シマ子	三宅 保州	松下小枝子	松崎 大輔	増田 隆昭	前田喜与子	藤原 大子

## 川柳葦群

■主な内容

同人作品「葦群抄」

近詠作品「葦の原」

作品鑑賞 新家完司・大西泰世

柳論 エッセイ 句会報 ほか

■A5版 45頁 季刊(年4回)

年間4000円(〒込)

発行人・編集人 梅崎流青

〒832-0087 福岡県柳川市七ツ家426 TEL.0944-72-6046

振替口座 01760-2-120254

E-mail house7@cello.ocn.ne.jp

暑中お見舞い申し上げます

# 川柳あまがさき

会長 長浜美籠  
副会長 藤井宏造

例會 毎月第二火曜日  
場所 尼崎女性センター・テレビエ

北野	北川	川人	河津	釜野	片山	加川	長川	奥村	大林	大浦	江見	上田	入江	市坪	石川	池野	足立
哲男	純	良種	正治	公子	かずお	靖鬼	哲夫	五月	れい香	初音	見清	ひとみ	修平	武臣	きよみ	英坊	つな子
藤岡	福田	平井	羽奈	野口	野口	永田	都倉	谷	田中	竹山	竹林	高橋	坂本	酒井	酒井	木山	きとう
りこ	正彦	富夫	和子	雄次	真桜子	紀恵	求芽	祐康	章子	千賀子	千代子	千賀子	晴美	健二	紀華	歌留多	こみつ
谷口	山田	山田	山田	榎本	岸田	鈴木	渡辺	山田	山口	森松	森松	森	森	宮崎	堀	古川	藤田
修平	葉子	孝治	厚江	宏子	万彩	新録	柳明	耕治	ヨシエ	芳香	まつお	たみえ	菊江	シマ子	正和	奮水	雪菜

暑中お見舞い申し上げます

# 川柳塔まつえ吟社

主幹 石橋芳山  
同人一同

連絡先 〒690-0001 松江市東朝日町206-7  
石橋芳山方  
TEL. 090-2003-5846

新家完司川柳集（7）

令和元年

A5判・137頁・ソフトカバー

ご注文は、1,000円+84円切手3枚（税・送料）を  
下記宛にお送りください。

〒689-2303 鳥取県東伯郡琴浦町徳万597 新家完司

暑中お見舞い申し上げます

川柳ふうもん吟社

会長 山下凱柳  
会員一同

事務局：〒689-0202 鳥取市美萩野2丁目171-3  
中村金祥方  
TEL 0857-59-1056

月例会：毎月第4日曜日 13:00～  
会場：県民ふれあい会館（鳥取市扇町21）

暑中お見舞い申し上げます

# 竹原川柳会

会長 小島蘭幸

会計 岩本笑子

ほか会員一同

暑中お見舞い申し上げます

## 湯川胃腸病院

- ・消化器内科・脳血管内科・放射線科
- ・緩和ケア（ホスピス）〔健保取扱〕

併設：デイサービス・ショートステイ

**ISO9001 認定施設・緩和ケア病棟質向上認証施設**

■診察受付 月～金 8：30～16：00（土 8：30～11：00）

JR 桃谷駅徒歩 3 分 TEL. (06) 6771-4861

湯川胃腸病院 **検索** ↗

暑中お見舞申し上げます

# 川柳塔鹿野みか月

会 員 一 同

会 長 森 山 盛 桜

暑中お見舞い申し上げます

川柳とんだばやし

# 富 柳 会

中 蘭	枳 尾	都 筑	土 田	田 中	田 嶋	関 よ し み	鈴 木	沢 田	久 世	河 野	井 澤	穂 山	秋 田
清	奏 子	文 重	欣 之	新	伸 雄	か こ	和 子	高 鷺	彦 次	壽 峰	常 男	あ か り	
他	山 野	山 本	森 下	村 山	松 本	松 谷	藤 田	福 元	堀 内	肥 山	林	中 村	
一 同	壽 之	エ ミ	よ り こ	佳 子	正 治	由 夏	武 人	田 鶴 子	き み 子	一 文	澄 子	恵	

暑中お見舞い申し上げます

# 翠 洋 会

田中 廣子	高橋 敬子	高杉 千歩	佐々木 満作	小谷 集一	古今堂 蕉子	金川 宣子	太田 昭	大久保 眞澄	大川 桃花	榎本 舞夢	岩本 浩二	指宿 千枝子	安福 和夫	安土 理恵
渡辺 富子	米田 恭昌	山本 希久子	室田 行久	前川 善之	降幡 弘美	藤原 大子	原田 すみ子	能勢 良子	西出 楓楽	飛永 ふりこ	寺井 弘子	津村 志華子	辻内 げんえい	谷口 義

暑中お見舞い申し上げます

# 川 柳 塔 さ か い

会 長 村 上 玄 也  
副会長 矢 倉 五 月

吉田 禮子	山根 妙子	向井 清	古川 光雄	日野 愿	中林 佳子	徳山 みつこ	玉瀬 富夫	田中 ゆみ子	高木 世紀子	澤井 敏治	源田 八千代	柿花 和夫	奥 時雄	太田 としお	梅木 澄空	内田 志津子	出海 素頓馬	綾田 清
米澤 俣子	山本 進	山岡 富美子	宮野 みつ江	伏見 雅明	西田 敬子	内藤 憲彦	遠山 唯教	谷川 憲	田中 廣子	柴本 ばっは	齋藤 さくら	楠井 輝子	小野 雅美	太田 扶美代	榎本 舞夢	宇都 満知子	井上 洋一	石田 ひろ子

暑中お見舞い申し上げます

# ほたる川柳同好会

水野 黒兔 中山 春代

池田 純子 小牧 信男

田中 螢柳 栗田 久子

藤原 桂子 荒木 郁子

樋口 順子 貝塚 正子

多田 契子 上田 陽子

齋藤 奈津子 上山 堅坊

倉本 一弥 中内 孚彦

藤井 則彦 中川 一

句会 第二火曜日 午後一時より

勉強会 第四火曜日 午後一時より

場所 豊中市蛍池公民館

暑中お見舞い

申し上げます

# 川柳茶ばしら

早川 遯行

板山 まみ子

山本 三樹夫

金子 美千代

脇田 雅美

関本 かつ子

暑中お見舞い申し上げます

# 豊中もくせい川柳会

会員一同

暑中お見舞い申し上げます

# はびきの市民川柳会

会長 吉村久仁雄 会員一同

岸	葛	浦	井	出	池	西	小	中	次	高	宮	助	石	松	増	雪	岩
井	城	上	戸	原	内	田	島	岡	井	橋	野	川	田	崎	田	本	佐
ふ	隆	恵	雲	誠	恭	喜	笑	香	義	律	み	和	ひ	大	隆	珠	ダ
さ	雄	子	水	夫	子	志	司	代	泰	雄	江	美	子	輔	昭	子	吉
山	向	三	三	南	藤	西	中	中	鶴	立	鈴	新	花	阪	楠	木	
内	井	宅	宅	原	岡	原	里	田	藏	木	海	篤	口	井	村		
規	保	白	夕	義	宏	は	し	信	益	信	洋	た	輝				
子	清	州	水	昭	博	こ	げ	子	子	二	二	か	子	心			

## 岸和田川柳会

暑中御見舞申し上げます

暑中お見舞申し上げます

# 川柳ささやま一同

代表 北澤 稠 民

暑中お見舞申し上げます

## 川 柳 大 阪

会 長 山 崎 珠 生

会 員 一 同

暑中お見舞申し上げます

## 城 北 川 柳 会

会 員 一 同

暑中お見舞い申し上げます

## 川柳塔わかやま吟社

同 人 一 同

事務局 〒640-8482 和歌山市六十谷1188-14

川 上 大 輪 方

電話・FAX 073-462-7229

暑中御見舞  
申し上げます

川柳塔唐津

岩崎 實  
坂本 蜂 朗  
仁部 四 郎  
前田 広 幸  
山口 高明

暑中御見舞い申します

川柳藤井寺

会員一同

代表 鴨谷瑠美子

暑中お見舞申し上げます

いずも川柳会

会長 竹治 ちかし  
会員 一同

事務局 〒693-0026 出雲市塩冶原町3-1-5 竹治ちかし方  
TEL 0853-22-4309



暑中お見舞申し上げます

# 川柳さんだ

会 員 一 同

例会：毎月第3火曜日 13時・JR三田駅前 キッピーモール6F

暑中お見舞申し上げます

# 川柳塔きやらぼく

会 員 一 同

事務局 〒683-0804 米子市米原5-1-3-304 竹村 紀の治  
TEL 0859-21-7656

暑中お見舞申し上げます

# 六甲川柳会 「ろっこうみち」

会 員 一 同

勉強会「メダカの学校」が旬会「ろっこうみち」に成長して4年  
経ちました。どうぞ皆様のぞきに来てください。

事務局：〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4-11-11  
(TEL) 078-851-5860 上田和宏

# 和歌山県川柳協会

会長 三宅 保州

副会長 川上 大輪

【お問い合わせ先】 事務局長 古久保 和子

〒640-8111 和歌山市新通7丁目17

TEL 073-423-8930

暑中お見舞申しあげます

## 和歌山三幸川柳会

主 幹 三宅 保州

理事長 古久保 和子

副理事長 喜田 准一

副主幹 川上 智三

理事 玉置 当代

” 武本 碧

” 森口 美羽

” 宇野 幹子

” 石田 ひろ子

” 山東 日出男

事務局

〒640-8111

和歌山市新通七-17

古久保 和子 方

TEL 073-423-8930

例会 毎月第四土曜日 12時30分

和歌山商工会議所

「バス停 和歌山市役所前」

暑中お見舞申し上げます

# 西宮北口川柳会

会 員 一 同

事務局 〒663-8141 西宮市高須町2-1-31-830 福田正彦

暑中お見舞申し上げます

# 川 柳 塔 社

							常 任 理 事	副 理 事 長	副 主 幹	理 事 長	主 幹
吉 村 久 仁 雄	藤 村 亜 成	松 岡 篤	平 井 美 智 子	大 久 保 眞 澄	宇 都 満 知 子	上 田 ひ と み	石 田 隆 彦	木 本 朱 夏	川 上 大 輪	新 家 完 司	小 島 蘭 幸
	森 松 ま つ お	松 原 寿 子	藤 井 宏 造	内 藤 憲 彦	江 島 谷 勝 弘	内 田 志 津 子	居 谷 眞 理 子				

川柳塔社常任理事会

# 編集後記

★政治貧しく庶民の受け  
る巨斧の跡 薫風

★「編集後記に書くこと  
か」のお叱りを承知で書  
く。新型コロナウィルス  
感染症が中国やヨーロッ  
パで拡大した時、日  
本は大丈夫だと私は対岸  
の火事を眺めていた。医  
療体制は万全、医療品は  
充分備蓄されていると心  
配もなかった。アメリ  
カやヨーロッパに比べて  
感染者や亡くなられた方  
が少なかったのは、政府  
の対策がうまくいったか  
らではない。文化や習慣  
の違い、国民性もあると  
思っている。日本人は一  
部の人を除いて社会の約  
束事を守るし、他人の迷  
惑にならないように自分  
を律することもできる。  
もともと几帳面な国民で  
ある。それらが良い方に  
働いて被害が他国より少  
なかったであろう。(外

国では偶然だとか、幸運  
だったとか見ているよう  
だが・・・)

★緊急事態宣言が解除さ  
れた。外出禁止、自粛  
の努力目標のもとに強い  
られた息詰まる日々から  
徐々に日常は戻りつつあ  
る。コロナ以後、私たち  
の生き方や暮らしも大き  
く変わりそうだ。三密を  
避け、ソーシヤリティス  
タンスを守り、マスクと  
手洗いを忘れず、コロナ  
と共存せねばならない。  
第二波、第三波も懸念さ  
れている。闘いは続くが、  
明るい明日を信じたい。  
★「アキエフジン イイ  
コデオンモデナイデネ」  
5月号、島根県の伊藤寿  
美さんの作品。お出掛  
けしたいと駄駄をこねる  
頑固な子でいる人、諄諄  
と言い聞かせている人の  
姿が視えて笑ってしまっ  
た。わずか17音、匕首を  
突きつけるような風刺も  
あれば、真綿でくるむ風

## ひとこと

### ステイホーム

自他共に認める出好きの私。コ  
ロナ禍ステイホームになった時さ  
てどう過ごそうか思案した。  
そんな時テレビで、閉店中の有  
名シェフたちが、家庭で出来るブ  
ロの味を教えてくれる番組があっ  
た。録画してそれを見ながらメモ  
し、見直し実行に移す。もともと、  
家事の中でも料理は好きな方なの  
でレパートリーは日々増え、レベ

### ルアツプしてきた。

試食は夫や娘にさせ、すこぶる  
好評。私もその気になってノート  
を作り、出来た料理を友人に写メ  
で送りレシピまで添付した。少々  
コロナ太りはしたが、ステイホー  
ムは、私に思わぬ楽しいひと時を  
与えてくれ、食卓の会話も弾んだ。  
でも解除後、私はまた羽ばたく  
であろう。上手く手抜きしつつ。

(山下 純子)

刺もある。今こそ川柳の  
力を信じたい。

★「せかいがぜんたい幸  
福にならないうちは個人  
の幸福はあり得ない」  
(宮沢賢治)。世界が分断  
されつつある今、胸に響  
く言葉。(朱夏)

△「云う」の漢字につい  
てひとこと。「云：他人  
の言葉を引用する」「言…  
なす」と『大漢語林』に  
ある。  
△「言う」と「云う」の

違いをヤフーで調べた。  
常用漢字では全て「言う」  
を使う。対して「云う」  
は旧字体で役所などの公  
文書に使い、常用漢字で  
はないので「いう」と仮  
名表記が良いとの事。  
△古くは「言」の代りに  
「云」を用いたが、今後

「云」を用いたが、今後  
は「言う」「いう」を使っ  
た方が良いのでは…。  
△また「内閣訓令…公用  
の漢字使用等」に「かつ、  
ついでには(中略)ただし、  
また、ゆえに、のような  
う。

△異論もあろうが、今  
後は是非「言う」「いう」  
及び「また」を用いて、  
川柳塔誌の読者にも統一  
感や伝われれば良いと思  
う。  
(憲彦)

## お知らせ

路郎忌本社7月句会は誌上句会として開催、6月20日締切りました。  
発表は9月号です。  
新型コロナウイルス感染症拡大の収束の見込みが立ちませんが皆様  
お大事にお過ごしください。

## 作品募集

9月号発表(7月15日締切)

川柳塔(8句)	小島蘭幸選
水煙抄(8句)	西出楓楽選
愛染帖(2句)	新家完司選
檸檬抄「起伏」(2句)	石橋芳山共選
古今堂蕉子	
インスピレーション・ナビ(2句)	大西泰世選
「まろやか」	山口光久選
「サイン」	原田すみ子選
「バラバラ」(3句)	居谷真理子担当

初歩教室「バラバラ」は10月号発表

10月号

檸檬抄「エール」  
一路集「まつり」「困る」  
初歩教室「拾う」

本社8月句会は誌上句会です  
詳細は川柳塔7月号96頁参照  
投句締切日7月31日、発表10月号  
兼題「だけど」「動物」「稼ぐ」  
「老いらくの恋」「傑作」

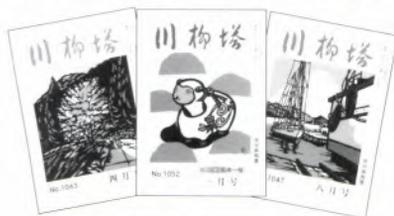
## 川柳塔柳箋

3冊 送料共 1,000円

事務所あてお申し込み下さい。

川柳・俳句・エッセイ・小説  
新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



## 美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10  
TEL (06) 4800-3018  
FAX (06) 4800-3028  
E-mail: bikenart@ea.mbn.or.jp

〒543-0052

大阪市天王寺区大道一丁目一四一七  
花野ビル201号室

発行人 小島和幸  
編集人 木本朱夏  
印刷所 美研アート

発行所 川柳塔社  
電話(06)67791349〇番  
振替〇〇九八〇四一五八四七九番

定価 八百円(送料100円)  
半年分 五千円(送料共)  
一年分 九千八百円(同)  
二〇二〇年(令和二年)七月一日発行

オニザキのプレミアムロースト

つぎごま

杵つき製法の「すりごま」



袋を開けた瞬間に広がる、

香ばしい薫り。舌と記憶に

しっかりと残る、深いコク。

料理をより美味しくする

ゴマを作りたい、真つすくな

想いから生まれた逸品。

それが「プレミアムロースト」。

素材本来の良さを余すこと

無く引き出した、オニザキの

自信作をお届けします。



株式会社 オニザキコーポレーション

〒862-0951 熊本市中央区上水前寺1-6-41 OCOビルディング

TEL 0120-30-5050

心を尽くし 思いを尽くし 知性を尽くし  
力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

医療法人社団 湯川胃腸病院



消化器科 放射線科 脳神経外科

緩和ケア（ホスピス）

デイサービスセンター併設



大阪市天王寺区堂ヶ芝2-10-2 TEL 06-6771-4861

<http://www.yukawa.or.jp>